

# 私立大学における一年次教育の 実際

(2005年3月)

私学高等教育研究叢書

4

日本私立大学協会附置  
私学高等教育研究所



## まえがき

本調査報告は、日本私立大学協会が附置私学高等教育研究所（大沼淳所長、喜多村和之主幹）を設置された2000年以来、同研究所の研究プロジェクトのひとつとして実施してきた「効果的導入カリキュラムの開発」の研究成果である。

わが国の大学進学率は1999年には概ね50%に達し、これは今後も上昇するものと予測されている。現在わが国は、万人が高等教育に進学する機会が増大する時代への移行期にあると考えられるが、こうした高等教育のユニバーサル化の進行に伴って、大学入学者の多様化も進行しつつある。学力不揃いの調整に苦慮し、補習教育的な措置を取り入れる大学や、目的意識も不明確なまま入学してきた学生への学問への導入・動機付けを目的とする導入教育を実施する大学も年々増加してきている。しかしながら、多くの大学においては、導入教育が新入生への動機付けにどのような効果をもたらすのか、導入教育カリキュラムがいかなる内容で構築されるべきなのかという点で、暗中模索の状況にあるといっても過言ではない。本研究は、こうした大学大衆化の進行に対応しきれていない大学の現状を背景として、効果的な導入教育カリキュラムの開発を目指すべく立ち上げられたものである。

一方、日本より早期に高等教育の大衆化、学生の多様化を迎えたアメリカの高等教育機関では、1970年代半ばから、学部新入生を対象とした導入教育カリキュラムやプログラム開発、授業における取り組みが積極的におこなわれている。こうした導入教育には、学業から日常生活にいたるまでの、大学生生活全般についてのオリエンテーション、アドバイザー制度、カリキュラム外での補習コースや個別指導など体系化されたプログラムが設けられ、実質的にも導入教育が高校から大学という学生の移行期を支援することで、学生の在留率改善に効果的であるとの報告もなされている。

諸側面における学生の変容を目のあたりにしているわが国においても、今後はアメリカで実施されているような学生の移行期を支援する導入教育が普遍的になる可能性は高いと思われる。効果的な導入教育カリキュラムを開発するためにも、現時点における学生の現状と大学の導入教育に対する取り組み状況を把握することは不可欠であろう。

本報告書は、第一部は、2001年に日本私立大学協会加盟校、日本私立大学連盟加盟校および日本私立大学振興協会加盟校のご協力を得て実施させていただいた「私立大学における導入教育の現状」に関する質問紙調査の結果をまとめたものである。第二部は、2003年7月に一年次生を対象におこなった「一年次教育のニーズとプログラム評価に対する調査」に関する学生に対する質問紙調査の結果をまとめたものである。この報告書を通じてわが国の導入教育の趨勢の一端が明らかになれば幸いである。

最後に、このような研究を遂行し、研究成果を発表するまで、研究所主幹として多大のご指導をくださった喜多村和之先生、そして、2004年10月以降ご指導といた

だいた滝澤博三主幹、ご支援くださった原野幸康 日本私立大学協会常務理事（現在日本高等教育評価機構専務理事）や小出秀文 日本私立大学協会事務局長、伊藤敏弘 研究所主任（現：日本高等教育評価機構評価事業部長）をはじめとする日本私立大学協会の各位、および多忙なスケジュールのなかで本調査への回答にご協力くださった各大学のご厚誼に心から感謝する次第である。この機会に関係者の皆様に共同研究者 4 名の代表として御礼申し上げたい。

2005 年 3 月

「効果的導入カリキュラムの開発」研究班

研究代表者 山田礼子

## 研究組織

研究代表 山田 礼子（同志社大学社会学部 教授）

冲 清豪（早稲田大学文学学術院 助教授）

森 利枝（大学評価・学位授与機構 助教授）

杉谷祐美子（青山学院大学文学部 専任講師）

## 目 次

まえがき	.....
研究組織	.....
目次	.....
図表一覧	.....
第一部 「私立大学における導入教育の現状」	
はじめに	..... 1
第1章 カウンセリング体勢と学生の現状	..... 5
第2章 学生の変容と導入教育の関連性について	..... 11
第3章 導入教育プログラムの実施状況	..... 21
第4章 導入教育プログラムの現状評価と課題 - 自由記述に基づいて -	..... 27
まとめ	..... 33
第二部 「一年次教育のニーズとプログラム評価に対する調査」	
はじめに	..... 35
第5章 調査結果の概要	..... 37
第6章 一年次プログラムのニーズと効果	..... 47
第7章 一年次プログラムの評価と効果	..... 57
おわりに	..... 71
資料編	
「私立大学における導入教育の現状」	
アンケート用紙	..... 73
単純集計結果	..... 83
「一年次教育のニーズとプログラムに関する調査」	
アンケート用紙	..... 107
単純集計結果	..... 117

## 図表一覧

表 0 - 1	回答学部の内訳	2
表 0 - 2	導入教育の実施状況	3
図 0 - 1	導入教育の実施年	4
表 1 - 1	学部分類別の 4 年間での卒業率 (%)	5
表 1 - 2	カウンセリング体勢と 4 年間での卒業率 (%)	6
表 1 - 3	導入教育の実施状況と 4 年間での卒業率 (%)	7
表 1 - 4	読解力の向上 (%)	8
表 1 - 5	文章表現力の向上 (%)	8
表 1 - 6	外国語能力の向上 (%)	8
表 1 - 7	学問への関心の向上 (%)	9
表 1 - 8	プレゼンテーション能力の向上 (%)	9
表 2 - 1	導入教育の必要度について t - 検定結果	1 1
表 2 - 2	実施年度別導入教育満足度、効果度、増強度の比較	1 1
表 2 - 3	学系別導入教育満足度、効果度、増強度の比較	1 2
表 2 - 4	「導入教育内容の重視度」についての主成分分析	1 3
表 2 - 5	「導入教育の内容」についての学系別合成変数 一元配置分散分析結果	1 4
表 2 - 6	「導入教育の内容」についての実施年度別合成変数 一元配置分散分析結果	1 5
表 2 - 7	「学生への現状認識度」についての主成分分析	1 6
表 2 - 8	「学生への対応度」についての主成分分析	1 6
表 2 - 9	学生の現状認識度 学系別一元配置分散分析結果	1 7
表 2 - 1 0	満足度との相関係数	1 8
表 2 - 1 1	「導入教育の満足度」の規定要因	1 8
表 2 - 1 2	学問遂行能力の向上度における導入教育内容項目の規定要因	1 8
表 3 - 1	授業以外のプログラムの内容 (複数回答)	2 1
表 3 - 2	授業科目の分類	2 2
表 3 - 3	科目類型と授業内容 (複数回答)	2 3
表 3 - 4	学部系統別の科目類型	2 4
表 3 - 5	学部系統別の授業内容 (複数回答)	2 5
表 3 - 6	導入教育の位置づけ (複数回答)	2 6
表 4 - 1	実施したプログラムの成果と課題の自由回答数	2 7
表 4 - 2	方法に関する回答	2 9
表 4 - 3	学生の知識・技能に関する回答	2 9
表 4 - 4	学生の意欲に関する回答	3 1
表 4 - 5	教員に関する回答	3 1
表 5 - 1	学習スキルに関する授業前の自己評価 (大学別集計)	3 7
表 5 - 2	学習スキルに関する授業後の自己評価 (大学別集計)	3 8

表 5 - 3	自己管理能力に対する自己評価の改善状況（授業前 - 授業後 大学別集計）	3 8
図 5 - 1	大学に関する知識の理解度の自己評価（大学別）	3 9
表 5 - 4	獲得した力量の有効性に関する自己評価（大学別）	4 0
表 5 - 5	教員評価および授業の総合的評価（大学別）	4 0
表 5 - 6	実施された指導方法（大学別）	4 1
表 5 - 7	指導方法に対する評価（大学別）	4 1
図 5 - 2	授業内で学びたい内容（大学別）	4 2
図 5 - 3	授業外で学びたい内容（大学別）	4 2
表 5 - 8	大学生活における学習活動への姿勢（因子分析）	4 3
表 5 - 9	大学生活における学習活動への姿勢（単純集計）	4 4
図 6 - 1	一年次教育受講前後の学習スキルについての自己評価	4 7
図 6 - 2	一年次教育受講後の自己評価得点の伸び	4 7
表 6 - 1	大学別過去に習得した技能の自己評価	4 9
表 6 - 2	大学別現在習得した技能の自己評価	4 9
表 6 - 3	父親学歴と過去において習得した学習技能のレベルとの関係	5 0
表 6 - 4	父親学歴と現在において習得した学習技能のレベルとの関係	5 0
図 6 - 3	成績別、入試形態別受講後の学習態度の自己評価	5 1
表 6 - 5	受講による知識・技能獲得の自己評価	5 2
表 6 - 6	大学別学習習慣の自己評価比較	5 4
表 6 - 7	学習意欲・積極的学習活動の規定要因	5 5
表 7 - 1	項目別にみた過去と現在の関係（％）	5 8
表 7 - 2	大学別にみた該当項目数の平均値	6 0
表 7 - 3	大学別にみた 「身につけていなかった／身についた」の比率（％）	6 1
表 7 - 4	高校での成績別にみた該当項目数の平均値	6 2
表 7 - 5	高校での成績別にみた 17 項目の習得度の平均値	6 3
表 7 - 6	高校での成績別にみた 「身につけていなかった／身につけなかった」の比率（％）	6 6
附表 1		6 7
附表 2		6 8 - 7 0



## 第一部

### 「私立大学における導入教育の現状」

## はじめに

山田 礼子・杉谷 祐美子

### 研究の背景

大学進学率の上昇と学生人口の減少が同時に進行するなかでの高等教育の大衆化は予想以上のスピードで進行している。大学生の学力低下をめぐる諸問題は、マスメディア、大学教員、および社会においても格好の話題となっている。しかし、問題は学力低下だけに収斂するほど単純ではなく、学生の学ぶ意欲の低下、大学生活への不適応、あるいは卒業後の社会生活の基礎となるべき友人関係や教師との関係の構築が円滑に結べない、クラブ・サークル活動への参加率の低下など諸相において様々な現象が顕著化してきている。とりわけ、大衆化の波を直接かぶる私立大学においては、多様化した学生をいかに教育し、教育上の効果を上げるかは大学にとって、学生募集とともに不可欠な戦略でもある。こうした状況を 1970 年代以降に早くから経験しているアメリカにおいては、既に導入(一年次)教育が多様化した学生をスムーズに高校から大学へ移行させる過程で効果的であるとの研究成果が提示されてきた。さらに、今日では効果的な導入教育のプログラム開発が全米レベルで企業や政府からの補助金を受けて、多くの研究、教育機関で実施されている。それでは果たして日本の大学における導入教育の現状はいかに進展しているのだろうか。

### 先行研究の検討

山田は 1998 年に国公立大学 209 校の学部長を対象にした導入教育質問紙調査結果をもとに、私立大学が国公立大学よりも導入教育の必要性を強く認識し、学力、学習意欲、社会生活等の側面で学生に対応する必要性にせまられていることを知見として得た。同時に、導入教育を早期に導入した大学ほどその教育上の効果が見られるとの結果を得た。

佐藤<sup>1</sup>、広沢<sup>2</sup>は学生の現状に焦点をあて、現代の高校生・大学生の学習レディネスの実態を分析している。しかし、導入教育そのものの概念は日本ではそれほど整理されているとはいいがたく、教員の認識も様々であるということから、実際には導入教育科目の内容も大学によって、学部によっては補習教育をも包摂しており、どのような内容が教育上効果的であるかということは不透明なままブラックボックス状態であるといわざるを得ない。

---

<sup>1</sup> 佐藤広志(2002)、「高校生の学習技術の構造」、『日本の大学におけるスタディ・スキル・テストの開発に関する研究』平成 12 年度~13 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)(2)研究成果報告書 pp. 110~125

<sup>2</sup> 広沢俊宗(2002)、「学習技術および学習特性の構造」前掲書 pp. 84~109

## 問題の設定

そこで本研究では、現在私立大学における導入教育が1998年に調査を実施した際と比較した場合、全体的状況に変容がみられるのかという問題意識のもと、以下のような問題設定をおこない調査を実施した。第一に重要視されている導入教育の内容に何らかの共通性が見られるのだろうか。第二に学生の現状は実際に様々な言説どおりであるのだろうか。第三に大学の学生をめぐる諸問題への対応状況の規定要因は何であろうか。第四に教員の導入教育への意識、かかわりはいかなる状況を示しているのだろうか。

## 調査の概要

調査は2001年10月から11月にかけて全国私立大学の1170学部の学部長を対象に調査を実施し、636学部から回答を得た。回答学部別内訳は表1に示してある。

表0 - 1 回答学部の内訳

	度数	パーセント	有効パーセント
人文	113	17.8	17.8
社会	214	33.6	33.6
理工	82	12.9	12.9
医歯	29	4.6	4.6
農水	6	0.9	0.9
総合	125	19.7	19.7
芸術体育	33	5.2	5.2
看護鍼灸保健薬	34	5.3	5.3
合計	636	100.0	100.0

(山田礼子)

## 本調査における「導入教育」の定義

ここでは、本調査結果の分析にあたって留意すべき点を述べておく。

先述したように、そもそも現状では、「導入教育」の概念について十分に共通理解が得られているとはいいがたいため、回答には各学部の「導入教育」のとりえ方が大きく影響すると思われる。そこで、回答者側では特に「導入教育」と認識していない取り組みであっても、本調査の趣旨に沿った教育であれば、できるかぎりその実施状況を明らかにしたいと考え、あらかじめ調査票ではやや広範囲にわたって次のように導入教育を定義することとした。すなわち、次の4つの側面を涵養するための一年次教育と定義したうえで、実施状況を尋ねている。補習教育(大学の学習・研究の前提として必要で、かつ本来高等学校までの教育において習得すべき内容の教育)、スタディ・スキル(一般的なレポート・論文の書き方や文献の探し方、コンピュータ・リテラシー)の教育、スチューデント・スキル(大学生に求められる一般常識や態度)の教育、そして、専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育、の4つの側面である。

ここにもあるとおり、導入教育ではスキルの習得が重要と考えられるが、スキルとはスキルのみを単独で教えられるものではなく、何らかの知識内容をともなって教授されることはいうまでもない。その場合の知識には、一年次であっても専門分野への導入となる内容も含まれるであろう。設置基準の大綱化以降、専門教育の早期化が指摘されていることから推察されるように、こうした傾向は顕著であると考えられる。また、現在でこそ、日本でも導入教育と補習教育が明確に区分されるようになったものの、少なくとも調査時点においては、両者の概念の混乱が予想された。専門教育に学生をスムーズに移行させることと関連して、主目的ではないにせよ、実態においては、導入教育に高校レベルの知識内容を補う側面が含まれる可能性がないとはいえない。それゆえ、これらの点を考慮して、定義づけに専門教育への橋渡しや補習教育を加えることにした。しかし、これらの2つの側面を含むことで導入教育の範囲はかなり広がり、結果として、本調査の定義に該当する教育を実施していると回答した学部はきわめて多くなったことも否めない。

表0-2 導入教育の実施状況

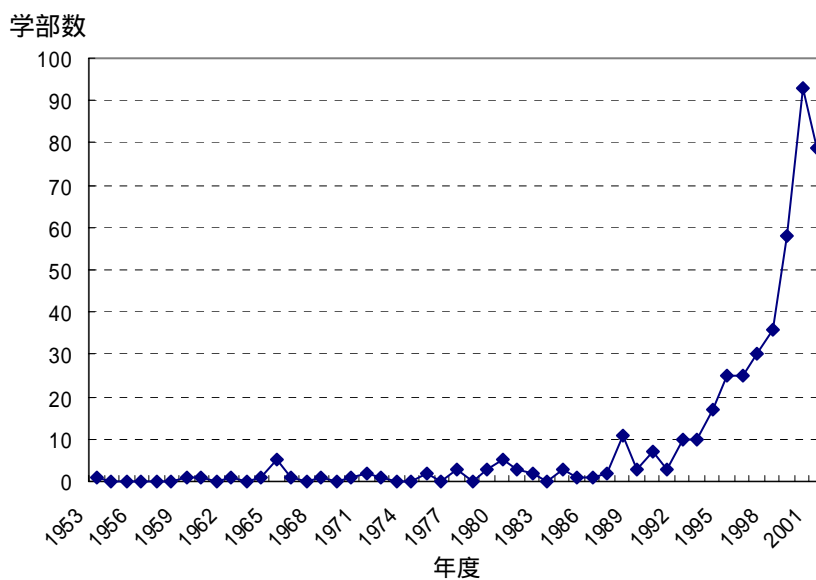
学部系統 \ 実施状況	1. 実施している	2. 実施を予定	3. 実施を検討中	4. 実施予定なし	合計
人文系	86 76.1%	8 7.1%	7 6.2%	12 10.6%	113 100.0%
社会系	180 84.9%	12 5.7%	6 2.8%	14 6.6%	212 100.0%
理系	130 86.7%	5 3.3%	4 2.7%	11 7.3%	150 100.0%
その他(学際等)	115 73.2%	8 5.1%	10 6.4%	24 15.3%	157 100.0%
合計	511 80.9%	33 5.2%	27 4.3%	61 9.7%	632 100.0%

表0-2に示すように、理系、社会系で実施率がやや高い傾向にあるが、合計で「1. 実施している」との回答は511件(80.9%)となり、「4. 実施予定はなし」との回答が61件(9.7%)となった。つまり、およそ9割の学部が導入教育を実施もしくは検討中ということになる。しかし、この数値から導入教育が盛んに行われていると早計に結論づけるべきというよりも、むしろ、この結果を詳細に分析することによって、日本の導入教育の在り方と特質を実態に則して浮き彫りにすることが本調査のねらいといえる。

というのも、図0-1の実施開始年にも明らかなように、導入教育への取り組みがまだまだ緒に就いたばかりなことは確かであり、その傾向や課題も十分に整理されていないと考えられるからである。実施している学部に関して、実施年度の推移をみた図0-1では、早くから実施しているとする学部がごく少数存在する一方、1991年を越えて実施数が増大の一途をたどっている。とりわけ、学生の学力低下がマスメディアを通じて注目を浴びるようになった1999年を境に急増していることが見

て取れる。このように、焦眉の課題となってきた導入教育の実施状況や課題を本研究では検討していきたいと思う。

図0 - 1 導入教育の実施年



( 杉谷祐美子 )

## 第1章 カウンセリング体勢と学生の現状

森 利枝

ここではまず、導入教育の問題を扱う上での前提として、学生の現状を把握するために、4年間（あるいは6年間）での卒業率を紹介する。これは各学部の卒業率として、調査票の中で回答を求めたものである。導入教育と留年抑止効果との関わりをみる必要上、卒業率はもっとも標準的な最低修業年数を基準とした。これを、学部分類別についてみたのが表1-1である。学部分類については、「はじめに」の表0-1において概観したとおり、便宜上人文系、社会系、理工系、医学歯学系、農林水産系、総合系、芸術体育系、看護保健系（4年制医療系）の8分類に分けている。この分類は原則として学部の名称にしたがって行ったが、特に学際的な教育を標榜する学部や、近年の改組再編を経た学部などでは学部名称がかならずしも教育内容を明示するものではないケースもあるので、そのような場合は教育内容から分類した。したがって同名称の学部が別の分類にカテゴライズされていることもある。また、たとえば家政学部などはその教育内容に栄養学、建築学、化学などを含むことから、総合系に分類している、この学部分類は表0-1ないし表1-1の実数を見れば分かるようにサンプル数にばらつきがあり、確定的なことは言いにくい、理工系の4年間卒業率の低さがとりわけ目を引く結果が得られた。全体では、4年間で卒業する学生は90%台である学部が239学部となっている。

表1-1 学部分類別の4年間での卒業率(%)

	80%以下	81-90%	91-95%	96%以上	合計	(N)
人文	8.7	31.1	38.8	21.4	100.0	103
社会	24.3	43.6	22.1	9.9	100.0	181
理工	46.5	46.5	7.0	0.0	100.0	71
医歯*	25.0	29.2	25.0	20.8	100.0	24
農水	0.0	16.7	16.7	66.7	100.0	6
総合	6.3	28.1	31.3	34.4	100.0	96
芸術体育	3.4	31.0	27.6	37.9	100.0	29
看護鍼灸保健薬	20.0	26.7	26.7	26.7	100.0	30
全体	19.4 (105)	36.3 (196)	25.6 (138)	18.7 (101)	100.0	540

missing=96 \* 6年間での卒業率

また、この調査では、導入教育を支援するシステムとしての大学におけるカウンセリングについてもその実施状況をきいている。ここではカウンセリング担当者の学内での位置づけと、カウンセリング機関が学部レベルにあるか大学レベルにあるかを訊ねた。その結果と、4年間（6年間）での卒業率をクロスさせた結果を表

1-2である。ここでは、カウンセラーの学内での位置づけ、すなわち専任のカウンセラーか、教員による兼任かという要素からはおおきな違いは見られない。大学にある場合も学部にも置かれている場合も、4年間での卒業率はカウンセラーの資格に拘わらずほぼ同様の傾向を示している。むしろ、上二つのコラムとその下二つのコラムを比べると、4年間での卒業率が96%を超えるケースは、カウンセリングの機会が大学レベルにある場合には17%台であるのに対して、学部レベルにある場合に（アンダーラインで提示）29.3%あるいは28.3%と、高くなる傾向があることがわかる。ただし、カウンセリングの機会だけで卒業率の高低を説明できるわけではないと推察されるので、これら二者間の直接の関係は断言できない。むしろ、学部レベルにカウンセリング機関を置くことに象徴されるような指導のきめの細かさが卒業率に影響するとも考えられるので、ここではここに看取された傾向を指摘するにとどめる。ただし、この、きめの細かい指導の必要性については、導入教育の実施方法においてその「きめの細かさ」がキーワードになることを指摘しておきたい。このことについてはこれ以降の各章でも適宜言及する。

表1 - 2 カウンセリング体勢と4年間での卒業率(%)

		80%以	81-90%	91-95%	96%以	合計	(N)
大学に設置 専任カウンセ ラー	該当	20.6	37.7	24.4	17.3	100.0	353
	非該当	16.7	32.8	28.7	21.8	100.0	174
	無回答	23.1	46.1	15.4	15.4	100.0	13
大学に設置 教員が兼任	該当	16.2	38.0	28.1	17.7	100.0	192
	非該当	21.0	35.0	24.5	19.5	100.0	334
	無回答	28.6	42.8	14.3	14.3	100.0	14
学部設置 専任カウンセ ラー	該当	17.1	31.7	21.9	<u>29.3</u>	100.0	41
	非該当	19.2	36.6	26.2	18.0	100.0	484
	無回答	33.3	40.0	13.3	13.3	100.0	15
学部設置 教員が兼任	該当	18.9	32.1	20.8	<u>28.3</u>	100.0	53
	非該当	19.2	36.6	26.4	17.8	100.0	473
	無回答	28.6	42.9	14.3	14.3	100.0	14
設置なし	該当	<u>33.3</u>	21.2	27.3	18.2	100.0	33
	非該当	18.3	37.1	25.8	18.9	100.0	493
	無回答	28.6	42.9	14.3	14.3	100.0	14
全体		19.4 (105)	36.3 (196)	25.6 (138)	18.7 (101)	100.0	540

missing=96

導入教育の実施状況に関しては、すでに概観したとおりである。その結果と、4年間（6年間）での卒業率とをクロスさせたものが表 1-3 である。これもサンプル数にばらつきがあるために確定的なことは言えない。ただし、実は、導入教育の実施予定のない学部での卒業率は高い傾向にあるということがこの表 1-3 から読みとれる。具体的には、4年間での卒業率が 96%を越える学部は、導入教育の実施予定のないグループにおいて 31.1%と最も高率に出現している。このことから、本調査では導入教育の効果の他にニーズの感じられ方も考慮する必要があることが分かる。

表 1 - 3 導入教育の実施状況と4年間での卒業率(%)

	80%以	81-90%	91-95%	96%以	合計	(N)
実施中	20.5	37.6	25.1	16.8	100.0	434
実施予定あり	25.0	40.6	25.0	9.4	100.0	32
実施検討中	22.7	22.7	27.3	27.3	100.0	22
実施予定なし	4.9	24.6	21.3	31.1	100.0	50
無回答	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0	2
全体	19.4 (105)	36.3 (196)	25.6 (138)	18.7 (101)	100.0	540

missing=96

ここで注意しなければならないことは、本報告で扱う導入教育に関しては、実施のモチベーションと成果が同じところに現れる可能性があるということである。すなわち、学生の、学業ないし大学生活へのレディネスに問題があると認識されているために導入教育が実施され、その結果問題が解決したために既に問題はないと判断されているのか、あるいは学生のレディネスにはもとより問題が感じられていないか、表 1-3 に見られる、現時点での導入教育の実施状況のみからは把握しにくい。このため、本調査では学生の経年的変化に着目し、導入教育の実施との関連を見た。その結果の一部を示したのが表 1-4 から表 1-8 である。



表1 - 4 読解力の向上(%)

	そう 思う	やや そう 思う	どちら とも いえない	あまり そうは 思わない	そう 思わ ない	無回答	合計	(N)
実施年不明・実施	0.0	2.6	40.4	34.6	15.4	7.1	100.0	156
-1991	1.5	0.0	38.5	40.0	18.5	1.5	100.0	65
1992-1996	0.0	2.3	27.6	51.7	18.4	0.0	100.0	87
1997-2001	0.3	2.4	30.7	39.5	16.9	10.1	100.0	296
2002- (予定)	0.0	0.0	12.5	68.8	18.8	0.0	100.0	32
全体	0.3 (2)	2.0 (13)	32.5 (207)	41.5 (264)	17.0 (108)	6.6 (42)	100.0	636

表1 - 5 文章表現力の向上(%)

	そう 思う	やや そう 思う	どちら とも いえない	あまり そうは 思わない	そう 思わ ない	無回答	合計	(N)
実施年不明・実施	0.6	2.6	36.5	35.5	18.6	6.4	100.0	156
-1991	1.5	0.0	36.9	43.1	20.7	0.0	100.0	65
1992-1996	0.0	2.3	29.9	47.1	20.7	0.0	100.0	87
1997-2001	0.3	2.4	30.7	37.5	18.9	10.1	100.0	296
2002- (予定)	0.0	0.0	21.9	62.5	15.6	0.0	100.0	32
全体	0.5 (3)	2.0 (13)	32.2 (205)	40.1 (255)	18.7 (119)	6.4 (41)	100.0	636

表1 - 6 外国語能力の向上(%)

	そう 思う	やや そう 思う	どちら とも いえない	あまり そうは 思わない	そう 思わ ない	無回答	合計	(N)
実施年不明・実施	0.0	10.3	41.0	30.8	11.5	6.4	100.0	156
-1991	0.0	12.3	30.8	41.5	13.8	1.5	100.0	65
1992-1996	1.1	5.7	35.6	39.1	18.4	0.0	100.0	87
1997-2001	0.3	8.8	32.4	31.4	16.6	10.5	100.0	296
2002- (予定)	0.0	3.1	18.8	53.1	25.0	0.0	100.0	32
全体	0.3 (2)	8.8 (56)	34.1 (217)	34.4 (219)	15.7 (100)	6.6 (42)	100.0	636

表1 - 7 学問への関心の向上(%)

	そう 思う	やや そう 思う	どちら とも いえない	あまり そうは 思わない	そう 思わ ない	無回答	合計	(N)
実施年不明・実施	1.3	5.8	46.2	29.5	9.6	7.7	100.0	156
-1991	1.5	0.0	52.3	32.3	12.3	1.5	100.0	65
1992-1996	0.0	<u>8.0</u>	34.5	48.3	8.0	1.1	100.0	87
1997-2001	0.0	7.1	35.8	33.8	13.2	10.1	100.0	296
2002- (予定)	0.0	6.3	34.4	43.8	15.6	0.0	100.0	32
全体	0.5 (3)	6.1 (39)	39.8 (253)	35.1 (223)	11.6 (74)	6.9 (44)	100.0	636

表1 - 8 プレゼンテーション能力の向上(%)

	そう 思う	やや そう 思う	どちら ともい えない	あまり そうは 思わない	そう 思わ ない	無回答	合計	(N)
実施年不明・実施	0.0	11.5	51.3	25.6	4.5	7.1	100.0	156
-1991	1.5	10.8	47.7	29.2	9.2	1.5	100.0	65
1992-1996	<u>1.1</u>	<u>18.4</u>	42.5	31.0	6.9	0.0	100.0	87
1997-2001	0.7	13.2	43.2	22.3	9.8	10.8	100.0	296
2002- (予定)	0.0	9.4	43.8	28.1	18.8	0.0	100.0	32
全体	0.6 (4)	13.1 (83)	45.6 (290)	25.3 (161)	8.5 (54)	6.9 (44)	100.0	636

調査では、各学部における学生の学業および大学生活へのレディネスとして考えられる要素について、学生の実態が4 - 5年前からどのように変化しているかを訊ねている。これについては後に詳説するが、ここで簡単に触れておくと 大学生としての基本的態度や、大学内外のコミュニティへの参加などに係わるスチューデント・ソーシャルスキル、文章作法や論理的思考力に関する学習スキル、情報収集、資料整理、大学内の教育資源の利用などに関する情報資源活用スキルに分類されるような、能力や態度について経年的変化を訊ねたものである。なおここでは用いないが、本調査では導入教育の目的としてはこの3つのスキルの他に いわゆる教科の補習を想定している。

これらの学生のスキルの変容を、導入教育の実施状況との関連の上で見ると、ここでは対象学部を導入教育の実施開始の時期によって3分類した。すなわち、大綱化以前、大綱化以降調査時から5年前まで、それ以降の3つのグループで

ある。ここでは代表的なスキルとして、表 1-4：読解力、表 1-5：文章表現力、表 1-6：外国語能力、表 1-7：学問への関心、表 1-8：プレゼンテーション能力を提示している。先述したように、本調査では学生のスキルに関して 4 - 5 年前からの変化に関する学部長の意識を訊ねているため、ここでは特に 1992-96 年に導入教育を開始したグループに着目したい。これはすなわち、それよりも前に導入教育の実施を開始したグループでは調査時 2001 年にはその効果に対する認識の陳腐化が進んでいる可能性があり、それ以後のグループではまだ実効があがっていない可能性が大きいからである。つまり今回の調査で、導入教育の効果の有無と学部長の意識に強い相関が予想されるグループが、1992-96 年開始のグループなのである。これらの学部に着目しながら表 1-4 から表 1-8 を見ると、読解力、文章表現力、外国語能力などのいわゆる伝統的な学力の変化には際だった傾向は見られないが、表中アンダーラインを施した部分に見られるように、学問への関心やプレゼンテーション能力では、この 1992-96 年開始のグループにおいて、若干高くなる傾向が見られる。すなわちここでは、いわゆる学力の向上よりも、学問への態度の問題に関して導入教育の効果が期待できることが予測できる。ただしここまでの分析では単に予測の域を出ない。そこで次に詳細な因子分析に基づいた検討を試みる。

## 第2章 学生の変容と導入教育の関連性について

山田 礼子

ここでは、最初に導入教育を実施している大学と未実施の大学がどのように導入教育の必要性を捉えているのかを確認する意味で実施してみたところ、実施校がより必要性を認識していることが確認された。

表2 - 1 導入教育の必要度について t - 検定結果

必要度	自由度	有意確率 (両側)	平均値
実施	618	.000	4.83
未実施	122.486	.000	4.29

次に、導入教育の満足度、効果度、および増強度の必要性について、導入教育を実施した時期の区分にしたがって、一元配置分析を実施し差の存在をみたところ、有意な差は観察されなかった。ただ、今後導入教育を増強する必要性については全体的に高い傾向が見られた。(表2-2)

表2 - 2 実施年度別導入教育満足度、効果度、増強度の比較

		度数	平均値	標準偏差
問2 満足	1991年以前	65	4.12	.91
	1992～1996	85	4.06	.68
	1997～2001	293	4.10	.75
	合計	443	4.10	.76
効果	1991年以前	65	4.23	.82
	1992～1996	86	4.21	.70
	1997～2001	293	4.07	.74
	合計	444	4.12	.75
今後増強	1991年以前	65	4.49	.90
	1992～1996	86	4.44	.90
	1997～2001	293	4.53	.75
	合計	444	4.51	.80

導入教育を実施している学部における、「導入教育への学生の満足度」「導入教育の効果があがっているかどうか」、「今後の導入教育の増強度」についての人文系、社会系、理系、その他の学部の学部長の評価をまとめたものが次の表 2-3 である。

回答は5点が最高点となるように設定した結果<sup>1</sup>、「学生の満足度」、「導入教育の効果」はほぼ同じような点数結果を示した。どちらについても多くの学部長は高い点数を与えており、学部間には特徴的な差は見出されなかった<sup>2</sup>。「今後の導入教育の増強度」については、より高い点数をいずれの学部長も与えており、より導入教育を強化していくことの必要性が学部間に広がっていることが観察された。

表2-3 学系別導入教育満足度、効果度、増強度の比較

		件数	平均値	標準偏差
学生の満足度	人文系	85	4.11	.74
	社会系	176	4.00	.81
	理系	130	4.17	.69
	その他(学際等)	113	3.98	.82
	合計	504	4.06	.78
効果	人文系	86	4.10	.67
	社会系	177	4.06	.79
	理系	130	4.20	.66
	その他(学際等)	114	4.12	.80
	合計	507	4.12	.74
増強度	人文系	86	4.60	.79
	社会系	177	4.49	.81
	理系	131	4.49	.83
	その他(学際等)	114	4.41	.84
	合計	508	4.49	.82

それでは現在、多くの学部が導入教育をカリキュラム上で提供している場合、その内容には何らかの共通性があるのだろうか。あるいはどのような内容で導入教育は構成されているのだろうか。導入教育内容の重視度についての質問項目をベースにした主成分分析結果<sup>3</sup>に基づき4つの因子を抽出した。第一因子は、次の表2-4に示しているように、「学生生活における時間管理や学習習慣の組織化」、「将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ」、「学問や大学教育全般に対する動機づけ」、「受講態度や礼儀・マナーの涵養」、「社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観の養成」等の学生生活や社会生活をおくっていく上での基本的なスキルに関連した項目から構成されていると考えられ、それゆえ、「スケジュール・ソーシャルスキル」と命名した。第二因子は、「レポート・論文の書き方などの文章作法」、「読解・文献講読の方法」、「論理的思考力や問題発見・解決能

<sup>1</sup> そう思う、ややそう思う、どちらともいえない、あまりそうは思わない、そう思わないをそれぞれ5、4、3、2、1点と点数化した。

<sup>2</sup> 一元配置分散分析の有意差は見られなかった。

<sup>3</sup> 累積分散寄与率は57.426%となった。回転後の因子付加量の絶対値.426以上の項目をもとに4因子を抽出した。

力の向上」など大学での学問・学習を遂行していくうえでの基本的なスキル関連項目から成り立っており、「学習スキル」と名づけた。第三因子を情報資源活用スキル、第四因子を教科補習と命名した。

表2 - 4 「導入教育内容の重視度」についての主成分分析

	因子成分			
	I	II	III	IV
レポート・論文の書き方などの文章作成法	.037	<b>.719</b>	.165	-.031
図書館の利用・文献探査の方法	.135	<b>.541</b>	.488	-.352
コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術	.271	<b>.666</b>	-.09	-.155
プレゼンテーションやディスカッションなど口頭発表の技法	.104	<b>.716</b>	.283	-.079
読解・文献購読の方法	.076	<b>.639</b>	.361	.240
フィールド・ワークや調査・実験の方法	.182	<b>.584</b>	.085	.410
論理的思考力や問題発見・解決能力の向上	.204	<b>.492</b>	.043	.463
高校で学習する教科の補習教育	.254	-.130	.011	<b>.725</b>
学生生活における時間管理や学習習慣の組織化	<b>.559</b>	.043	.351	.303
将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ	<b>.527</b>	.103	.223	.195
ノートの取り方	.279	.079	<b>.668</b>	.296
情報収集や資料整理の方法	.159	.481	<b>.637</b>	.004
大学内の教育資源(図書館を除く施設・設備・人員等)の活用方法	.262	.269	<b>.667</b>	-.138
学問や大学教育全般に対する動機づけ	<b>.426</b>	.077	.423	.054
集中力や記憶力の習得方法	<b>.569</b>	.130	.331	.295
受講態度や礼儀・マナーの滋養	<b>.733</b>	.023	.139	.164
大学への帰属意識の向上	<b>.762</b>	.063	.199	.043
協調性の養成	<b>.805</b>	.175	.099	.072
社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観の育成	<b>.804</b>	.214	.015	.032
学生の自身・自己肯定観の向上	<b>.701</b>	.218	.123	.014

因子抽出法: 主成分分析  
 ハリマックス法 9回の回転で収束

累積分散寄与率は 57.426%

この因子分析の結果に基づいて、合成得点を算出した学系別の導入教育の内容の重視に何らかの差異や特徴が見られるのかを分析して見ると、表2-5に示されているように次のようなパターンが浮かび上がってきた。

「学生生活における時間管理や学習習慣の組織化」、「学問や大学教育全般に対する動機づけ」等からなるスチューデント・ソーシャルスキルにおいてはほとんど学系上の差はみられない。学習スキル、および情報資源活用スキルについては理系の重要視度得点が低く(.000で有意)、文系での情報資源活用スキルの重要度が高くなっている。一方教科補習においては反対に理系の重要視度得点が高い(.000で有意)ことが読み取れる。このことは何を意味しているのだろうか。

一時、入試科目の削減や高校の履修科目の選択制の幅の広がりを受けて、大学に入学後に履修していない科目や学力低下現象を反映して、「リメディアル(補習)科目」の設置が注目を浴びた時期があったが、導入教育においては理系を除けば、リメディアルという側面よりは、「スチューデント・ソーシャルスキル」に関連した内容が学部を問

わず重要視されているということである。言い換えれば、基本的な生活習慣や学習習慣、マナーなど従来は一切高等教育機関がタッチしてこなかった領域が、現在はほとんどの学部が共通して学生に教える必要性に迫られているということで、「大学に入ったら一人前の大人」として扱ってきた高等教育機関と「決して一人前ではない」中等教育修了者との間のギャップが年々拡大し、もはや無視できない状況になっていることを物語っているように思われる。

実施年で見えた場合、2002年以降に導入予定大学において、学習スキルの重視度は高くない(表2-6参照)。

表2-5 「導入教育の内容」についての学系別合成変数 一元配置分散分析結果

		度数	平均値	標準偏差	F値 有意確率
スケジュール・ ソーシャルスキル	人文系	100	33.21	6.19	
	社会系	188	33.99	6.08	
	理系	129	34.15	6.43	
	その他(学際等)	130	33.88	5.66	
	合計	547	33.86	6.08	
学習スキル	人文系	101	31.25	3.16	8.266
	社会系	187	30.76	3.27	0.000
	理系	129	29.08	4.28	
	その他(学際等)	131	30.19	3.72	
	合計	548	30.32	3.69	
情報資源活用スキル	人文系	103	12.06	1.84	8.198
	社会系	194	11.87	2.09	0.000
	理系	131	10.86	2.17	
	その他(学際等)	133	11.57	2.16	
	合計	561	11.60	2.12	
教科補修	人文系	103	3.20	0.92	19.877
	社会系	197	3.25	1.08	0.000
	理系	140	4.07	1.08	
	その他(学際等)	137	3.45	1.11	
	合計	577	3.49	1.11	

表 2 - 6

「導入教育の内容」についての実施年度別合成変数 一元配置分散分析結果

		度数	平均値	標準偏差	F値 有意確率
スチューデント・ ソーシャルスキル	1991年以前	60	34.52	6.23	
	1992-1996	82	33.85	5.43	
	1997-2001	259	34.17	6.05	
	2002年以降予定	31	32.81	6.32	
	合計	432	34.06	5.97	
学習スキル	1991年以前	61	31.56	3.05	5.401 0.001
	1992-1996	82	31.00	3.00	
	1997-2001	261	30.16	3.65	
	2002年以降予定	31	28.74	5.35	
	合計	435	30.42	3.66	
情報資源活用スキル	1991年以前	63	11.92	1.89	
	1992-1996	82	11.57	2.04	
	1997-2001	269	11.62	2.17	
	2002年以降予定	31	11.71	2.18	
	合計	445	11.66	2.11	
教科補修	1991年以前	63	3.44	1.00	
	1992-1996	84	3.46	1.11	
	1997-2001	279	3.63	1.10	
	2002年以降予定	31	3.35	1.14	
	合計	457	3.56	1.09	

表2-7は「学生への現状認識度」についての主成分分析結果である（累積分散寄与率 59.372%）。得られた3因子はそれぞれ、第一因子：大学社会生活能力、第二因子：学問遂行能力、第三因子：不登校度と命名している。同じく、表2-7は「学生への対応度」について同様に主成分分析を施した結果である（累積分散寄与率 63.113%）。その結果、2因子が抽出され、それぞれ第一因子：学問対応型、第二因子：生活対応型と名づけた。



表2 - 7 「学生への現状認識度」についての主成分分析

	成分		
	I	II	III
4～5年前と比べての読解力の向上	.292	<b>.795</b>	.045
4～5年前と比べての文章表現力の向上	.278	<b>.805</b>	.012
4～5年前と比べて数理能力の向上	.135	<b>.793</b>	.079
4～5年前と比べての外国語能力の向上	.232	<b>.751</b>	.123
4～5年前と比べての学問関心の向上	.544	<b>.547</b>	-.004
4～5年前と比べてのコミュニケーション能力の向上	<b>.638</b>	.370	-.081
4～5年前と比べてのプレゼンテーション能力の向上	<b>.560</b>	.436	.031
4～5年前と比べての受講態度の向上	<b>.618</b>	.237	.011
4～5年前と比べての社会問題への関心の向上	<b>.650</b>	.302	-.204
4～5年前と比べての一般常識の豊かさ	<b>.689</b>	.362	-.056
4～5年前と比べての礼儀マナーの度合い	<b>.681</b>	.240	.110
4～5年前と比べての課外活動の参加状況	<b>.556</b>	-.04	.524
4～5年前と比べての帰属意識の度合い	<b>.643</b>	.010	.357
4～5年前と比べて不登校率の高さ	.101	-.171	<b>-.794</b>

主成分分析 バリマックス回転 10回の回転で収束

表2 - 8 「学生への対応度」についての主成分分析

	因子成分	
	I	II
読解力	<b>.842</b>	.188
文章表現力	<b>.850</b>	.146
数理的能力	<b>.513</b>	.311
外国語能力	<b>.722</b>	.200
学門への関心	<b>.705</b>	.345
コミュニケーション能力	<b>.788</b>	.315
プレゼンテーション能力	<b>.785</b>	.290
受講態度	.437	<b>.643</b>
社会問題への関心	.598	<b>.526</b>
一般常識	.542	<b>.624</b>
礼儀・マナー	.406	<b>.701</b>
課外活動への参加	.251	<b>.732</b>
大学への帰属意識	.228	<b>.764</b>
学生の不登校	.155	<b>.762</b>
学生の留年	.142	<b>.763</b>

主成分分析 バリマックス法 3回の回転で収束

次にこうした学生の現状を因子成分にもとづいた合成変数の得点を学部別に比較した結果が表2-9であるが、この表からは以下のような点が浮かび上がってきた。すなわち、第一に、学生の現状認識について、大学社会生活能力向上度においては

学部による差はほとんどなく低い評価がなされている。第二に学問遂行能力向上度においては、医歯学部、農水学部、芸術体育、看護系学部の評価が高く、理工学部が最も低い。このことは、前述したように補習科目が理系学部で多く取り入れられているように、理工学部における学力の低下現象は他の学部より深刻であるといえるのではないだろうか。第三点として、不登校度は医歯学部、看護系学部において低いという結果から、これら学部では他の学部と比較した場合、将来の職業選択や学部入学段階での目的意識を明確に保持している学生が多いと考えられることから、こうした明確な目的意識や職業選択意識が、不登校度の低さにつながっているのではないかと推察できる。

表 2 - 9 学生の現状認識度 学系別一元配置分散分析結果

		度数	平均値	標準偏差	F値 有意 確率
大学社会生活能力向上度	人文	108	20.31	4.35	
	社会	201	20.06	4.53	
	理工	75	20.15	4.17	
	医歯	29	20.97	3.27	
	農水	6	21.33	4.59	
	総合	107	20.20	4.93	
	芸術体育	28	20.71	3.98	
	看護鍼灸保健薬	32	20.34	3.34	
	合計	586	20.25	4.38	
学問遂行能力向上度	人文	106	11.58	3.27	2.76
	社会	201	11.17	3.35	.008
	理工	77	11.00	3.22	
	医歯	29	13.03	2.34	
	農水	6	12.67	2.94	
	総合	106	11.26	3.45	
	芸術体育	27	12.89	2.64	
	看護鍼灸保健薬	33	12.45	3.40	
	合計	585	11.50	3.30	
不登校度	人文	108	3.14	.80	3.483
	社会	201	2.94	.84	.001
	理工	77	2.88	.79	
	医歯	29	2.62	.78	
	農水	6	3.33	1.03	
	総合	109	2.98	.95	
	芸術体育	29	2.79	1.01	
	看護鍼灸保健薬	32	2.41	.98	
	合計	591	2.93	.88	

表 2-10 に示している導入教育への満足度との相関係数が高い変数を選択したうえで、「導入教育の満足度」を規定している要因が何かをみたところ、導入教育に効果があること、学生の学問遂行能力が向上することおよび具体的な内容としては、具体的な情報資源活用スキルの習得を重視することが効果的であることが判明した。

表 2 - 1 0 満足度との相関係数

	相関係数	有意水準
今後の増強度	.077	
効果	.664	.000
必要度	.192	.000
スチューデント・ソーシャルスキル	.112	.05
学習スキル	.118	.05
情報資源活用スキル	.149	.001
教科補習	.016	
大学社会生活能力向上度	.215	.000
学問遂行能力向上度	.183	.000
不登校度	-.063	
学問対応型	.018	
生活対応型	-.053	

表 2 - 1 1 「導入教育の満足度」の規定要因

	ベータ	有意水準
導入教育効果	.599	.000
情報資源活用スキル	.159	.000
学問遂行能力向上度	-.110	.007

R2 .420 ステップワイズ法

表 2 - 1 2 学問遂行能力の向上度における導入教育内容項目の規定要因

	ベータ	有意水準
レポート・論文の書き方などの文章作法	-.226	.000
コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技	.108	.060
プレゼンテーションやディスカッションなど口頭発表の技法	-.184	.005
論理的思考力や問題発見・解決能力の向上	.128	.021
高校で学習する教科の補習教育	-.129	.020
受講態度や礼儀・マナーの涵養	-.149	.018

R2 .117 強制投入法

・教科補習や学習スキルは学問遂行能力の向上には関係しない

導入教育を実施している大学での学問遂行能力の向上度における導入教育内容項目の規定要因としてレポート・論文の書き方などの文章作法、コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術、プレゼンテーションやディスカッションなど口頭発表の技法、論理的思考力や問題発見・解決能力の向上、高校で学習する教科の補習教育、受講態度や礼儀・マナーの涵養はマイナスの作用があることが結果として得られた。教科補習や学習スキルは学問遂行能力の向上には関係しない一方で、実際の導入教育ではこれらの側面が重視されている。このような矛盾が顕在化していることから、学問遂行能力はどうすれば向上するのかという重い課題をつきつけられているともいえよう。次に、実際に大学で実施している導入教育の科目についてのより詳細な分析を次章で提示することにする。



### 第3章 導入教育プログラムの実施状況

杉谷 祐美子

本章では、各大学において導入教育がどのような形態と内容をもって行われているか、特に人文、社会、理系、その他の学部（学際的学部と体育系、芸術系学部を指す）の4つの学部系統間の違いに着目しながら考察する。

まず、実施を検討中と回答した学部まで含めてその実施形式を複数回答で尋ねると、授業として行う場合が536件（84.3%）、オリエンテーションや合宿などの授業以外のプログラムが468件（73.6%）であり、そのうち両方を回答したのは424件（66.7%）であった。

そのうち授業以外のプログラムの内容は表3-1に示した。8割以上の学部が1.オリエンテーションなどの学内説明会を行っており、他は4.大学主催の講習会を除き、2.合宿、3.担任制度、5.入学前の課題が4割前後となっている。学部系統別にみると、3.担任制度などには学部間にほとんど差がみられないものの、2.合宿やキャンプなどは人文系で、5.入学前の指導・課題は理系でやや多く利用されていることがわかる。

表3-1 授業以外のプログラムの内容（複数回答）

学部系統	1.オリエンテーションやガイダンスなどの学内での説明会	2.合宿やオリエンテーションキャンプ	3.チュートリアルやアドバイザー制度などの担任制度	4.大学・学部主催の講習会	5.入学前の指導・課題	6.その他	回答学部数
人文系	70 84.3%	44 53.0%	33 39.8%	13 15.7%	24 28.9%	6 7.2%	83 100.0%
社会系	125 81.2%	58 37.7%	54 35.1%	31 20.1%	54 35.1%	8 5.2%	154 100.0%
理系	85 73.9%	43 37.4%	51 44.3%	12 10.4%	47 40.9%	6 5.2%	115 100.0%
その他（学際等）	96 86.5%	51 45.9%	43 38.7%	17 15.3%	35 31.5%	9 8.1%	111 100.0%
合計	376 81.2%	196 42.3%	181 39.1%	73 15.8%	160 34.6%	29 6.3%	463 100.0%

このように、授業以外のプログラム間にも垣間見られる学部間の差異に着目しながら、次に授業プログラムについて詳しくみていきたい。導入教育に該当する授業科目を具体的に実例3科目まで任意に挙げてもらったところ、平均して1学部当たり2.1科目の回答を得た。総計1089科目（うち、科目名称未定を4科目含む）を分析した結果は表3-2のとおりである。

表 3 - 2 授業科目の分類

科目類型	科目名称による分類	科目名称の例示	科目数 (%)
a. 補習教育型 22科目 (2.0%)	1. 補習・補講	「数学補習」「やり直しの英語」	19(1.8)
	2. 入学準備教育	「入学特別科目」	3(0.3)
	3. ステイプス	「ステイプス」「学習方法演習」	10(0.9)
b. スキル・方法論型 136科目 (12.5%)	4. 文章作成・表現・論述	「論文演習」「文章表現」	44(4.1)
	5. コミュニケーション・プレゼンテーション	「コミュニケーションの基礎」「プレゼンテーション技法」	12(1.1)
	6. 文献講読	「基礎講読」「心理学講読演習」	15(1.4)
	7. 実習・実験・フィールドワーク	「基礎実験」「早期体験実習」	22(2.0)
	8. 外国語(英語)	「基礎英語」「英語」	21(1.9)
	9. 専門研究方法論	「認知科学研究法」「経済学の技法」	12(1.1)
c. 情報リテラシー型 229科目 (21.1%)	10. 情報処理・コンピュータリテラシー	「情報処理」「コンピュータリテラシー」「コンピュータ入門」	229(21.1)
d. ゼミナール型 356科目 (32.8%)	11. 総合演習	「総合演習」「総合ゼミナール」	13(1.2)
	12. 教養演習	「教養演習」「教養ゼミナール」「教養ゼミナール」	56(5.2)
	13. 基礎演習	「基礎演習」「基礎ゼミ」	133(12.3)
	14. プレゼミ・入門演習	「プレゼミ」「入門演習」「プロゼミナール」	25(2.3)
	15. 専門基礎演習	「社会学基礎演習」「演習」「基礎演習(専門)」	129(11.9)
e. オリエンテーション型 60科目 (5.5%)	16. フレッシュマンセミナー・新入生研修	「フレッシュマンセミナー」「新入生研修」「フレッシュゼミ」	25(2.3)
	17. ガイダンス・オリエンテーション	「ガイダンス科目」「オリエンテーションゼミナール」「ブリッジプログラム」	15(1.4)
	18. 学問への導入	「学問のすすめ」「学び論」「カルッジステイズ」	9(0.8)
	19. 自己探求・自己実現	「自分の探究」「自己の実現」「自己理解と成長」	6(0.6)
f. 基礎・概論型 282科目 (26.0%)	20. 職業選択・キャリアデザイン	「職業選択とキャリア形成」「キャリアデザイン」	5(0.5)
	21. 専門基礎・入門・概論	「基礎歴史学」「経済学入門」「化学通論」「人間学概論」「物理」「農学と社会」	282(26.0)

(N = 1085)

ここでは、科目名称をおよそ 21 種類に分類し、さらにそれぞれの内容や特性をもとに 6 つの類型化を試みた。設置数の多い科目は、基礎演習や専門基礎演習を中心とした d . ゼミナール型 (32.8%)、専門教育のための基礎的知識の習得という側面を含む f . 基礎・概論型 (26.0%)、コンピュータの操作技術を学ぶ c . 情報リテラシー型 (21.1%) である。少なくとも科目名称からは a . 補習教育型と分類されるものは 2% ときわめて少なく、「フレッシュマンセミナー」や「ガイダンス」、「学び論」などの名称をもつ大学・学問生活への導入を意図した e . オリエンテーション型科目も約 5% にとどまっている。

これら導入教育の授業科目は、各大学において「教養科目」や「共通科目」として区分されているが、約 45% は「基礎科目」に位置づけられ、最も多くを占めている。また、「専門科目」に区分されている科目も 10.6% 存在した。もちろん、冒頭に述べた導入教育の定義づけによる影響は否めないが、15 . 専門基礎演習や 21 . 専門基礎・入門・概論 (すなわち、f . 基礎・概論型科目) にあるように、専門のディシプリン名を冠した科目が多数みられることから導入教育が専門教育の一環として行われる場合が少なくないと指摘できるだろう。なお、d . ゼミナール型科目が最多であることと関連して、全科目のうち、58.5% が演習形式を採用し、同じく全科目の 61.1% が必修化されている。

もっとも、このように科目を分類しても、名称だけからでは十分に授業内容を把握することができない。そこで、併せて、各科目について 10 項目の選択肢から複数回答で授業内容を選んでもらっている。その結果が次の表 3-3 である。

表3-3 科目類型と授業内容（複数回答）

科目類型 \ 授業内容	ア．レポート論文の書き方などの文章作法	イ．図書館の利用・文献探索の方法	ウ．コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術	エ．プレゼンテーションやディスカッションなどの口頭発表の技法	オ．読解・文献講読の方法	カ．フィールドワークや調査・実験の方法	キ．高校で学習する教科の補習教育	ク．学問や大学教育全般に対する動機づけ	ケ．学生生活における時間管理や学習習慣の組織化	コ．将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ	回答科目数
a. 補習教育型	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	1 4.8%	20 95.2%	2 9.5%	0 0.0%	0 0.0%	21 100.0%
b. スキル・方法論型	85 65.4%	33 25.4%	22 16.9%	46 35.4%	49 37.7%	15 11.5%	14 10.8%	32 24.6%	4 3.1%	16 12.3%	130 100.0%
c. 情報リテラシー型	12 5.3%	13 5.8%	222 98.2%	16 7.1%	0 0.0%	6 2.7%	4 1.8%	6 2.7%	2 0.9%	2 0.9%	226 100.0%
d. ゼミナール型	243 71.1%	194 56.7%	95 27.8%	215 62.9%	183 53.5%	51 14.9%	44 12.9%	205 59.9%	64 18.7%	60 17.5%	342 100.0%
e. オリエンテーション型	26 44.8%	27 46.6%	17 29.3%	23 39.7%	16 27.6%	8 13.8%	7 12.1%	45 77.6%	18 31.0%	27 46.6%	58 100.0%
f. 基礎・概論型	30 11.5%	29 11.2%	10 3.8%	22 8.5%	30 11.5%	21 8.1%	118 45.4%	130 50.0%	12 4.6%	60 23.1%	260 100.0%
合計	397 38.3%	297 28.6%	367 35.4%	323 31.1%	279 26.9%	102 9.8%	207 20.0%	420 40.5%	100 9.6%	165 15.9%	1037 100.0%

各内容の回答科目数に占める割合を科目類型別に示した。

最下段の％は総科目数に占める授業内容の回答比率である。これによれば、最も多く取り入れられているのはク．学問や大学教育全般に対する動機づけであり、40.5%。ほぼ同程度の割合で、ア．論文の書き方などの文章作法。次にウ．コンピュータを用いた情報処理技術が位置する。以下、エ．口頭発表、イ．文献探索、オ．文献講読といったスタディ・スキルがそれぞれ3割程度と主な授業内容に挙げられている。注目したいのは、科目名称の分類からはわずか2%しか析出されなかったa．補習教育型科目が、この授業内容からみるとキ．補習教育として2割をも占めていることである。したがって、各科目には名称にあらわれない授業内容が含まれており、科目名称と授業内容の間にはいくらかのずれがあると類推できる。

そこで、この表3-3において、科目類型ごとに授業内容の傾向をみてみたい。まず、a．補習教育型科目とc．情報リテラシー型科目は95%以上の比率で、科目名称通りの授業内容を、つまりキ．補習教育とウ．情報処理技術をそれぞれ行う科目となっている。また、b．スキル・方法論型科目もア．文章作法を中心としたスタディ・スキルの習得を目指した科目といえる。これに対して、残りの3類型は多様な要素を含んでいる。

例えば、e．オリエンテーション型科目は、本来の目的と考えられるク．学問や大学教育への動機づけ、あるいはコ．将来の職業生活や進路選択への方向づけを中心として、ア．やエ．などのスタディ・スキルの習得をともなっている。なかでも、この科目類型に分類される16．フレッシュマンセミナー等の科目ではこうした傾向が強く、これは次に説明するd．ゼミナール型科目と類似している。d．ゼミナール型科目は同科目の59.9%にク．学問や大学教育への動機づけを含んでいる。ところが、それ以上に、スタディ・スキルの習得の面が強い科目となっている（同科目の71.1%がア．文章作法、56.7%がイ．文献探索、62.9%がエ．口頭発表、53.5%がオ．文献講読を含む）。つまり、ア．文章作法やエ．口頭発表などの学習スキルはb．スキル・方法論型科目以外に、このd．ゼミナール型科目のなかに編



成されているのである。いわば、このd．ゼミナール型科目は、知的動機づけとスキルの習得を統合的に教授する科目として多くの学部で利用されていると考えられる。さらに、キ．高校での学習内容の補習教育は前述したa．補習教育型科目だけでなく、むしろ「基礎」「入門」などの名称を付したf．基礎・概論型科目（同科目の45.4%が該当）として編成されている場合が多いことが明らかになった。したがって、このf．基礎・概論型科目は、一方でク．知的動機づけの役割をもち（同科目の50.0%が該当）、他方でキ．補習教育の機能を果たしているということになる。

表3 - 4 学部系統別の科目類型

科目類型 学部系統	a.補習教育型	b.スキル・方法論型	c.情報リテラシー型	d.ゼミナール型	e.利インターン型	f.基礎・概論型	合計
人文系	2 1.1%	40 21.7%	42 22.8%	66 35.9%	9 4.9%	25 13.6%	184 100.0%
社会系	3 0.8%	35 9.9%	70 19.8%	157 44.4%	17 4.8%	72 20.3%	354 100.0%
理系	9 2.9%	35 11.1%	60 19.0%	57 18.1%	18 5.7%	136 43.2%	315 100.0%
その他（学際等）	8 3.4%	26 11.2%	57 24.6%	76 32.8%	16 6.9%	49 21.1%	232 100.0%
合計	22 2.0%	136 12.5%	229 21.1%	356 32.8%	60 5.5%	282 26.0%	1085 100.0%

それでは、次に学部系統別に各科目類型の比率をみてみよう。表3-4のように、科目数としてはきわめて少ないa．補習教育型科目は人文・社会系学部ではほとんど設置されていない。ちなみに、理系学部以上の比率を占めて、a．補習教育型科目をおく「その他」学部は地球環境科学部など理系分野と融合した学部である。実際の科目名称においても英語の補習がみられるものの、大半は数学、物理、化学などの理数系科目であり、このことから理系学部を中心にa．補習教育型科目が設置されているといえる。

その他の特徴としては、b．スキル・方法論型科目は、21.7%と人文系学部で比較的多くみられる。d．ゼミナール型科目は社会系学部の設置科目の44.4%と多くを占め、これに対して理系学部では18.1%と低くなっている。興味深いことに、f．基礎・概論型科目は理系学部において43.2%を占め、人文系学部では13.6%と少ない。理系学部では、b．スキル・方法論やd．ゼミナール型が少ない分、f．基礎・概論型が多くを占めている。ここで想起されるのは、f．基礎・概論型科目の半数近くが補習教育的な内容を含んでいることである。すなわち、理系学部では導入教育にとりわけ補習教育的な要素を求める傾向があると推測できよう。

表3 - 5 学部系統別の授業内容（複数回答）

学部系統	授業内容 ア．レポート論文の書き方などの文章作法	イ．図書館の利用・文献探索の方法	ウ．コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術	エ．プレゼンテーションやディスカッションなど口頭発表の技法	オ．読解・文献講読の方法	カ．フィールドワークや調査・実験の方法	キ．高校で学習する教科の補習教育	ク．学問や大学教育全般に対する動機づけ	ケ．学生生活における時間管理や学習習慣の組織化	コ．将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ	回答科目数
人文系	90 50.8%	65 36.7%	74 41.8%	66 37.3%	65 36.7%	18 10.2%	11 6.2%	66 37.3%	11 6.2%	17 9.6%	177 100.0%
社会系	167 49.0%	124 36.4%	133 39.0%	151 44.3%	137 40.2%	35 10.3%	29 8.5%	161 47.2%	46 13.5%	60 17.6%	341 100.0%
理系	55 18.4%	38 12.7%	76 25.4%	34 11.4%	23 7.7%	18 6.0%	127 42.5%	99 33.1%	21 7.0%	56 18.7%	299 100.0%
その他（学際等）	87 38.7%	71 31.6%	85 37.8%	72 32.0%	54 24.0%	31 13.8%	41 18.2%	96 42.7%	24 10.7%	34 15.1%	225 100.0%
合計	399 38.3%	298 28.6%	368 35.3%	323 31.0%	279 26.8%	102 9.8%	208 20.0%	422 40.5%	102 9.8%	167 16.0%	1042 100.0%

各内容の回答科目数に占める割合を学部系統別に示した。

この点を裏付けるために、さらに学部系統ごとにみた科目内容が表3-5となる。ここからも、理系学部が42.5%と約4割の科目のなかでキ・補習教育を実践しており、しかも他学部比べて群をぬいて高いことがみてとれる。これに対して、人文・社会系では理系学部比してア・イ・エ・オなどのスタディ・スキルを取り入れている。また、ク・知的動機づけではやや社会系学部の率が高く、理系では低い。コ・将来の進路選択・方向づけでは相対的に人文系学部が低くなっている。なお、学部系統別に科目類型と授業内容を確認したところ、全般的に最も多く取り入れられているク・知的動機づけは、理系学部以外は主にd・ゼミナール型科目に組み入れられ、そもそもゼミナール型科目の少ない理系学部では、その替わりとしてf・基礎・概論型科目のなかに含まれていることが明らかとなった。特に医歯系学部ではこうした傾向が強く、理工学部では同じf・基礎・概論型科目に補習の要素を取り入れるという違いもみられた。

さて、第2章の分析を踏まえれば、学問への動機づけは学部に関わりなく共通に求められる要素であるとはいえ、既にみてきたように現在の実施状況には学部間で若干の温度差があるといえる。そして、定義づけで示した導入教育の4つの側面(補習、スタディ・スキル、スチューデント・スキル、専門への橋渡し)も、学部間で授業科目やその内容の編成に異なって表れているのが現状といえるだろう。人文系学部ではスキル・方法論型科目を通じた学習技能の習得を、社会系学部では少人数指導のゼミナール型科目によるスキルの習得と知的動機づけを、そして理系学部では基礎・概論型科目あるいは補習教育型科目によって補習教育を行い、各専門学部のニーズに対応しようとしている状況がある。

このことは、表3-6の導入教育のあるべき位置づけを問う設問の回答にも明確に表れている。これも学部系統別にみると、2・大学生活への円滑な移行や3・高校までの教育との違いを自覚させる教育として導入教育を位置づけるべきとする人文系学部に対して、多くの理系学部は導入教育を4・高校までに当然習得すべきであった内容を教える補習教育として理解しているのが明らかである。

表3 - 6 導入教育の位置づけ（複数回答）

位置づけ 学部系統	1. 大学教育に本来必要不可欠な正規の教育	2. 大学生生活への円滑な移行を図るための教育	3. 大学教育と高校までの教育との違いを自覚させるための教育	4. 高校までに当然習得すべきであった内容を教えるための教育	5. その他	回答学部数
人文系	47 43.9%	91 85.0%	65 60.7%	22 20.6%	3 2.8%	107 100.0%
社会系	104 50.5%	160 77.7%	115 55.8%	47 22.8%	7 3.4%	206 100.0%
理系	64 44.8%	99 69.2%	61 42.7%	78 54.5%	0 0.0%	143 100.0%
その他（学際等）	57 39.3%	117 80.7%	81 55.9%	40 27.6%	4 2.8%	145 100.0%
合計	272 45.3%	467 77.7%	322 53.6%	187 31.1%	14 2.3%	601 100.0%

各位置づけの回答学部数に占める割合を学部系統別に示した。

このように、専門学部の特質によって、導入教育のとらえ方、ひいては導入教育を包摂する大学教育観そのもの、そしてそれらに基づいたカリキュラム編成の原理、形態、内容に差異があるという点をまずは十分に認識することが重要ではないだろうか。そのうえで、学部の垣根を越えた全学共通の導入教育の実践は本来可能であるか、可能な場合にはどのような体制のもとでいかなる内容をいかに教授すべきか検討していくことが今後の課題となると思われる。このことはとどのつまり、導入教育の目的・目標をどのようにとらえるかという問題に帰着するといえるだろう。

#### 第4章 導入教育プログラムの現状評価と課題 - 自由記述に基づいて -

沖 清豪

本章では、各学部で実施されている導入教育プログラムに対する評価と課題に関する自由記述の回答傾向から、全国的に共有されている成果と課題を整理する。

本調査では、問2「導入教育に対する評価」に関連して、「これまでの成果、問題点や課題」について自由記述を求める項目を設定していた。本項に回答を寄せたのは287学部であり、各回答の内容を整理すると373項目に整理された。その回答傾向を、(1)導入教育の方法に関する成果と課題、(2)学生の知識・技能に関する成果と課題、(3)学生の学習全般への意欲に関する成果と課題、(4)教員に関する成果と課題、に類型した結果は表4-1のとおりである。

表4-1 実施したプログラムの成果と課題の自由回答数

類型	件数	割合%
方法：評価できる点	38	10.2
方法：課題とされる点	71	19.0
学生の知識・技能：評価できる点	10	2.7
学生の知識・技能：課題とされる点	25	6.7
学生の意欲：評価できる点	26	7.0
学生の意欲：課題とされる点	72	20.4
教師：課題とされる点	74	19.8
総合的に評価できる	21	5.6
現在開始直後で様子見の状況	12	3.2
その他	20	5.4
計	373	100.0

全体的には、方法、学生の知識・技能、学生の意欲については、プログラムを実施したことにより一定の成果があったと回答する学部が存在していることが窺える一方、教員に関する記述には評価すべき成果とみなされる記述は少なく、いくつかの問題点が指摘されている。

類型別に内容を整理すると、まず導入教育の方法に関する自由記述(表4-2)では、成果として、少人数制の指導や個別指導の有効性を指摘する意見(26件)や合宿形式での研修の有効性を指摘する意見(7件)がみられた。また、科目履修に関する説明など導入教育プログラムが有するガイダンス機能の重要性を指摘する意見(5件)も見られた。一方で課題として、学生数が多いことなどにより現実にはゼミ形式など少人数制指導を行うことが困難であるとの指摘(11件)や、共通教材の作成が急務であるとの指摘(12件)が目立っている。また専門教育などに手一杯で、

実際には教育課程において導入教育を設定するだけの余裕がないとの意見(7件)や導入教育を実施しようとしても実際には個々の教員の判断で専門教育の一環としての授業が実施されてしまっているとの反省(7件)も多く見られる。さらに学生や教員に対して導入教育とは何であるのかの説明が必要であるとの意見も多く見られた(7件)。

次に、学生の知識・技能に関する回答を整理すると(表 4-3)、多くの学部で入学前段階あるいは入学直後に短期でPC実習を行い、大学のPC環境への導入やオンデマンド型学習への導入が有効に機能しているとの指摘(10件)が見られる一方で、導入教育プログラムでは十分に対応できないほどの学生間での学力格差を指摘する意見(16件)も相当数にのぼっており、また表現力不足(5件)やIT関連の知識に格差があり、履修等に困難が生じているとの指摘(4件)も見られる。

表 4 - 2 方法に関する回答

評価される点		%
少人数制の重要性	20	52.6
個別指導の有効性	6	15.8
合宿研修の有効性	7	18.4
教務のための重要性	5	13.2
計	38	100.0
<b>課題とされる点</b>		
ゼミのテーマ設定の困難さ	2	2.8
共通教材作成の重要性	12	16.9
評価基準の統一	6	8.5
経費負担	2	2.8
教育課程上の余裕なさ	7	9.9
導入教育の内容の幅拡大	4	5.6
全学的教育課程の重要性	4	5.6
学生数の多さによる対応の困難さ	11	15.5
導入教育の期間の延長の必要性	6	8.5
新設学部としての困難さ	3	4.2
導入教育それ自体の説明の必要性	7	9.9
専門教育の押し付け、内容の混乱	7	9.9
計	71	100.0

表 4 - 3 学生の知識・技能に関する回答

評価される点		%
入学前、直後のPC実習の有効性	10	100.0
計	10	100.0
<b>課題とされる点</b>		
PC・IT関連の知識格差	4	16.0
表現力不足	5	20.0
学習指導要領に伴う履修格差	16	64.0
計	25	100.0

一方、学生の意欲に関する自由記述を整理すると(表 4-4)、学習に対するモチベーションの向上に有益であったとの評価(14 件)や学生間あるいは教員と学生との間での交流が活発化した点を評価する意見(8 件)が見られる。さらにこうした成果によって退学者が減少しているという積極的な評価も 4 件見られた。

その一方で、単位認定を行っていないプログラムの場合(11 件)、あるいは選択科目として設置している場合(11 件)に授業に対する出席率の低下が問題となっていることも指摘されている。あるいは学生間にみられる意欲格差(11 件)と同様に学生と教師の間にも指導・学習に関する意欲の格差が生じている(6 件)との指摘もみられる。ここには教師にプログラムに対する熱意が低い場合と学生側に導入教育プログラムに対する受講の熱意が低い場合の双方が含まれている。またいわゆる「ひきこもり」という言葉に象徴されるように、事務担当者や授業担当者からどのような働きかけをしても授業に参加しない学生が増加していることを踏まえ、たとえ導入教育プログラムを充実させても現状においては大学側の対応に限界があるとの指摘(9 件)も少なくない。

さて、以上触れてきた課題の中でも、特に導入教育プログラムを担当する教員をめぐる課題については、自由記述欄でも多数の指摘がみられる(表 4-5)。もっとも多くを占めたのが、担当教員によって教育内容や水準の格差が存在している点の指摘である(29 件)。この内容・水準の格差と並行して、教員の指導力自体にも格差が存在し FD が愁眉の急であるとの指摘が見られる(7 件)。一方で担当教員の過重負担を指摘する回答も見られ(10 件)、こうした特定教員の負担増の背景として、専任教員の間にもみられる非協力的態度(12 件)、特に非常勤教員が複数名担当している場合における教員間での内容調整の困難さ(8 件)を指摘する回答が見られる。

表4 - 4 学生の意欲に関する回答

評価される点		%
モチベーションの向上に有益	14	53.8
退学者の減少	4	15.4
学生間、教師・学生間の交流活発化	8	30.8
<b>計</b>	<b>26</b>	<b>100.0</b>
<b>課題とされる点</b>		
学習意欲モチベーション出席率の低下	11	14.5
専門教育につなげる動機付け低さ	6	7.9
水準の維持の困難さ	5	6.6
受講の必要性の選別	8	10.5
単位・授業負担の多さへの批判	5	6.6
選択制導入による履修率低下	11	14.5
救えない学生増・大学側対応の限界	9	11.8
学生としての自覚の未発達	4	5.3
学生・教師間の意欲格差	6	7.9
学生間の意欲・能力格差	11	14.5
<b>計</b>		<b>100.0</b>

表4 - 5 教員に関する回答

課題とされる点		%
内容・水準の教員格差	29	39.2
担当者の熱意格差	8	10.8
担当者の指導力格差・FDの必要性	7	9.5
担当教員の過重負担	10	13.5
教員不足・専任教員の非協力的態度	12	16.2
講師間での内容調整の困難さ	8	10.8
<b>計</b>	<b>74</b>	<b>100.0</b>

以上のような自由記述の回答傾向から、導入教育プログラムに関して、次の2点が課題となっているように思われる。

第一に、少人数制教育・個別指導の成果を認識しつつ、選択制ないし講義形式を導入せざるを得ないジレンマをどのように克服するのかが、各学部における問題となっているようである。学生間、教員・学生間の交流を通じて学習への動機付けを促し、さらに専門領域の学習へと導く必要性を十分認識しつつ、経費や他の要因によって十分な数の講座を開講できていない状況の指摘が自由記述の中で繰り返し



なされていることは、本問題が機関の違いを超えて共通の問題となっていることを示唆している。

第二に、内容・水準・評価方式の統一への期待と、それを阻む教員間の指導力・熱意・意識の格差の克服がやはり多くの学部にとって課題となっているという点である。教員一人当たりの学生数が多い私立大学において、入学段階から少人数制指導を行うためには教員集団全体の理解と協力が必要であるが、一方で多様な大学教育観を有する専任教員間でゆるやかな合意に基づいて、逆にいえば厳密な調整を行わないままで教育課程編成を行っている限り、導入教育プログラムを担当する教員の間で内容・水準・単位認定の基準などが大きく異なることとなる。少なくとも同一組織内では平等で扱われることを学生は強く望んでいるようであり、内容などの格差はすぐさま大学内の教育課程全体に対する学生の不満や大学組織そのものへの不信へと転化しがちである。他方で非常勤講師に協力を依頼する場合、教育課程全体における当該プログラムの位置付けへの理解を求め、さらに内容の調整を図ることは容易ではない。こうした状況はまた、誰が担当しても一定水準を維持できる「共通教材」の作成を希望する意見の背景とも理解される。

以上のような導入教育プログラムの意識を見る限り、今後の改善にあたってはプログラム開発の問題と教員に対するFDをはじめとする働きかけの双方からのアプローチが必要であることが示唆されていることが読み取れるのである。

## まとめ

山田 礼子

本調査は学生達を大学で学問への動機付けを含め、大学生生活全般への円滑な適応を促進させるような「導入教育」の効果的なプログラムを開発するために、大学における導入教育と学生の現状をその前提として把握することを目的として実施された。

第一部を通して検討してきたように、現在の日本のほとんどの大学（本調査では私立大学のみを対象としている）においては、導入教育がなんらかの形で実施されている。導入教育を実施してきた大学が1991年を超えて増大の一途をたどり、とりわけ、学生の学力低下問題が全国的に焦点化されてきた1999年を境に急増しているという傾向が見られる。しかしながら、その内容においては学部間での温度差あるいは大学間での認識の違いがあり、その傾向や課題も十分に整理され把握されているとはいえない。

たとえば、人文系学部が「大学教育への円滑な移行」や「高校までの教育との違いを自覚させる教育」として導入教育を位置づけているのに対し、多くの理系学部は「高校までに当然習得すべきであった内容を教える補習教育」としてみなしている傾向がある。しかし、今後導入教育を強化していくという方向性あるいはその必要性については、全ての学部に通じて認識されていることが明らかになっている。その背景には、多少の温度差こそ存在するものの、大多数の大学が学生の現状については学力面および学生生活面についての悪化を認識していることがあろう。ここで、学力面と学生生活面における現状認識を分類した場合、学力面においては確かにそれほど改善すべき必要性があるとの認識がない大学も小数ながら存在するのだが、学生生活面においては学部、大学を問わずほとんどの大学が改善すべき課題であるとの認識をもっている。それらはカウンセリング体制を含めた学生生活支援をどう大学機関に取り入れていくかという課題でもある。

次に、教師との関係に焦点化した場合、教員の持つ「教員文化」と近年の「学生文化」との大きな隔絶を多くの教員が深く実感していることであろう。近年の学生の変容を前提とするならば、教員の側が近年の「学生文化」を本当に理解しているのだろうかという大きな問題を提示しているともいえる。つまり、「高等教育の大衆化」という言葉のみが先行した状況において、本当に「高等教育の大衆化」時代に適合した教育内容、教授法を教員が提供しているのだろうかという問いでもある。いうなれば、「導入教育」を大学という組織・機関に浸透させていくことには、教員の意識を改革していくというFD活動の進展とも表裏一体の関係にあるともいえよう。

今回の研究は、あくまでも質問紙調査により学生の現状と導入教育の現状を把握するという段階にとどまっており、実際に特色のある導入教育を実施している大学への事例調査は行っていない。しかし、事例回答欄および自由解答欄を通じて、特色ある導入教育を実施している機関を把握することが可能となった。この知見に

もとづき、次の段階ではこうした大学への訪問調査を通じ、最終的には効果的な導入教育プログラムの青写真を提示することを検討している。

## **第二部**

# **「一年次教育のニーズとプログラム 評価に対する調査」**

2001年に実施した「導入教育に関する全国私立大学学部長調査」の分析結果と重要視されている導入教育内容における共通性、学生の現状および学生をめぐる諸問題への対応状況の規程要因については本報告書の第一部に詳細が収められている。調査結果から、「導入教育調査研究班」は学生の意欲や学力の低下が一般的な現象として拡大する状況のなかで、多くの大学が導入教育の必要性を認識し、正規教育課程として導入教育プログラムを構築していること認識した。しかし、本調査は基本的に教員側の意識調査を主体とした導入教育に関するニーズ調査であることから、実際に学生が導入教育に対して、どのようなニーズを抱き、実際の導入教育を受講した際にどのような内容が評価されているかについての実態を把握することには限界があった。そこで、われわれは2003年7月に一年次生を対象に「一年次教育のニーズとプログラム評価に対する調査」を実施することにした。

本調査には学生側の評価と成長を確認する受講生調査という点に特徴がある。本調査を実施した背景には、前回の調査を通して、一年次（導入）教育（以下一年次教育とする）が1990年代後半以降急速に各大学の教育課程に組み入れられてきたという普遍化の現状が観察されたこと、そしてその背後には調査により確認された学生の学力や意欲の低下現象があること、また高校から大学への転換期を支援するアメリカ型の一年次教育が不在であるという現実、すなわち一年次教育を提供されている内容で分類すると「概論」、「専門教育の基礎」、「情報リテラシー」型に収斂される日本の特徴が確認された。

この結果を踏まえて、「一年次教育のニーズとプログラム評価」においては、一年次教育受講前後の自己評価の実態、大学別、成績別、入試形態別での自己評価の実態、授業形態・方法に関する評価の実態、授業内外において一年次で指導して欲しい内容のニーズの実態、学習習慣の自己評価の実態と大学別、成績別、入試形態別の特徴、学習意欲・積極的学習活動の規程要因を探り、そうした結果にもとづいて問題提起:日本版一年次教育にふさわしいカリキュラム・モデルを提示することを目的として調査を実施することにした。

調査対象校を選定する際に、2001年度調査の結果をもとに、特徴的な一年次教育を実施している大学をリストアップし、その結果7私立大学からの調査の協力を得た。7大学を簡単に紹介すると、関東にある教養系学部重点が置かれている大学1校（A，B大学）、理工系単科大学1校（C大学）、東京にある総合大学1校（D大学）、関西にある国際系学部を持つ大学1校（E大学）、関西にある総合大学1校（F大学）、関西にある社会科学系学部が中心の大学1校（G大学）、関西にある新設の看護・福祉系学部を持つ大学1校（H大学）である。これらの大学で一年次教育を受講している学生を対象に前期授業の終了時に調査を実施し、1632人から回答を得ることができた。大学別クロス集計では回収数の多い一大学二クラス分のデータを分割して集計した（A，B大学）。

調査項目は、回答者の基本的属性項目に加えて、受講前後の自己評価（学習スキル、自己管理能力等）、受講による知識・技能獲得の自己評価（大学に関する情報等）、教員・プログラムに対する総合評価、授業形態・指導方法に対する評価、大学（授業等）で指導して欲しい内容、自身の学習習慣の自己評価から成り立っている。

第5章では全体の結果について概観し、さらに大学別の特徴について詳述することにする。

## 第5章 調査結果の概要

沖 清豪

本章では、学生調査の集計結果の概要について設問別に報告する。

### (1) 学習スキル関連の自己評価

調査票設問1では、一年次教育を履修した学生自身が授業前後でどのような能力・技能を習得したと自己評価しているのかについて尋ねている。

単純集計をみると、授業前後で大幅な自己評価の改善が見られる項目として、レポート作成能力(3)、図書館活用(4)、PC操作(5)、プレゼンテーション技能(10)が上げられており、一般的に技能系項目では授業を通じての達成感が高いことが伺われる。一方、比較的改善に乏しい項目として、ポイント要約(1)、根拠ある批判力(9)、粘り強さ(12)などが上げられており、論理的スキルの獲得では達成感が低いことが示されている。

一方大学別にクロス集計を確認すると、改善状況は項目によって異なっていることが示されている中で、いずれの項目でも大幅な改善が見られる大学(C大学等)がある一方で全体として改善されたという自己評価があまり見られない大学(F・D大学等)もみられ、学習スキル改善の大学間格差が存在していることがうかがわれる(表5-1・表5-2)。ただし本点については、入学時のスキルの実際ならびにその評価が大学によって異なることが想定されるので、それぞれの大学における教育課程の質や評価とは結びつかない点に留意が必要である。具体的には次章以降で検討する。

表5 - 1 学習スキルに関する授業前の自己評価(大学別集計)

	A	B	C	D	E	F	G	H	全体
Q1_1) 講義の重要ポイントをまとめる力(過去)	2.571	2.499	2.198	2.638	2.333	2.725	2.246	2.259	2.425
Q1_2) 自分の意見と事実をわけて書く力(過去)	2.456	2.368	2.004	2.536	2.373	2.412	2.162	2.019	2.291
Q1_3) 定められた形式に従ってレポートを書く力(過去)	2.434	2.189	2.019	2.159	2.207	1.941	2.145	1.954	2.178
Q1_4) 図書館の利用方法や文献を調べる力(過去)	2.317	2.193	1.915	2.391	2.176	2.03	2.241	2.185	2.175
Q1_5) コンピュータ等を操作する技能(過去)	2.328	2.304	2.229	2.304	2.391	1.863	2.512	2.287	2.298
Q1_6) インターネットで情報収集できる力(過去)	2.619	2.555	2.358	2.594	2.556	2.09	2.573	2.472	2.504
Q1_7) ものごとの問題点を発見する力(過去)	2.386	2.32	2.126	2.377	2.333	2.304	2.237	2.112	2.281
Q1_8) 課題を解決する力(過去)	2.474	2.391	2.2	2.464	2.42	2.26	2.243	2.112	2.34
Q1_9) 他人の意見に根拠のある批判をする力(過去)	2.303	2.256	1.977	2.203	2.287	2.039	2.123	1.981	2.173
Q1_10) プレゼンテーション技能(過去)	1.983	1.887	1.667	1.941	2.06	1.833	1.942	1.434	1.862
Q1_11) 意見を筋道立てて主張できる力(過去)	2.205	2.194	1.877	2.246	2.262	2.176	2.122	1.889	2.123
Q1_12) 物事に対して粘り強く取り組む力(過去)	2.664	2.547	2.222	2.812	2.4	2.608	2.308	2.491	2.49

表5 - 2 学習スキルに関する授業後の自己評価（大学別集計）

	A	B	C	D	E	F	G	H	全体
Q1_1) 講義の重要ポイントをまとめる力	2.769	2.723	2.73	2.647	2.698	2.64	2.635	2.453	2.694
Q1_2) 自分の意見と事実をわけて書く力	2.8	2.786	2.719	2.676	2.669	2.54	2.609	2.5	2.706
Q1_3) 定められた形式に従ってレポートを書く力	3.197	2.965	2.896	2.882	2.643	2.91	2.644	2.84	2.923
Q1_4) 図書館の利用方法や文献を調べる力	2.737	2.627	3.223	2.765	2.766	3.1	2.753	2.953	2.841
Q1_5) コンピュータ等を操作する技能	3.312	3.257	3.058	2.721	2.793	2.7	3.006	2.991	3.084
Q1_6) インターネットで情報収集できる力	3.345	3.272	3.011	2.897	2.842	2.827	3.006	3.112	3.116
Q1_7) ものごとの問題点を発見する力	2.788	2.644	2.726	2.721	2.583	2.677	2.56	2.5	2.67
Q1_8) 課題を解決する力	2.903	2.799	2.738	2.721	2.554	2.525	2.563	2.458	2.717
Q1_9) 他人の意見に根拠のある批判をする力	2.678	2.452	2.536	2.485	2.475	2.434	2.45	2.283	2.505
Q1_10) プレゼンテーション技能	2.753	2.378	2.737	2.544	2.336	2.32	2.348	2.327	2.514
Q1_11) 意見を筋道立てて主張できる力	2.779	2.529	2.617	2.5	2.449	2.475	2.44	2.29	2.56
Q1_12) 物事に対して粘り強く取り組む力	2.945	2.827	2.846	2.926	2.612	2.62	2.665	2.733	2.803

## (2) 自己管理能力などの自己評価

設問2では自己管理能力について改善状況の自己評価を尋ねている。単純集計をみると、スケジュール管理の能力を除き、改善はあまりなされていないという自己評価が下されていることが示されている（表5-3）。特に、欠席時の授業内容のフォロー、授業に対する積極的姿勢に対する自己評価の低さが注目され、欠席時の授業内容のフォローについては、2大学で授業後に自己評価が下がっている。ただしこれも当該一年次教育だけではなく、前期授業全体を通じて大学における授業態度の変化総体として捉える必要があるだろう。

表5 - 3 自己管理能力に対する自己評価の改善状況（授業前 - 授業後 大学別集計）

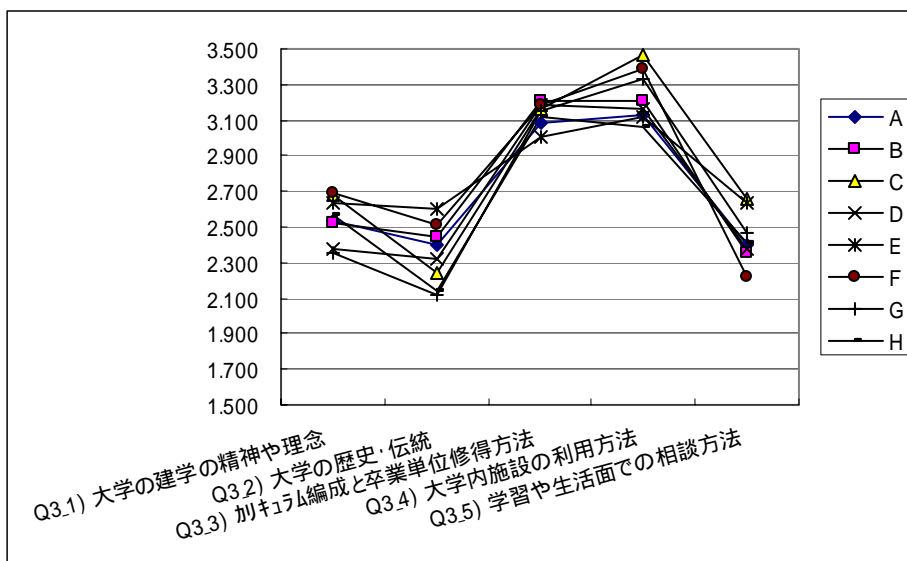
	A	B	C	D	E	F	G	H
Q2_1) 自分のスケジュール管理	0.42	0.327	0.675	0.392	0.409	0.12	0.367	0.237
Q2_2) 学習計画を立てる	0.316	0.224	0.65	0.009	0.254	-0.02	0.287	0.161
Q2_3) 課題の提出期限を守る	0.208	0.215	0.454	0.132	0.294	0.077	0.223	0.111
Q2_4) 欠席した授業内容を補う	0.143	0.154	0.252	0.069	0.253	-0.06	0.204	-0.05
Q2_5) 積極的態で授業に臨む	0.231	0.214	0.292	0.069	0.242	0.055	0.129	0.006

## (3) 大学に関する知識の獲得

一年次教育を実施する目的として、その大学の理念や歴史を理解すること、および現在の大学の教育課程の基本となる仕組み、具体的には単位制度や問題が生じた場合の対応方法などについて十分に理解させることが上げられる。問3では大学に関する知識の獲得がどの程度進んでいるのかについての理解度の自己評価を尋ねている。単純集計をみると、高い理解度を示しているのが、カリキュラム編成・卒業単位、大学内施設の利用方法となり、一方で低い理解度にとどまっているのが、当該大学の建学の理念、大学の歴史、学習・相談面での相談方法となっている。なおこうした自己評価の傾向は大学間でほぼ同様の傾向を示している（図5-1）。



図5 - 1 大学に関する知識の理解度の自己評価（大学別）



#### (4) 獲得した力量の自己評価

授業を通じてどのような力量を獲得したかどうかとは別に、獲得した（すべき）力量について受講生自身はどのように評価しているのだろうか。問4では一年次教育を通じて獲得した力量が有益であったかどうかについて尋ねている。

単純集計をみると、有益であったという自己評価が多くなっている項目として、多様な視野の獲得、社会問題への関心の高まり、大学生としての自覚の獲得などが上げられており、一方有益ではないと評価されている項目として、愛校精神の獲得、リーダーシップの発揮が指摘されている。また特に有益であったという項目の学校間での違いに着目すると、多様な視野の獲得や協調性の獲得といった点でF大学の評価が高くなっている。これは当該授業の目的や方法が他の大学とは多少異なっており、特に多様性・協調性の獲得に必要となると思われるグループでの活動などが学生からの評価を受けていることが想定される（表5-4）。また表5-1・5-2で示された学習スキルの自己評価の動向とも回答傾向が異なる点も注目される。

表5 - 4 獲得した力量の有効性に関する自己評価（大学別）

	A	B	C	D	E	F	G	H	全体
Q4_1) 大学生活での目的目標の設定	2.967	2.568	2.494	2.841	2.58	2.471	2.591	2.519	2.652
Q4_2) 学問に対する動機づけ	2.737	2.581	2.525	2.913	2.475	2.48	2.591	2.593	2.606
Q4_3) 職業や進路選択の方向づけ	3.078	2.612	2.429	2.928	2.408	2.186	2.602	2.241	2.627
Q4_4) 探究心をもつ	2.966	2.803	2.973	2.971	2.478	2.882	2.64	2.87	2.834
Q4_5) 社会問題への関心をもつ	3.058	2.925	2.888	3.246	2.526	2.922	2.743	2.935	2.904
Q4_6) 多様なものの見方にふれる	3.276	3.013	2.958	3.42	2.724	3.147	2.875	3.208	3.059
Q4_7) 批判的精神をもつ	2.818	2.74	2.673	2.913	2.532	2.775	2.577	2.824	2.724
Q4_8) 一般常識を身につける	3.014	3.003	2.865	2.739	2.752	2.559	2.909	2.704	2.888
Q4_9) 協調性をもつ	2.911	2.654	2.622	2.681	2.783	3.225	2.801	2.898	2.789
Q4_10) 大学生であるという自覚をもつ	2.906	2.814	2.897	2.754	2.815	3.02	2.83	2.963	2.87
Q4_11) 愛校精神をもつ	2.179	2.159	2.05	1.913	2.346	1.902	2.331	2.019	2.146
Q4_12) 自分に自身や肯定感をもつ	2.961	2.668	2.596	2.493	2.615	2.178	2.545	2.269	2.638
Q4_13) リーダーシップを発揮する	2.304	2.14	2.143	2.188	2.359	2.441	2.227	2.167	2.231

(5) 教員評価および授業の総合的評価

問5では教員の姿勢および授業の総合的な評価を尋ねている。全体として、いずれの項目とも高い評価を得ている。

特にいずれの大学でも高い評価を得ているのが、教員の熱意と誠意、および一年次教育としての総合的な評価であり、教員の熱心さ、質問への適切な対応などが学生に好意的に受け止められ、授業として教育課程内に必要なものであることが示されている。

またここでも学習スキルの習得状況の自己評価とは異なる傾向が大学別集計で示されている。一部の大学では、授業を通じて具体的に習得できたスキルは必ずしも多くないが、一年次教育の授業を通じて、自らの自発性が尊重され、教師の熱意が感じられるものであったことが示されているようである。

表5 - 5 教員評価および授業の総合的評価（大学別）

	A	B	C	D	E	F	G	H	全体
Q5_1) わかりやすさ	3.326	3.1	2.786	2.971	2.703	3.069	2.778	2.602	2.984
Q5_2) 教員の熱意	3.332	3.195	3.206	3.159	2.93	3.059	2.898	3.426	3.174
Q5_3) 質問意見への対応	3.399	3.279	3.324	3.261	2.873	3.235	3.045	3.15	3.236
Q5_4) 学生の主体的参加	3.353	2.997	2.996	3.391	2.759	3.431	2.847	3.176	3.093
Q5_5) 1年生にとって必要な内容	3.232	2.97	3.092	3.159	2.734	3.265	2.83	2.963	3.036

(6) 授業形態・指導方法

問6では一年次教育として実施されている授業の形態および指導方法についての評価を尋ねている。

まず各授業の指導方法について学生側の認知度を確認してみると、調査対象のすべての大学で実施されていると受講生に認識されている項目は「課題提出物の添削と返却」「定期的な課題提出」「教員による講義」となっており、逆にほとんどの大学で実施されていないと受講生に認識されている項目は「SA（上級生の授業助手）」

の活用」、「実験・実習」、「グループ・プロジェクト」、「フィールド・ワーク」、「体験学習」となっており、演習・実践形式の授業、および集団で何らかの作業を実施する経験の乏しさが示されている。

では体験者の評価が高い指導方法はどのようなものであったかを確認してみると、「学生によるプレゼンテーション」、「教員の講義」、「課題の添削・返却」、「定期的な課題提出」などが上げられている。これらは一様に授業内での教員からの一定以上の働きかけを求めるものであり、主体的・能動的に何らかの活動することに必ずしも高い評価が得られているわけではない点に留意が必要であると思われる。

表5 - 6 実施された指導方法（大学別）

実施という回答が70%以上の項目	A	B	C	D	E	F	G	H
Q6_1) グループ・ディスカッション				87.0	73.4	98.0	61.9	88.0
Q6_2) 学生によるプレゼンテーション			98.5	72.5	78.5	72.5	64.8	
Q6_3) 教員による講義		71.3	80.2		77.8	69.6	72.7	88.9
Q6_4) TA（院生の授業助手）の活用						98.0		
Q6_5) SA（上級生の授業助手）の活用								
Q6_6) グループ・プロジェクト						78.4		
Q6_7) 課題提出物の添削と返却	70.3	72.9	76.8	92.8	70.9	84.3		92.6
Q6_8) 定期的な課題提出	83.4		87.8	84.1	75.3			76.9
Q6_9) フィールド・ワーク						91.2		
Q6_10) 体験学習					62.0			
Q6_11) 実習・実験								

表5 - 7 指導方法に対する評価（大学別）

	A	B	C	D	E	F	G	H	全体
Q6_1) グループ・ディスカッション	2.9	2.632	2.75	3.356	2.612	3.245	2.849	2.894	2.884
Q6_2) 学生によるプレゼンテーション	3.296	2.734	3.359	3.4	2.748	3.095	2.752		3.097
Q6_3) 教員による講義	3.269	3.169	3	3.225	2.686	2.986	2.825	2.842	3.031
Q6_4) TA（院生の授業助手）の活用	2.919	2.565	2.16	2.2	2.602	3.35	2.377	2.889	2.776
Q6_5) SA（上級生の授業助手）の活用	2.738	2.619	2.207	2.167	2.596	3.167	2.368	2.727	2.555
Q6_6) グループ・プロジェクト	2.823	2.283	2.615	3.263	2.489	3.163	2.513	2.8	2.704
Q6_7) 課題提出物の添削と返却	3.446	3.294	2.965	3.19	2.723	2.953	2.813	3.182	3.135
Q6_8) 定期的な課題提出	3.297	3.222	3.03	3.397	2.822	2.985	2.779	2.976	3.102
Q6_9) フィールド・ワーク	2.927	2.026	2.839	3	2.607	3.088	2.545	2.833	2.709
Q6_10) 体験学習	3.085	2.209	2.65	2.667	2.724	3.429	2.569	2.688	2.71
Q6_11) 実習・実験	3.292	2.5	2.535	2.667	2.581	3	2.565	2.875	2.768

#### （7）授業内ないし授業以外で獲得したい知識

問7では大学における教育活動全体を通じて、どのような課題について指導を受けてみたいかについて尋ねている（図5-2-5-3）。

単純集計をみると、授業内での指導を希望する項目として、「就職相談」「留学相談」「履修関連」「学習相談」が上げられる。一方、授業よりも授業外で学びたいという項目として、「就職相談」「心理相談の利用法」「セクハラ相談方法」などは授業以外で学びたいという希望が高くなっており、授業観や指導観を示しているも

のと思われる。なお、一部大学では全体的に授業での「指導」よりも授業外での「指導」を希望するといった傾向も見られる。

図5 - 2 授業内で学びたい内容（大学別）

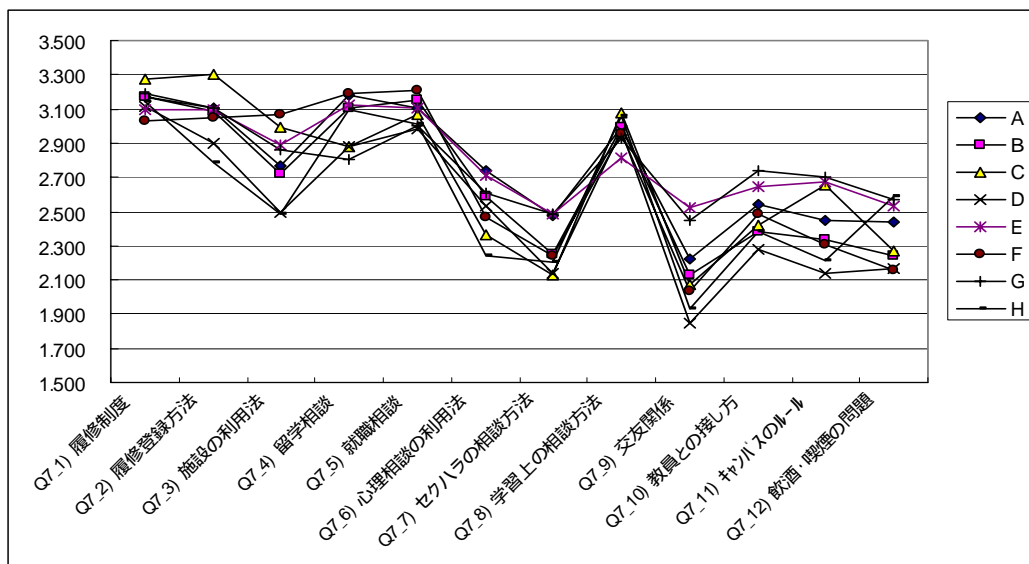
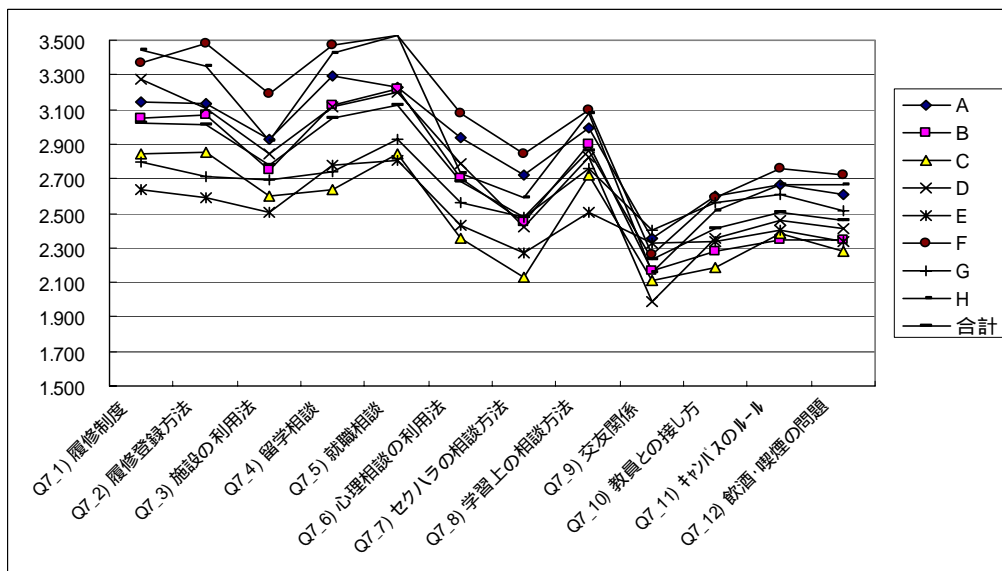


図5 - 3 授業外で学びたい内容（大学別）



(8) 日常の学習への姿勢

問8では大学入学後の生活における学習活動への姿勢全般について尋ねている。単純集計によると、多くの学生が実施していない活動として、「学生同士の研究会に参加する」「ボランティア活動をする」「授業がない日も大学に来る」「教科書以外の英語の文献を読む」「雑誌論文などを読む」「授業のコンパには参加する」が上げられている。一方、多くの学生によって積極的に実施されている活動として、「授業の課題はきちんと提出する」「先生や目上の人には敬語を使う」「約束時間を守る」「試験前に教科書・参考書を読む」「試験前に授業ノートを読む」「授業をアルバイト、サークルより優先する」が上げられている。

表5 - 8 大学生活における学習活動への姿勢（因子分析）

	1 試験 重視	2 積極 学習	3 律儀	4 人間 関係	5 授業 重視
Q8_13) 試験前に教科書・参考書を読む	0.761				
Q8_12) 試験前に授業ノートを読む	0.736				
Q8_14) 試験前に補足的な調べものをする	0.667				
Q8_15) 試験前に授業内容をまとめる	0.637				
Q8_4) 教科書以外の英語の文献を読む		0.582			
Q8_5) 新聞の政治・経済・国際面を読む		0.527			
Q8_3) 辞書を活用する		0.500			
Q8_1) 雑誌論文などを読む		0.498			
Q8_8) 黒板に書かないことでもノートをとる		0.470			
Q8_9) 授業の課題はきちんと提出する			0.556		
Q8_23) 約束時間を守る			0.547		
Q8_6) 授業での資料を整理する			0.470		
Q8_27) 授業をアルバイト、サークルより優先する			0.429		
Q8_25) 先生や目上の人には敬語を使う			0.411		
Q8_19) ボランティア活動をする				0.639	
Q8_21) 学生同士の研究会に参加する				0.590	
Q8_17) 授業中以外に教員とコミュニケーションをとる				0.435	
Q8_18) アルバイトをする				0.413	
Q8_10) 授業の予習をする					0.634
Q8_11) 授業の復習をする					0.588
Q8_24) 授業がない日も大学に来る					0.408

主因子法・Kaiser の正規化を伴うバリマックス法（11回で収束）

表5 - 9 大学生活における学習活動への姿勢（単純集計）

	合計
Q8_1) 雑誌論文などを読む	1.907
Q8_2) 図書館を利用する	2.571
Q8_3) 辞書を活用する	2.953
Q8_4) 教科書以外の英語の文献を読む	1.838
Q8_5) 新聞の政治・経済・国際面を読む	2.076
Q8_6) 授業での資料を整理する	2.791
Q8_7) ノートは、見出しの工夫をする	2.504
Q8_8) 黒板に書かないことでもノートをとる	2.640
Q8_9) 授業の課題はきちんと提出する	3.460
Q8_10) 授業の予習をする	2.100
Q8_11) 授業の復習をする	2.215
Q8_12) 試験前に授業ノートを読む	3.199
Q8_13) 試験前に教科書・参考書を読む	3.211
Q8_14) 試験前に補足的な調べものをする	2.724
Q8_15) 試験前に授業内容をまとめる	2.898
Q8_16) 授業に遅刻する	2.094
Q8_17) 授業中以外に教員とコミュニケーションをとる	2.026
Q8_18) アルバイトをする	2.456
Q8_19) ボランティア活動をする	1.543
Q8_20) クラブ・サークル活動を行う	2.258
Q8_21) 学生同士の研究会に参加する	1.313
Q8_22) 起床・就寝時間など規則正しい生活	2.274
Q8_23) 約束時間を守る	3.295
Q8_24) 授業がない日も大学に来る	1.731
Q8_25) 先生や目上の人には敬語を使う	3.440
Q8_26) 授業のコンパには参加する	1.988
Q8_27) 授業をアルバイト、サークルより優先する	3.089

(9) 単純集計からの全般的な示唆

以上、設問別の単純集計と一部大学別集計の概要を確認してきた。その結果を改めて整理すると、第一に一年次教育を受講した学生の自己評価を見る限り、学習に関するスキル獲得にはばらつきがみられるが、教員の熱意には高い評価が与えられ、総合的にみて、教育課程としての一年次教育に対して受講生は一定の評価を下していることが伺われる。第二に、一年次教育を通じて獲得された知識・技能については、個人の学習で習得されうる学習スキルと実施不十分な集団活動との間に評価の差が生じており、どのように集団活動を一年次教育に組み込んでいくかが、今後の

プログラム開発において注意すべき点となることが示されている。学生の日常生活でも示されている授業志向という特性をどのように把握し一年次教育プログラムに組みこんでいくのかが今後の課題となるのではないだろうか。





本章では、第5章で概観された質問項目に対する分析と若干重複する部分があるが、まず一年次教育受講前後の学習スキル、自己管理能力等に関連した自己評価の結果を提示する。

図6-1 一年次教育受講前後の学習スキルについての自己評価

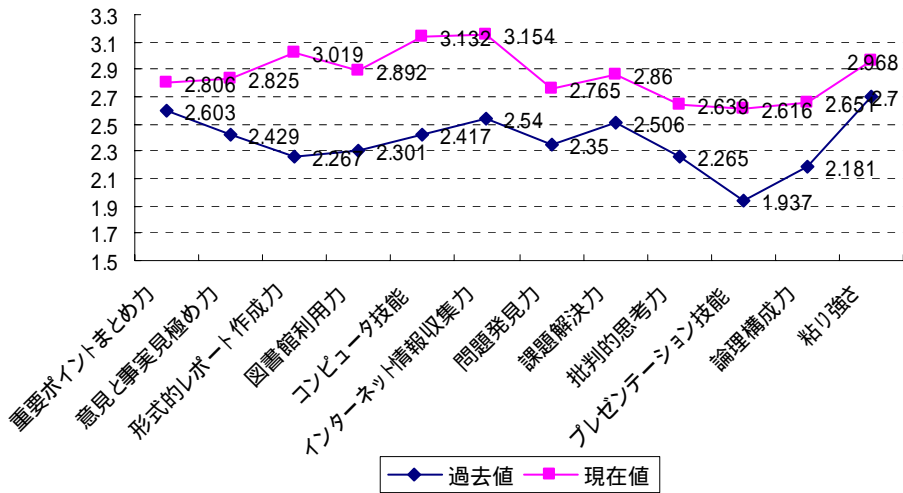


図6-2 一年次教育受講後の自己評価得点の伸び

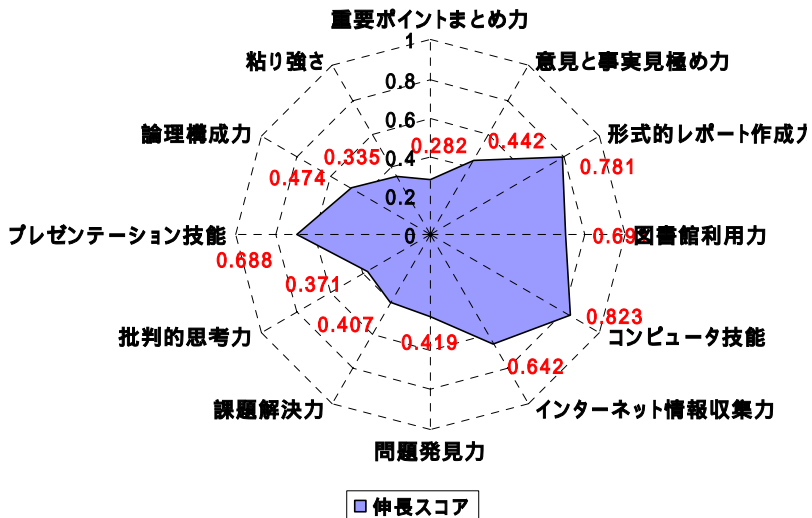


図6-1と図6-2は一年次教育受講前後の学習スキルに関連した自己評価の結果である。図6-1ではすべての項目において授業の受講後に技能の改善がみられる。しかし、その伸びには図6-2に示されているようにばらつきが存在している。例えば、高校時代に既に身につけていた技能としては、「ポイント要約力」、「粘り強さ」、「インターネット情報収集力」の三項目に対する自己評価が比較的高いが、受講後に大幅に改善が見られる技能項目として、「コンピュータ技能」、「形式的レポート作成力」、「図書館利用力」、「プレゼンテーション力」など技能系項目において改善度が高いことが示されている。

一方、改善が見られない項目としては、「ポイント要約力」、「粘り強さ」、「批判的思考力」等が挙げられるが、「ポイント要約力」や「粘り強さ」については、もともと身につけていた項目であることから伸びが低くなるという制約が関係していると考えられ、「批判的思考力」という論理的技能項目は短期的に伸びが期待できるという性質の技能ではなく、一年次だけでなく2~4年次という継続的に育成し行くべき技能であると考えられる。

ここで、身についたと自己評価している学習技能のそれぞれの項目を成績別グループおよび入試形態別グループに分けてその関係性を見たところ、成績別では図書館利用力(下位から中下グループ>中の上>上)を除けば、それほどの差異は観察されなかった。一方入試形態別では、ポイント要約力(AO、公募>一般)、形式的レポート作成力(一般>指定校)、コンピュータ技能(一般、公募>留学生等)、プレゼンテーション(一般>指定校、留学生等)、論理構成力(公募>指定校、AO)という結果が観察された。しかし、いずれのグループにおいても論理的技能項目の伸びにはほとんど差異が存在しないことから、短期間で一年次教育を受講している学生全体の技能の底上げを図るという目的を持つ一年次教育が論理性の育成という高等教育の普遍的目的の達成という課題をどこまで担うことができるのかという根本的な疑問を提示しているようだ。

次に、高校時代に身につけていた項目と授業の受講後に見についたと評価した全項目の点数を上位、中位、下位に3グループ化し、高校時代の成績との関係を検討した。その結果、高校時代の成績が中の上、中、下位~中の下グループが大学入学後に身につけた技能を高いと自己評価する率が上昇していた。この結果は、一年次教育の底上げ機能がある程度機能していることを示しているのではないだろうか。

表 6 - 1 大学別過去に習得した技能の自己評価

		A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学	G大学	H大学	p < .000	
過去習得 技能分類	低	度数	78	77	114	12	43	32	53	41	450
		大学名の%	24.3%	22.3%	44.0%	17.6%	30.3%	33.0%	32.9%	39.4%	30.1%
	中	度数	134	178	107	35	56	45	65	48	668
		大学名の%	41.7%	51.6%	41.3%	51.5%	39.4%	46.4%	40.4%	46.2%	44.6%
	高	度数	109	90	38	21	43	20	43	15	379
		大学名の%	34.0%	26.1%	14.7%	30.9%	30.3%	20.6%	26.7%	14.4%	25.3%
合計	度数	321	345	259	68	142	97	161	104	1497	
	大学名の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表 6 - 2 大学別現在習得した技能の自己評価

		A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学	G大学	H大学	p < .000	
現在習得 技能分類	低	度数	60	94	59	24	56	37	59	39	428
		大学名の%	20.6%	28.9%	23.0%	35.3%	43.1%	39.4%	38.6%	39.8%	30.2%
	中	度数	124	143	114	28	49	43	64	42	607
		大学名の%	42.6%	44.0%	44.5%	41.2%	37.7%	45.7%	41.8%	42.9%	42.9%
	高	度数	107	88	83	16	25	14	30	17	380
		大学名の%	36.8%	27.1%	32.4%	23.5%	19.2%	14.9%	19.6%	17.3%	26.9%
合計	度数	291	325	256	68	130	94	153	98	1415	
	大学名の%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

同様に、高校時代に身につけていた項目と授業の受講後に身についたと評価した全項目の点数を3段階にグループ化し、大学別に見た結果を表6-1、表6-2に示してみたが、過去習得度が低いと評価している比率の高いC大学の場合、現在習得度が高いと自己評価する学生の比率がほぼ倍増していることが判明した。過去において習得度が高いと自己評価した比率と比べて、現在習得度が高いと自己評価している比率が低くなっている大学としてD,E,F,G大学がある。この数字だけでは単純に現在習得しているとする技能が低いと判断できるものではなく、むしろこのような自己評価の背景には大学と高校での学習内容の差異もしくは獲得技能の解釈や定義の違いが関係しているという見方のほうが妥当性があるように思われる。

さて、最近第一世代問題に着目した研究が登場している。第一世代問題とはもともとアメリカにおいて、学生の大学生活への適応が円滑に進展するかあるいはしないかという問題を設定した際に、親や兄弟あるいは祖父母を含めて高等教育へ進学した家庭で育った学生は比較的学業、生活面を含めて全般的な大学生活への適応が円滑に進展するのに対し、家族のなかで始めて高等教育へ進学した学生の適応には困難がともなうということに収斂される。とりわけ、移民やマイノリティ問題、低所得層家庭の子の進学を促進する政策が公にとられているアメリカの公立機関を中心とする高等教育機関において、近年様々なアプローチによる第一世代問題の研究が進展してきている。日本においては、河野等のグループが日本の高等教育における第一世代の適応問題に着目した研究に着

手しており、その先行研究によるとアメリカの研究と類似性のある不適応問題が散見されるという結果も示されている。

本調査においても、日本の高等教育と第一世代問題の関係はどうであるかという問題意識のもとに検討してみたところ、高校時代に身につけていた項目のレベル別と親の学歴にはほとんど関連性は見られないが、現在身につけた項目のレベル別と親の学歴に見られる関連性として高学歴父を持つグループの獲得技能の高いグループの比率が高くなっていることが見受けられた。このことから大学入学後に第一世代問題が浮上してくるのかもしれない。

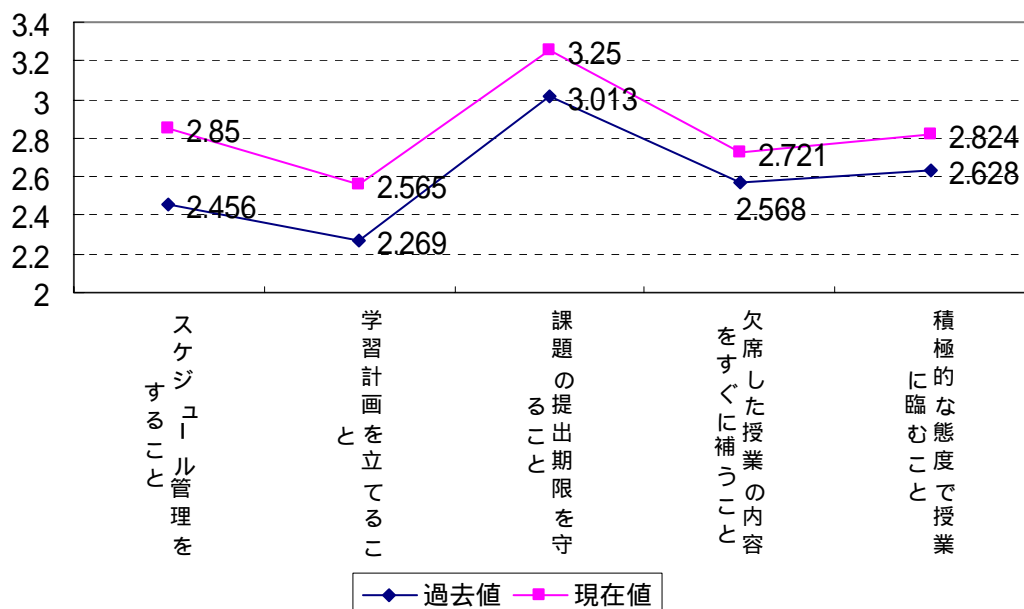
表 6 - 3 父親学歴と過去において習得した学習技能のレベルとの関係

		高等学校卒	短大・高専・ 専門学校卒	大学卒	大学院修了	その他・ わからない		
過去習得 技能分類	低	度数 Q19 最終学歴 (父)の%	138 29.7%	22 24.2%	205 30.8%	8 28.6%	71 38.0%	444 30.9%
	中	度数 Q19 最終学歴 (父)の%	214 46.1%	44 48.4%	297 44.6%	13 46.4%	65 34.8%	633 44.1%
	高	度数 Q19 最終学歴 (父)の%	112 24.1%	25 27.5%	164 24.6%	7 25.0%	51 27.3%	359 25.0%
合計	度数 Q19 最終学歴 (父)の%	464 100.0%	91 100.0%	666 100.0%	28 100.0%	187 100.0%	1436 100.0%	

表 6 - 4 父親学歴と現在において習得した学習技能のレベルとの関係

		高等学校卒	短大・高専・ 専門学校卒	大学卒	大学院修了	その他・ わからない		
現在習得 技能分類	低	度数 Q19 最終学歴 (父)の%	149 33.6%	18 20.5%	186 29.8%	4 16.0%	57 32.4%	414 30.5%
	中	度数 Q19 最終学歴 (父)の%	181 40.9%	40 45.5%	269 43.1%	12 48.0%	76 43.2%	578 42.6%
	高	度数 Q19 最終学歴 (父)の%	113 25.5%	30 34.1%	169 27.1%	9 36.0%	43 24.4%	364 26.8%
合計	度数 Q19 最終学歴 (父)の%	443 100.0%	88 100.0%	624 100.0%	25 100.0%	176 100.0%	1356 100.0%	

図6-3 成績別、入試形態別受講後の学習態度の自己評価



受講前後の学習態度の自己評価について検討してみると、すべての項目において、受講後の改善という評価が観察された。成績別では、すべての項目においてもっとも改善が顕著なグループは高校時代の成績が「下位～中の下グループ」であった。やはり少数人数による一年次教育は、学習態度の改善が高校時代にそれほど成績の良くないグループに顕著な改善が見られるなど底上げ機能があることが示されているようだ。

受講による知識・技能獲得の自己評価結果は表6-5に示されているとおりである。「多様な視野の獲得」、「社会問題への関心」、「一般常識」が評価の高い項目であり、評価の低い項目としては、「リーダーシップ」と「愛好精神の醸成」が挙げられる。

受講による知識・技能獲得の自己評価を大学別、成績別に検討した結果、大学別に「役に立った」「やや役に立った」の合計が70%以上となっている大学を抽出してみると、大学によって教授している内容、授業目標、構成の違いが評価の違いに関連していると推察されるものの、全大学の学生が「多様なものの見方」において役に立ったと評価していることが明らかになった。「社会問題への関心」は7校中6校の学生が、「大学生であるという自覚を持つ」、「探究心を持つ」は5校の学生が、「一般常識を身につける」「協調性を持つ」は4校の学生が役に立ったと評価していた。一方で、「愛校精神を持つ」と「リーダーシップの発揮」については、学生の70%以上が役に立ったと評価している大学は皆無であった。

成績別の自己評価の特徴としては、全般的に「役に立った」と評価する比率が高いのは高校時代成績上位者であった。逆転項目の例としては、「一般常識を身につける」

中の上 > 中 > 上位 > 下位から中の下 「大学生であるという自覚を持つ」 中の上 > 中 > 上位 > 下位から中の下などが目についた。

このような結果から、「愛校精神を持つ」と「リーダーシップの発揮」といった教授内容はアメリカ型の一年次教育では必須であるが、本調査においてはこうしたアメリカ型一年次教育内容を評価する学生は少数であり、アメリカ型モデルが導入されたとしても、学生のニーズが果たしてあるのか、また評価されるのかという点是不透明であることが確認されたといえる。

表 6 - 5 受講による知識・技能獲得の自己評価

	度数	平均値	標準偏差
Q4_6) 多様なものの見方にふれる	1614	3.063	0.788
Q4_5) 社会問題への関心をもつ	1613	2.905	0.811
Q4_8) 一般常識を身につける	1613	2.885	0.791
Q4_10) 大学生であるという自覚をもつ	1618	2.869	0.881
Q4_4) 探究心をもつ	1614	2.839	0.792
Q4_9) 協調性をもつ	1614	2.786	0.860
Q4_7) 批判的精神をもつ	1609	2.727	0.816
Q4_1) 大学生活での目的目標の設定	1616	2.652	0.823
Q4_12) 自分に自身や肯定感をもつ	1614	2.634	0.842
Q4_3) 職業や進路選択の方向づけ	1617	2.625	0.866
Q4_2) 学問に対する動機づけ	1616	2.610	0.790
Q4_13) リーダーシップを発揮する	1613	2.228	0.856
Q4_11) 愛校精神をもつ	1612	2.142	0.863
有効なケースの数(リストごと)	1586		

次に、大学別授業内外で指導して欲しい内容に見られる特徴として、平均 3 以上の比較的高い項目を抽出した結果、授業内で指導して欲しい内容として全大学が挙げている項目は「単位制度や卒業要件」という教務に関する項目であり、履修登録方法についても、1大学を除く全大学が要望していた。就職相談についても同様に1大学を除く全大学が要望していた。授業以外においても 5 大学が「単位制度や卒業要件」、「履修登録方法」、「留学」、「就職相談」を要望していた。

同様の基準で、成績別の検討では、授業内で指導して欲しい内容としては、成績にかかわらず全ての層からの「単位制度や卒業要件」、「履修登録方法」、「就職相談」への要望が高く、「留学」については 上、中の上、中に位置する学生からの要望および「学習上の問題相談」については 上、中の上に位置する学生からの要望が高いことが結果として得られた。近年の学生の「必修・選択単位制度や卒業要件について」など学生の自主性に任せてきた部分での指導への要望が高いということが示されているようだ。

授業以外では、「就職相談」については全成績段階からの学生の要望が高く、「単位制度や卒業要件」については上、中の上、「履修登録方法」と「留学」 上、中

の上、中に位置する学生からの要望が高いことが判明した。学習に関連する項目に対して積極的な中の上から上位グループの学生と一方では消極的な成績下位から中の下グループという二極分化的な特徴が得られたように思う。また、大学別においても成績別においても授業内外両方において、「交友関係の築き方」「教員との接し方」「キャンパスのルール」「飲酒・喫煙などの健康への影響」等のアメリカ型指導内容すなわち、移行期にどう対処するかについての指導への要望は決して高くないことが判明した。

大学別日常の学習習慣の比較については、(1)試験前対策が準備できている H,F 大学、(2)学習意欲・積極的学習活動が高い F,D 大学、(3)ルール重視を尊重する F,H 大学、(4)人間関係を尊重する D,E 大学という4つの傾向が観察された。

成績別日常の学習習慣の比較結果からは、全ての因子を積極的に実施しているグループとしては、高校時代の成績上位、中の上グループであり、成績が比較的上位グループと下位グループとの間ではとりわけ学習意欲・積極的学習活動の側面での差異が見られた。やはり、下位から中の下グループを指導する必要性と一年次教育の底上げ機能が確認されたのではないだろうか。

さて学習意欲・積極的学習活動が大学での学業を自発的に築いていく上での重要な要素とすれば、比較的自立型学習が実施されている大学(F, D)は学生の自主性を尊重し、一年次教育においても大学主導型で進めていくことが適切であるかという点は考慮すべき点でもある。成績上位グループについても同様である。すなわち、学生の自立型学習がある程度期待できる場合には、一年次教育の内容も高い課題を設定するというをしなければ、学生の満足度が向上しないことにつながるとも推察できる。各大学がその大学の学生の個性や特徴を何らかの調査を実施することにより、その大学に固有の学生の特徴を捉えることは可能であり、そうした結果にもとづき一年次教育カリキュラムを構築していくことの必要性が一連の結果から示唆されている。

表 6 - 6 大学別学習習慣の自己評価比較

	度数	平均値	標準偏差	F値・有意水準	
試験前対策	A大学	357	12.384	3.024	8.47300 p<.000
	B大学	366	12.074	3.028	
	C大学	259	11.799	3.121	
	D大学	66	12.500	2.884	
	E大学	157	11.070	3.600	
	F大学	101	<u>12.990</u>	2.704	
	G大学	175	11.086	3.551	
	H大学	107	<u>13.028</u>	2.553	
	合計	1588	12.031	3.162	
学習意欲・積極的学習行動	A大学	351	17.356	4.258	17.823 p<.000
	B大学	364	16.566	3.762	
	C大学	259	14.317	3.744	
	D大学	67	<u>17.955</u>	4.039	
	E大学	155	16.884	4.804	
	F大学	101	18.347	3.001	
	G大学	174	16.023	4.682	
	H大学	107	16.262	3.575	
	合計	1578	16.496	4.200	
ルール重視	A大学	350	16.437	2.642	17.92500 p<.000
	B大学	360	16.353	2.645	
	C大学	259	16.208	2.750	
	D大学	67	16.463	2.809	
	E大学	152	14.164	3.585	
	F大学	102	<u>17.284</u>	2.213	
	G大学	172	15.057	3.352	
	H大学	105	<u>16.648</u>	2.361	
	合計	1567	16.082	2.920	
人間関係	A大学	356	7.6854	2.734	26.48300 p<.000
	B大学	365	7.5151	2.356	
	C大学	261	5.7548	1.977	
	D大学	67	<u>8.7164</u>	2.354	
	E大学	157	<u>8.4713</u>	2.541	
	F大学	102	6.6173	1.940	
	G大学	173	7.4740	2.872	
	H大学	108	7.2130	2.114	
	合計	1589	7.3266	2.563	

それでは、大学での学業を自主的に進めていく過程において、不可避である学習意欲・積極的学習活動を規定する要因とは何だろうか。ここでは、こうした問題意識に基づき、重回帰分析を試みた結果を示す。結果として、(1)過去、現在ともに図書館利用や文献の検索技能、(2)現在の目標管理(スケジュール管理)能力、(3)過去に身につけていた講義の重要ポイントをまとめる力(4)高校時代の成績や4年制大学進学実績が規定要因であることが判明した。この結果から、高校時代の成績や進学高要因は重要であるものの、大学入学後の積極的な自主的図書館の利用や目標管理能力を向上させることで挽回することは可能ではないかという仮



説が新たに導き出され、アメリカの先行研究で注目されている第一世代問題に関連して、親の学歴を予測変数としたものの、その影響度はほとんど見られなかった。アメリカとは異なり、日本においては第一世代問題は大学での学業を自主的に進め、成功させるプロセスにおいて、それほど考慮すべき問題ではないのかもしれない。

表 6 - 7 学習意欲・積極的学習活動の規定要因

	非標準化係数	標準化係数	t	有意水準
	B	ベータ		
1	10.506		11.975	0.000
図書館の利用方法や文献を調べる力(過去)	1.727	0.323	4.706	0.000
自分のスケジュール管理(現在)	1.179	0.200	3.167	0.002
高校時代の成績	1.080	0.246	4.074	0.000
図書館の利用方法や文献を調べる力(現在)	1.260	0.238	3.604	0.000
講義の重要ポイントをまとめる力(過去)	1.292	0.221	3.259	0.001
4年制大学進学実績	0.901	0.167	2.798	0.006

従属変数:学習意欲・積極的活動 R2乗 .547



## 第7章 一年次プログラムの評価と効果

杉谷 祐美子

第6章までは、平均値などを用いて、調査対象者の全体的な傾向や大学による差異について検討してきた。しかし、個々の学生別にみた場合、入学時までどの程度の力を身につけ、入学後の教育によってその力はどの程度伸びたのであろうか。ここでは、入学前後を比較した学生の向上度に対する自己評価を明らかにすることによって、一年次プログラムの効果について詳細に検討したい。

分析にあたっては、入学前後の時点で習得度を尋ねている学習能力、学習技能、学習態度 17 項目に関して、入学時までの習得度と入学後の習得度 2 つの変数を合成した。まずは、それぞれの変数を 4 段階から 2 段階の評定尺度に変換する。例えば、入学時までの習得度については、「身につけていなかった」「あまり身につけていなかった」をまとめて「身につけていなかった」とし、「やや身につけていた」「身につけていた」をまとめて「身につけていた」とする。同様に、入学後の習得度も 4 段階から 2 段階の評定尺度に変換し、その後、入学時までと入学後の習得度の組み合わせによって新たに 4 類型を作成した。すなわち、第 1 類型「(入学時まで)身につけていなかった - (入学後にも)身につけなかった」、第 2 類型「(入学時まで)身につけていた - (入学後には)身につけなかった」、第 3 類型「(入学時まで)身につけていなかった - (入学後には)身につけた」、第 4 類型「(入学時まで)身につけていた - (入学後にも)身につけた」の 4 類型であり、下記のとおりとなる。

	入学時	入学後
第 1 類型	身につけていなかった	身につけなかった
第 2 類型	身につけていた	身につけなかった
第 3 類型	身につけていなかった	身につけた
第 4 類型	身につけていた	身につけた

本章で平均値による差をあえて扱わないのは、次の理由による。当該設問項目では、入学時も入学後も同じ 4 段階の評定尺度で回答を求めている。1 時点ならば、通常、間隔尺度とみなして量的データとして扱うだろう。しかし、2 時点にわたる設問について、厳密にはそれらを等間隔の間隔尺度としてみなすことは難しいと考えられるからである。仮に 4 段階の評定を「身につけた(身につけていた)」「(4 点)

～「身につかなかった（身につけていなかった）」（1点）と点数化し、入学前後の点数の差を個々人の入学前後での向上度（伸び）とすると、どうなるであろうか。ある能力が入学時に「やや身につけていた」（3点）学生が入学後に「身につけた」（4点）と回答した場合も、「あまり身につけていなかった」（2点）学生が「やや身につけた」（3点）と回答した場合も量的には同じ差となる。しかし、「身につけていなかった」ものが少しでも「身につけた」となる現象と、そもそもわずかでも「身につけていた」ものが「身につけた」となる現象を同様に論ずるのにはおのずと無理があるだろう。そこで、前述の4類型を用いることとした。

表7-1は、項目別にこの4類型の比率を示したものである。第1類型「（入学時まで）身につけていた - （入学後には）身につかなかった」の比率は総じて低いが、それ以外の類型については項目によってばらつきがみられる。

表7 - 1 項目別にみた過去と現在の関係（％）

	かな な か か つ 身 つ た に た ／ つ 身 い て つ い	か た つ ／ た 身 に つ つ い か て な い	い な か た つ 身 に つ つ い な い	た ／ 身 に つ つ い て い
Q1_1) 講義の重要なポイントノートにまとめる力	25.4	10.2	28.6	35.9
Q1_2) 自分の意見と事実をわけて書く力	29.0	5.5	36.1	29.5
Q1_3) 定められた形式に従ってレポートを書く力	20.1	2.9	<b>46.9</b>	30.2
Q1_4) 図書館の利用方法や文献を調べる力	25.2	4.2	<b>41.1</b>	29.6
Q1_5) コンピュータ等を操作する技能	11.9	5.1	<b>46.4</b>	36.7
Q1_6) インターネットで情報収集できる力	12.3	5.6	36.4	<b>45.7</b>
Q1_7) ものごとの問題点を発見する力	33.3	4.5	33.2	29.1
Q1_8) 課題を解決する力	30.3	4.5	31.8	33.4
Q1_9) 他人の意見に根拠のある批判をする力	<b>45.3</b>	4.1	24.5	26.0
Q1_10) プレゼンテーションの技能	<b>42.7</b>	3.4	37.9	16.0
Q1_11) 自分の意見を筋道立てて主張できる力	<b>41.3</b>	4.1	29.7	24.9
Q1_12) 物事に対して粘り強く取り組む力	25.5	5.6	27.0	41.9
Q2_1) 自分のスケジュールを管理すること	24.6	6.2	29.1	40.1
Q2_2) 学習の計画を立てること	37.1	8.4	24.9	29.6
Q2_3) 課題の提出期限を守ること	11.7	5.9	18.1	<b>64.3</b>
Q2_4) 欠席した授業の内容をすぐに補うこと	30.9	9.0	17.0	<b>43.2</b>
Q2_5) 積極的な態度で授業に臨むこと	23.5	8.5	21.2	<b>46.8</b>

第1類型「（入学時まで）身につけていなかった - （入学後には）身につけた」は一年次プログラムの効果が4類型のうち最も高く見出せるパターンと考えられるが、この比率が高いのは「レポートを書く力（Q1\_3）」、「コンピュータ等の操作（Q1\_5）」、「文献を調べる力（Q1\_4）」など学習技能の習得に関する項目である。これに対して、入学以前から身につけており、さらにそれが伸びたとする、第2類型「（入学時まで）身につけていた - （入学後にも）身につけた」は、「課題の提

出期限を守る (Q2\_3)」、 「積極的態度で授業に臨む (Q2\_5)」、 「インターネットで情報収集できる力 (Q1\_6)」、 「欠席した授業内容を補う (Q2\_4)」 など、主に学習態度に関する項目で高くなっている。そして、第 類型は「批判をする力 (Q1\_9)」、 「プレゼンテーション技能 (Q1\_10)」、 「筋道立てて主張できる力 (Q1\_11)」 で高く、これら論理的思考力・表現力などが最も身につけにくい力とみなされている。

次に、個々人の習得度を総合的に示すために、17 項目のうち、各類型に該当する項目数を算出した。例えば、17 項目のうち、第 類型の回答をしている項目が 3 つあれば 3 と数えるわけである。全部で 17 項目あることから、各類型の該当項目数は最低で 0、最高で 17 を示す可能性がある。該当項目数を算出する意味は、学生の属性によって項目を問わず特定の類型を多く回答する傾向があるか否かを明らかにすることにある。

この該当項目数の平均値を大学別にみた結果が表 7-2 であるが(一元配置分散分析、Tukey 法による多重比較) ここから各類型に関する大学ごとの特徴が明らかになる。

A 大学では第 類型「(入学時まで) 身につけていなかった - (入学後にも) 身につけなかった」の該当数が平均的に少なく、反対に、第 類型「(入学時まで) 身につけていた - (入学後にも) 身につけた」が多いことから、総じて自己評価が高いと読み取れる。これに対して、H 大学は第 類型「(入学時まで) 身につけていなかった - (入学後にも) 身につけなかった」の該当数が最も多く、自己評価が低くなっている。紙幅の関係で表は省略するが、項目ごとの回答率を比較したところ、「課題を解決する力 (Q1\_8)」、 「批判をする力 (Q1\_9)」、 「プレゼンテーション技能 (Q1\_10)」、 「筋道立てて主張できる力 (Q1\_11)」 といった論理的思考力・表現力に関する項目で、第 類型「(入学時まで) 身につけていなかった - (入学後にも) 身につけなかった」の回答率が A 大学では低く、H 大学では高いという対照的な結果が得られた。

また、第 類型「(入学時まで) 身につけていた - (入学後には) 身につけなかった」は F 大学で値が高い。入学時点までの習得度への自己評価が高いにもかかわらず、その後向上しなかったと認識している第 類型の値が高いということは、同大学の学生が一年次プログラムの効果に対してやや不満を抱いていると類推できるかもしれない。しかし、項目ごとの回答率によれば、他大学に比べて同大学で第 類型「(入学時まで) 身につけていた - (入学後には) 身につけなかった」の比率が高くなっているのは、「自分の意見を事実とわけて書く力 (Q1\_2)」、 「物事に対して粘り強く取り組む力 (Q1\_12)」、 「スケジュール管理 (Q2\_1)」、 「学習計画の立案 (Q2\_2)」、 「欠席した授業内容を補う (Q2\_4)」 などの主に学習態度の項目である。これら学習態度の涵養については、一般的に一年次プログラムのなかでも直接的に扱う内容とはいいいがたい。とすると、この結果はプログラムの不十分さというよりも、授業で直接的に得られることはないにしても、すでに学生たちがこの種の学習態度をある程度身につけていると認識していることによるのではないだろうか。

表7 - 2 大学別にみた該当項目数の平均値

身についていなかった/身につかなかった					
大学	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較
A	367	3.221	3.396	7.581 ***	B,C,E,F,G>A H>A,B
B	373	4.172	3.481		
C	263	4.361	4.220		
D	69	4.377	3.766		
E	158	5.101	5.107		
F	102	4.608	3.591		
G	176	5.125	4.614		
H	108	5.519	3.810		

身についていた/身につかなかった					
大学	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較
A	367	0.861	2.016	4.842 ***	D,F,H>C F>E,G
B	373	0.981	2.056		
C	263	0.506	1.567		
D	69	1.493	2.311		
E	158	0.728	1.710		
F	102	1.529	2.460		
G	176	0.710	1.948		
H	108	1.296	2.511		

身についていなかった/身についた					
大学	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較
A	367	4.564	3.784	16.923 ***	C>A,B,D,E,F,G,H
B	373	4.625	3.414		
C	263	6.981	4.138		
D	69	4.406	3.431		
E	158	3.684	4.219		
F	102	4.657	3.023		
G	176	3.938	3.720		
H	108	5.074	3.194		

身についていた/身についた					
大学	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較
A	367	6.079	4.546	3.408 **	A>C
B	373	5.786	4.091		
C	263	4.825	3.876		
D	69	6.464	3.767		
E	158	5.006	4.838		
F	102	5.784	3.695		
G	176	5.443	4.710		
H	108	4.852	3.206		

\*\*\*p<.001 \*\* p<.01 \*p<.05

さて、表 7-2 で興味深いのは、一年次プログラムの成果が最も表れている第 類型の平均値が他大学と比べて C 大学においてきわめて高いことである。しかも、表 7-3 によれば、C 大学では、「コンピュータ等の操作 (Q1\_5)」、「インターネットで情報収集できる力 (Q1\_6)」、「欠席した授業内容を補う (Q2\_4)」などを除けば、この第 類型の比率が様々な項目にわたって大きくなっている。そればかりか、すでに述べた最も身につけにくいとみなされる論理的思考力などに関しても自己評価が向上している点が注目されるだろう。同大学は 4 年間にわたる体系立ったカリキュラム編成のもとに、一年次の前期期間全体を大学教育への助走期間と位置づけ、一年次プログラムを複数の授業科目として配置している。また、シラバスの詳細、テキスト、授業内容などの統一化も図り、調査対象校のなかでも、一年次プログラムに最も力を入れてきた大学とみられる。したがって、あくまでも学生の自己評価においてという限定つきではあるが、概してなかなか身につけにくいと思われる能力であっても、プログラムのあり方によっては一定の成果が上がる可能性があるといえる。ここに一年次プログラムの効果と意義を見出すことができるだろう。

しかしながら、先の表 7-1 の結果からは、同時に、それぞれの能力・技能・態度について入学時まで入学後も身につけていないとする第 類型の回答も一定の比率みうけられる。では、このように入学時まで身につけていなかったし、授業を通じて身につけなかったと評価する学生とは、一体どのような学生であろうか。この点、回答者の属性において、進学した大学の志望順位、出身高校の進学状況、親の学歴は該当項目数の平均値とほとんど相関関係はみられなかった。学歴に関していえば、かろうじて、母親の学歴との関連で第 類型の該当項目数の平均に相関性が表れたくらいのものである。これは、母親の学歴が高卒の場合に第 類型の平均値が高く、反対に大学・大学院卒の場合に低いという結果であった。つまり、母親の学歴が低い場合、学生の過去も現在も自己評価が低くなるということである。

表 7 - 3 大学別にみた 「身につけていなかった / 身についた」の比率 (%)

	A	B	C	D	E	F	G	H	全体
Q1_1) 講義の重要なポイントをとまどめる力	22.7	29.1	<b>44.8</b>	19.1	27.6	12.0	28.9	26.4	28.5
Q1_2) 自分の意見と事実をわけて書く力	32.4	34.5	<b>52.3</b>	27.9	26.9	35.0	30.2	35.8	35.8
Q1_3) 定められた形式に従ってレポートを書く力	47.0	48.4	<b>53.3</b>	48.5	33.3	<b>53.5</b>	31.0	<b>56.6</b>	46.7
Q1_4) 図書館の利用方法や文献を調べる力	29.8	31.6	<b>65.1</b>	35.3	39.3	<b>56.6</b>	33.1	48.6	41.0
Q1_5) コンピュータ等を操作する技能	<b>52.1</b>	<b>54.5</b>	45.6	32.4	31.6	43.0	36.3	<b>51.4</b>	46.4
Q1_6) インターネットで情報収集できる力	36.9	41.5	37.1	29.4	23.0	42.9	30.6	40.2	36.3
Q1_7) ものごとの問題点を発見する力	34.0	31.0	42.9	30.9	27.6	33.3	26.6	31.1	33.1
Q1_8) 課題を解決する力	34.2	34.3	<b>43.0</b>	26.5	19.4	24.5	22.6	26.4	31.6
Q1_9) 他人の意見に根拠のある批判をする力	26.0	18.3	34.0	26.5	24.6	26.3	19.7	18.9	24.4
Q1_10) プレゼンテーションの技能	45.4	29.9	<b>55.8</b>	37.3	22.2	30.0	26.8	43.3	38.0
Q1_11) 自分の意見を筋道立てて主張できる力	36.8	26.0	<b>43.6</b>	25.0	18.2	25.3	20.4	21.5	29.7
Q1_12) 物事に対して粘り強く取り組む力	24.5	24.9	<b>40.5</b>	17.6	23.9	18.0	27.2	28.6	27.2
Q2_1) 自分のスケジュールを管理すること	28.9	26.3	<b>40.9</b>	23.5	29.9	22.0	26.1	25.2	29.2
Q2_2) 学習の計画を立てること	26.2	19.4	<b>40.1</b>	14.7	22.6	18.0	21.5	21.5	24.8
Q2_3) 課題の提出期限を守ること	16.0	17.1	26.4	13.2	23.0	12.0	18.4	11.2	18.2
Q2_4) 欠席した授業の内容をすぐに補うこと	14.9	17.9	18.7	17.6	18.2	8.0	20.9	14.0	16.8
Q2_5) 積極的な態度で授業に臨むこと	20.2	20.7	27.2	22.1	19.9	18.0	19.6	15.0	21.0

表 7 - 4 高校での成績別にみた該当項目数の平均値

身についていなかった / 身につかなかった						
成績	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較	
中より上	789	3.744	3.608	23.375 ***	中より下 > 中ぐらい > 中より上	
中ぐらい	379	4.570	4.036			
中より下	365	5.414	4.442			

身についていた / 身につかなかった						
成績	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較	
中より上	789	0.939	2.105	0.508		
中ぐらい	379	0.855	1.978			
中より下	365	0.822	1.777			

身についていなかった / 身についた						
成績	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較	
中より上	789	4.734	3.703	3.834 *	中より下 > 中より上	
中ぐらい	379	4.847	3.697			
中より下	365	5.397	4.219			

身についていた / 身についた						
成績	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較	
中より上	789	6.146	4.354	23.314 ***	中より上 > 中ぐらい > 中より下	
中ぐらい	379	5.459	3.987			
中より下	365	4.362	3.800			

\*\*\*p<.001 \*\*p<.01 \*p<.05

ところが、それ以上に大きな影響を与えているとみられるのは、表 7-4 に示したとおり（一元配置分散分析、Tukey 法による多重比較）、高校時代の成績である。第 1 類型はより成績が低い層に多く、第 2 類型はより成績が高い層に多い。もっとも、第 2 類型「身についていなかった - 身についた」については、成績が中より上の学生よりも中より下の学生において平均値が高くなっている。この結果だけみれば、高校時代の成績が低いほうが一年次プログラムの成果が表れやすいとみえるかもしれない。しかし、表 7-4 をみて明らかのように、この平均値の差は第 1 類型や第 2 類型の場合に比べれば小さい。考えてみるならば、この第 2 類型の結果は当然といえば当然ともいえる。なぜならば、そもそも「(入学時まで) 身についていなかった」という回答は成績の低い学生のほうが回答している率が高いからである。



表 7 - 5 高校での成績別に見た 17 項目の習得度の平均値

入学時までの習得度					
成績	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較
中より上	784	2.457	0.534	36.911 ***	中より上 > 中ぐらい > 中より下
中ぐらい	378	2.359	0.531		
中より下	365	2.168	0.529		

入学後の習得度					
成績	度数	平均値	標準偏差	F 値	多重比較
中より上	750	2.864	0.473	21.828 ***	中より上 > 中ぐらい > 中より下
中ぐらい	366	2.756	0.510		
中より下	351	2.657	0.527		

\*\*\*p < .001 \*\* p < .01 \*p < .05

この点を裏づけるために、表 7-5 をみてみよう（一元配置分散分析、Tukey 法による多重比較）。これは入学時までの自己評価と入学後の自己評価について、4 件法で尋ねた 17 項目全体の平均値をそれぞれ算出したものである。先ほどとは異なり、それぞれの時点を対象としているので、ここでは間隔尺度として扱って平均値を求めている。この表では、過去、現在ともに成績が低い層よりも高い層の方が自己評価の平均値が高くなっていることが明らかである。以上の結果から、学生の向上度に対する自己評価には高校時代の成績が少なからず影響を及ぼしており、こうした自己評価は大学後も維持される傾向にあることがうかがえる。

この点に関して、大学別にもう少し詳しく検討したい。本調査では、A～H の 8 大学（うち、A・B の 2 大学は同一大学だが、人数の関係で履修科目によって分割している）を分析対象としている。調査対象者全体で分析を行った場合、たとえ各大学の特性によって結果に差異が生じていても、それらをひとまとめに分析することで各大学の傾向が相殺されてしまう可能性が考えられる。後掲の附表 1 からは、大学によって、進学状況、高校の成績、親の学歴に格差があることがうかがえる。とりわけ、D 大学、F 大学では、4 年制大学への進学率も高く、高校時代の成績、親の学歴も高い傾向にある。

では、大学によって、学習能力等の向上度を規定する変数は異なるのであろうか。項目ごとに分析してみたところ、結果としては、進学状況（大学進学率）は全体的にあまり影響を与えておらず、A、B、C、E 大学では高校時代の成績によって有意差の表れる項目数が親の学歴のそれよりもはるかに上回り、D、F、G 大学ではその逆の傾向がみられるものの、有意差のみられる項目数はわずかに上回るか、も

しくは等しいにすぎない<sup>1</sup>。これをみるかぎり、個別大学においては、とくに、大学進学率の高い高校出身者や高校時代の成績が上位の学生が多く、親の学歴も高い傾向にある大学では、親の学歴による有意差がややみとれる。しかし、総じて、高校時代の成績のほうの影響をもたらしているといえるようである。

さらに、より際立った差が表れるように、各変数について、中間の層を除外したかたちで、対照的な集団を取り出して分析を行った。各項目ごとに結果をまとめたのが後掲の附表2である。ここでは、第1に進学率について、4分の3以上を「進学」、4分の1以下を「非進学」とし、第2に成績について、中の上以上を「上位」、中の下以下を「下位」とし、第3に学歴について、両親とも大学・大学院もしくは短大相当を卒業していれば「両卒」、両親ともにこれらの高等教育機関を卒業していなければ「非卒」とした<sup>2</sup>。

ところが、ここでも統計的に有意差の表れた項目は、17項目中、大学進学率で6項目、高校の成績で14項目、親の学歴で3項目となり、圧倒的に高校の成績の項目数が多い結果となった。しかも、親の学歴で差のあった項目はいずれも高校の成績でも有意差がみられるものであり、なおかつ、高校の成績による上位者 - 下位者間の差異よりも学歴による両卒 - 非卒間の差異のほう小さいのである。ここからもやはり、親の学歴差の影響が相対的に小さいことが読み取れるだろう。

ところで、高校の成績を中心にこれら17項目を検討してみると、およそ5つの要素に分類できることがわかる。

第1に、「講義のポイントをまとめる力(Q1\_1)」、「自分の意見と事実をわけて書く力(Q1\_2)」、「レポートを書く力(Q1\_3)」といった文章作成能力に関する項目は進学率と成績の両方が影響している。しかし、どちらかという進学率よりも成績のほうに差は明確に表れている。

第2は、「文献を調べる力(Q1\_4)」、「コンピュータ等の操作(Q1\_5)」、「インターネットで情報収集できる力(Q1\_6)」であり、情報活用技能ともいうべきものである。これらは、高校時代の成績に関して差はみられるが、上位者と下位者間での差異は他と比べて小さい。と同時に、これらは「身についた」とする比率が全体的に高い項目で、高校時代の成績とそれほど関係なく習得できる内容といえる。

第3は、「問題点を発見する力(Q1\_7)」、「課題を解決する力(Q1\_8)」という問題解決能力であり、これにおいても成績による差異が表れている。また、後者の

<sup>1</sup> 参考までに、17項目中、各属性によって有意差の表れた項目数(有意水準5%未満)は各大学において以下のとおりである。

	A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学	G大学	H大学
大学進学率	1	1	1			2		
高校成績	5	7	4	1	9		1	
父学歴		2		1		2		
母学歴		2		1	3		1	

<sup>2</sup> これらの分類ならびに項目別分析については井上(2004)を参照した。

(Q1\_8)では、親の学歴による差も若干みられる。

第4は、「批判をする力(Q1\_9)」、「プレゼンテーション技能(Q1\_10)」、「筋道立てて主張できる力(Q1\_11)」から構成される。これらは論理的思考力を必要と化するが、第1と対比すれば、主に口頭表現能力としてまとめることができる。これらの項目の特徴としては、いずれの属性をとっても有意差が表れず、すでに述べたように、全体的に第 類型「(入学時まで)身についていなかった - (入学後にも)身につかなかった」の比率が最も高いことが挙げられる。つまり、属性を問わず、学生にとっては最も身につけにくい能力と考えられる。

第5は、「物事に対して粘り強く取り組む力(Q1\_12)」、「スケジュール管理(Q2\_1)」、「学習計画の立案(Q2\_2)」、「課題の提出期限を守る(Q2\_3)」、「欠席した授業内容を補う(Q2\_4)」、「積極的態度で授業に臨む(Q2\_5)」の6項目である。いずれも高校の成績によって顕著な差異が明らかになるとともに、そのうち項目の半数には進学率による差も認められる。また、親の学歴の影響もあるようだが、比率の差は高校の成績や進学率のそれに及ばない。既述のとおり、これらは学習態度に関する項目であり、入学前後を通して習得していることを意味する第 類型の比率が最も高い項目を含む群である。

以上の5群をもとに属性との関係を再度整理すると、4群「口頭表現能力」はいずれの属性においても有意差が示されず、かつ最も習得しにくい要素であるといえよう。その反対に、2群「情報活用技能」は属性による若干の差異はみられるが、えてして入学後に身につけやすい、いいえかれば一年次プログラムの効果を発揮しやすい要素である。高校の成績の影響は4群「口頭表現能力」を除いたすべての群にみられ、とりわけ、入学以前から身につけている率の最も高い5群「学習態度」においては有意差が顕著となっており、これに対して2群「情報活用技能」では差異が小さい。大学進学率は1群「文章作成能力」、および5群「学習態度」の一部で有意差が表れているが、概して、高校の成績による差異のほうが大きい。親の学歴は3群「問題解決能力」と5群「学習態度」の一部に影響を与えているが、他の属性に比べて、その影響力は小さいとみなすことができる。

さて、近年、一年次教育については、アメリカと同様に、両親が大学・短大等を卒業した経験のない学生、いわゆる家族のなかで初めて大学に進学する「第一世代」の学生の大学生活への適応が困難であることが日本でも指摘されはじめている。しかし、本調査の結果に基づけば、こうした傾向が十分に認められるとはいえない。これまで述べてきたように、本調査では、学歴よりも高校時代の成績の影響が多くの項目において示唆されている。

とはいえ、こうした結果は、日本において第一世代の影響力が弱いという結論をすぐさま意味するものではなく、第一世代問題に関する先行研究の結果と必ずしも齟齬をきたすわけでもない。というのも、井上(2004)が論じるように、学習技術や学習習慣などの「《学校的身体》が発揮される局面」においては高校段階の成績上位者のほうが成績下位者よりも適応しやすい傾向にあり、むしろ、第一世代問題は教師とのコミュニケーションのとり方や発表・個別指導への自主性など「《文化

的身体》」に関して表面化するからである。すなわち、第一世代は家庭などで暗黙裡に伝達される、大学教育に馴染む文化、価値観に基づいた「《文化的身体》」の形成に不利だということになる。この点からいえば、本章で対象とした17項目はいずれも学習技術や学習習慣に相当する内容であり、高校の成績の影響がみてとれるのも理に適っているのである。

それでは、本章で問題としてきた高校の成績の影響はどのような能力について、最も顕著に表れるのだろうか。この点を明らかにすることによって、一年次プログラムにおける今後の課題を考察することができよう。表7-6は附表2に基づき、第 類型について高校での成績別の比率をまとめたものである。高校時代の成績別に各項目をみていくと、第 類型「(入学時まで)身につけていなかった - (入学後にも)身につけなかった」の比率が成績の高い層と低い層で差が大きくなるケースは、「物事に対して粘り強く取り組む力(Q1\_12)」、「学習計画の立案(Q2\_2)」、「課題の提出期限を守る(Q2\_3)」、「欠席した授業内容を補う(Q2\_4)」、「積極的な態度で授業に臨む(Q2\_5)」などの学習態度に関する項目が多いことがわかる。

表7 - 6

高校での成績別にみた 「身につけていなかった/身につけなかった」の比率(%)

	中より上	中ぐらい	中より下	全体
Q1_1) 講義の重要なポイントをとらえてまとめる力	21.8	26.8	<b>33.0</b>	25.8
Q1_2) 自分の意見と事実をわけて書く力	26.5	29.8	33.5	29.0
Q1_3) 定められた形式に従ってレポートを書く力	17.4	18.8	24.3	19.4
Q1_4) 図書館の利用方法や文献を調べる力	23.4	27.0	26.6	25.1
Q1_5) コンピュータ等を操作する技能	11.1	11.6	14.5	12.1
Q1_6) インターネットで情報収集できる力	10.9	10.6	16.6	12.2
Q1_7) ものごとの問題点を発見する力	29.8	35.1	39.4	33.4
Q1_8) 課題を解決する力	25.4	31.4	<b>39.5</b>	30.3
Q1_9) 他人の意見に根拠のある批判をする力	42.8	49.9	46.4	45.4
Q1_10) プレゼンテーションの技能	40.1	46.4	43.9	42.6
Q1_11) 自分の意見を筋道立てて主張できる力	38.2	43.6	44.6	41.1
Q1_12) 物事に対して粘り強く取り組む力	19.5	27.5	<b>36.5</b>	25.6
Q2_1) 自分のスケジュールを管理すること	20.9	24.6	<b>32.8</b>	24.7
Q2_2) 学習の計画を立てること	31.5	39.3	<b>48.1</b>	37.4
Q2_3) 課題の提出期限を守ること	7.1	11.3	<b>21.8</b>	11.7
Q2_4) 欠席した授業の内容をすぐに補うこと	24.8	33.5	<b>42.4</b>	31.2
Q2_5) 積極的な態度で授業に臨むこと	18.2	27.1	<b>31.9</b>	23.7

注目すべきは、これらの学習態度は全体としてみれば第 類型「身につけていなかった - 身につけなかった」の比率が最も高い項目群であり、最も習得しやすい要素であるにもかかわらず、成績上位者と下位者の差異が最も大きいことにある。しかし、これらの内容は長年にわたる学校教育の経験のなかでこそ培われるものであり、それが高校時代の成績に反映されていると考えればこの結果にはうなずける。そもそも、学習態度は一朝一夕に身につくものではなく、また大学教育のなかでどこまで対応す

べきか議論の余地があるところだろう。先に、学習技能を中心として、一年次プログラムの一定の教育効果については明らかにしたが、こうした大学入学後の短期的な一年次プログラムだけでは支援しにくい学習態度の涵養といった側面にどのように対処すべきか、今後のプログラム開発においては併せて検討していく必要があると思われる。

附表 1

a. 大学別にみた4年制大学進学状況 (%)

	A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学	G大学	H大学	全体
4分の3以上	48.3	40.3	38.2	87.9	34.8	89.0	32.7	60.0	47.2
半分くらい	34.8	41.5	28.0	12.1	40.6	8.0	30.7	30.0	32.2
4分の1程度	11.7	13.2	18.7		13.8	3.0	23.5	7.0	13.2
ほとんどなし	5.2	5.0	15.0		10.9		13.1	3.0	7.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(325)	(340)	(246)	(66)	(138)	(100)	(153)	(100)	(1468)

b. 大学別にみた高校時代の成績 (%)

	A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学	G大学	H大学	全体
上位の方	27.9	21.8	15.9	35.8	15.8	30.0	23.8	13.7	22.4
中の上ぐらい	31.2	34.8	26.2	32.8	21.1	29.0	24.4	23.5	28.9
中ぐらい	22.3	25.9	22.2	17.9	34.2	20.0	25.6	30.4	24.8
中の下ぐらい	7.7	8.3	17.1	6.0	13.8	12.0	10.6	17.6	11.2
下位の方	11.0	9.2	18.7	7.5	15.1	9.0	15.6	14.7	12.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(337)	(348)	(252)	(67)	(152)	(100)	(160)	(102)	(1518)

c. 大学別にみた父学歴 (%)

	A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学	G大学	H大学	全体
高校	34.7	34.8	46.0	15.6	53.1	23.0	41.5	42.2	37.6
短大・高専・専門学校	7.9	9.3	8.8	4.7	3.1	3.0	8.9	8.4	7.5
大学・大学院	57.4	55.9	45.1	79.7	43.8	74.0	49.6	49.4	54.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(303)	(313)	(215)	(64)	(128)	(100)	(123)	(83)	(1329)

d. 大学別にみた母学歴 (%)

	A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学	G大学	H大学	全体
高校	44.2	47.5	52.9	40.6	53.4	28.1	49.2	35.6	45.9
短大・高専・専門学校	32.2	32.8	29.5	20.3	23.7	40.6	31.1	35.6	31.2
大学・大学院	23.7	19.7	17.6	39.1	22.9	31.3	19.7	28.7	22.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(317)	(314)	(227)	(64)	(131)	(96)	(122)	(87)	(1358)

附表 2

Q1 1) 講義の重要なポイントをもとめる力 (%)	進学率		成績		学歴	
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	25.3	28.5	21.8	33.0	23.9	26.2
身についていた / 身につかなかった	11.7	6.1	10.6	9.1	10.5	9.7
身についていなかった / 身についた	22.5	32.1	27.3	31.6	29.8	30.2
身についていた / 身についた	40.4	33.2	40.3	26.3	35.8	33.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(648)	(277)	(719)	(342)	(503)	(298)
		p < .01		p < .001		
Q1 2) 自分の意見と事実をわけて書く力 (%)						
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	25.1	35.7	26.5	33.5	26.9	31.0
身についていた / 身につかなかった	7.9	2.9	5.9	4.4	6.1	4.0
身についていなかった / 身についた	35.6	36.4	35.6	38.5	38.0	34.7
身についていた / 身についた	31.4	25.0	32.1	23.6	28.9	30.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(646)	(280)	(717)	(343)	(505)	(297)
		p < .001		p < .05		
Q1 3) 定められた形式に従ってレポートを書く力 (%)						
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	16.4	23.1	17.4	24.3	17.5	20.8
身についていた / 身につかなかった	2.5	3.9	2.6	2.6	3.1	2.7
身についていなかった / 身についた	48.3	43.8	45.7	48.4	47.9	46.0
身についていた / 身についた	32.9	29.2	34.3	24.6	31.4	30.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(648)	(281)	(720)	(345)	(509)	(298)
		p < .05		p < .01		
Q1 4) 図書館の利用方法や文献を調べる力 (%)						
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	23.4	26.3	23.4	26.6	21.6	27.5
身についていた / 身につかなかった	4.0	3.9	4.9	2.3	4.8	4.0
身についていなかった / 身についた	41.1	41.6	39.8	46.0	41.5	43.6
身についていた / 身についた	31.4	28.1	31.9	25.1	32.1	24.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(644)	(281)	(721)	(346)	(504)	(298)
				p < .05		
Q1 5) コンピュータ等を操作する技能 (%)						
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	13.4	11.0	11.1	14.5	12.5	12.9
身についていた / 身につかなかった	5.3	3.9	4.7	5.8	4.6	4.0
身についていなかった / 身についた	46.7	44.2	44.0	48.4	47.6	43.4
身についていた / 身についた	34.6	41.0	40.2	31.3	35.3	39.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(647)	(283)	(722)	(345)	(504)	(302)
				p < .05		
Q1 6) インターネットで情報収集できる力 (%)						
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	11.9	12.8	10.9	16.6	10.4	15.4
身についていた / 身につかなかった	6.4	6.4	5.2	6.4	5.4	4.7
身についていなかった / 身についた	36.5	35.8	36.6	35.2	39.3	36.1
身についていた / 身についた	45.2	45.0	47.3	41.9	44.9	43.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(639)	(282)	(714)	(344)	(499)	(299)
				p < .05		

Q1 7) ものごとの問題点を発見する力 (%)	進学率		成績		学歴	
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	33.4	36.1	29.8	39.4	30.0	35.5
身についていた / 身につかなかった	4.8	4.3	4.8	5.5	4.3	3.0
身についていなかった / 身についた	32.0	33.2	35.5	31.2	36.4	33.2
身についていた / 身についた	29.8	26.4	29.9	23.9	29.2	28.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(644)	(280)	(722)	(343)	(506)	(301)

p < .05

Q1 8) 課題を解決する力 (%)	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	28.9	32.1	25.4	39.5	26.8	36.4
身についていた / 身につかなかった	4.9	3.2	4.1	4.4	4.8	1.7
身についていなかった / 身についた	31.2	31.4	32.2	30.4	33.8	29.0
身についていた / 身についた	35.0	33.2	38.4	25.7	34.6	33.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(637)	(280)	(714)	(342)	(503)	(297)

p < .001

p < .01

Q1 9) 他人の意見に根拠のある批判をする力 (%)	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	43.0	49.5	42.8	46.4	42.1	49.7
身についていた / 身につかなかった	4.4	3.2	4.3	4.7	3.8	2.0
身についていなかった / 身についた	25.7	21.5	26.5	26.2	30.4	24.5
身についていた / 身についた	26.9	25.8	26.5	22.7	23.7	23.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(642)	(279)	(718)	(343)	(506)	(298)

Q1 10) プレゼンテーションの技能 (%)	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	40.8	42.6	40.1	43.9	40.6	44.1
身についていた / 身につかなかった	3.7	2.5	3.2	2.3	4.2	2.0
身についていなかった / 身についた	41.0	36.2	38.4	39.0	40.2	37.5
身についていた / 身についた	14.5	18.8	18.4	14.8	14.9	16.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(642)	(282)	(719)	(344)	(502)	(299)

Q1 11) 自分の意見を筋道立てて主張できる力 (%)	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	39.0	44.7	38.2	44.6	40.0	40.2
身についていた / 身につかなかった	3.6	4.3	4.2	4.4	3.0	2.7
身についていなかった / 身についた	31.5	25.9	31.9	28.6	31.3	31.2
身についていた / 身についた	26.0	25.2	25.7	22.4	25.7	25.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(639)	(282)	(720)	(343)	(505)	(301)

Q1 12) 物事に対して粘り強く取り組む力 (%)	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった / 身につかなかった	25.5	24.4	19.5	36.5	22.0	30.3
身についていた / 身につかなかった	6.7	4.2	6.6	4.3	6.3	2.7
身についていなかった / 身についた	25.7	32.5	26.5	30.1	26.7	26.3
身についていた / 身についた	42.1	38.9	47.3	29.0	45.0	40.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(646)	(283)	(727)	(345)	(509)	(300)

p < .001

p < .05

Q2 1) 自分のスケジュールを管理すること (%)	進学率		成績		学歴	
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった/身につかなかった	22.8	30.0	20.9	32.8	21.8	25.5
身についていた/身につかなかった	7.8	2.5	6.7	5.2	6.1	4.2
身についていなかった/身についた	28.0	29.3	26.2	36.3	32.2	29.4
身についていた/身についた	41.4	38.2	46.2	25.6	40.0	40.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(654)	(283)	(732)	(344)	(510)	(306)

p < .01

p < .001

#### Q2 2) 学習の計画を立てること (%)

Q2 2) 学習の計画を立てること (%)	進学		成績		学歴	
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった/身につかなかった	37.7	36.5	31.5	48.1	34.1	40.3
身についていた/身につかなかった	11.3	3.9	10.0	5.5	8.7	5.9
身についていなかった/身についた	19.4	32.6	23.7	28.0	24.0	28.9
身についていた/身についた	31.6	27.0	34.8	18.4	33.3	24.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(655)	(282)	(730)	(343)	(508)	(305)

p < .001

p < .001

p < .05

#### Q2 3) 課題の提出期限を守ること (%)

Q2 3) 課題の提出期限を守ること (%)	進学		成績		学歴	
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった/身につかなかった	11.6	9.9	7.1	21.8	11.2	12.4
身についていた/身につかなかった	6.9	5.3	5.3	7.0	5.5	3.9
身についていなかった/身についた	15.4	26.5	13.9	25.9	17.1	19.5
身についていた/身についた	66.1	58.3	73.6	45.3	66.3	64.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(654)	(283)	(732)	(344)	(510)	(307)

p < .01

p < .001

#### Q2 4) 欠席した授業の内容をすぐに補うこと (%)

Q2 4) 欠席した授業の内容をすぐに補うこと (%)	進学		成績		学歴	
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった/身につかなかった	31.5	33.3	24.8	42.4	31.4	29.7
身についていた/身につかなかった	10.4	5.7	10.7	5.9	9.1	7.9
身についていなかった/身についた	14.4	18.3	14.7	23.2	15.4	17.8
身についていた/身についた	43.6	42.7	49.8	28.5	44.2	44.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(651)	(279)	(721)	(340)	(507)	(303)

p < .001

#### Q2 5) 積極的な態度で授業に臨むこと (%)

Q2 5) 積極的な態度で授業に臨むこと (%)	進学		成績		学歴	
	進学	非進学	上位	下位	両卒	非卒
身についていなかった/身につかなかった	21.9	24.5	18.2	31.9	21.0	25.2
身についていた/身につかなかった	9.9	7.4	8.8	7.6	6.7	8.5
身についていなかった/身についた	19.6	24.5	19.3	26.3	22.2	22.0
身についていた/身についた	48.6	43.6	53.8	34.2	50.2	44.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
(N)	(654)	(282)	(731)	(342)	(510)	(305)

p < .001

#### 参考文献

井上義和 (2004) 「大学第一世代の文化的条件 進学程度・高校成績・両親学歴による差異の分析」、濱名篤 (研究代表者) 『ユニバーサル高等教育における導入教育と学習支援に関する研究』平成 13～15 年度科学研究費補助金基盤研究 (B) (1) 研究成果報告書、pp.125～148



2000年より私学高等教育研究所の導入教育班が展開してきた「効果的導入カリキュラムの開発」のために、実施してきた一連の基礎研究が本報告書を持って終了することとなった。2001年の学部長調査と2003年の学生を対象とした調査からは、日本の導入教育の動向とその特徴が明らかにされたと思う。すなわち、日本における一年次（導入）教育の様相は、学生の高校教育から学問を含めた大学生活への転換を支援するアメリカ型ではなく、日本における高等教育機関の構造、すなわち専門分野別に構築されている学部構造を反映している日本型一年次（導入）教育であることが判明した。特に最近の大学のカリキュラムの専門化が深化している現状において、学部横断型もしくはアメリカでの全学一括型ファーストイヤーセミナーをカリキュラム・モデルとすることはおそらく非現実的であろう。つまり、学部によって学習の目標、専門分野との関連性、何を題材に批判的思考力を養成するかという点は差異があるし、一括りにできるものではない。現実的には、学部それぞれが育成すべき学生像を確認し、そうした学生像の育成を目指した導入教育カリキュラムを構築することが不可欠である。しかし、一方でどの学部にも普遍的な導入教育の内容は存在する。例えば、本研究においても確認された要素としては、「レポートの書き方」「図書館の利用、文献検索法」等の技能および「リソース利用」であり、これらは学部を超えて横断的かつ普遍的に構築できる部分であり、また学生からのニーズも高い。それゆえ、これらの要素を組み入れたモデルの構築は比較的容易であろう。しかしながら、学生のプログラム評価結果から見ると、技能項目に特化した一年次（導入）教育モデルだけでは、学生は満足しないとも推察され、いかに学問的要素を付加するかということもプログラム開発の課題であるだろう。

学習に関するスキル獲得の評価においては、ばらつきがありそうしたスキルはかならずしも一年次（導入）教育だけで習得されるものではない。長年の学校教育の過程のなかで培われてきた技能や習慣がスキルおよび学習態度となってあらわれているとみなすことができる。その意味では、短期的な一年次（導入）教育だけでは支援できにくい学習態度の涵養といった側面にどのように対処すべきかも大きな課題であるといえよう。

総合的にみて、教育課程としての一年次（導入）教育に対して受講生は一定の評価を下していることが伺われることから、近い将来、一年次（導入）教育プログラムは決して特殊なプログラムではなく、大学新入生のための教育プログラムとして位置づけられ、拡大していくのではないかと予想される。



# 資料編

「私立大学における導入教育の現状」

アンケート用紙

単純集計結果

「一年次教育のニーズとプログラム評価に対する調査」

アンケート用紙

単純集計結果

## 私立大学における一年次教育に関する調査

近年、高等教育の大衆化の進行に伴って、大学入学者の多様化も進行しつつあると思われます。本調査は、全国4年制私立大学の各学部を対象とし、このような多様な学生が入学しているなかで、大学での学問への導入・動機づけを目的とする導入教育がいかに位置づけられ、学習ニーズを引き出し、大学生活へとつなげているかの実態とご経験をおうかがいするものです。

ここでいう導入教育とは、新入生を対象とした下記に定義されているような内容で実施する一年次教育を意味しています。ご回答はすべて統計的に処理され、回答者が特定されるようなことはございません。この調査を通じ、ますます多様化する学生への学習支援型導入教育の一層効果的なカリキュラム・方法への開発へとつなげていきたいと願っております。貴学部におかれましては、以上の調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご回答は、学部長様、もしくは教務担当責任者の方にお願ひできれば幸甚でございます。

ご回答いただいた質問紙は同封の返信用封筒にて、同志社大学文学部 山田礼子までご返送ください。お問い合わせは下記の担当者のうち、山田または沖までお願い致します。

なお、この調査の結果はみなさまに後日要旨を郵送申し上げますほか、詳細な内容を私学高等教育研究所のウェブサイト <http://www3.ocn.ne.jp/~riihe/> にても公開の予定です。また、別途調査報告書を手入れしたい方は調査票最後の欄に 印をご記入くださればお送り申し上げます。

ご返信は11月12日(月)までにお願いいたします。

ご多忙中恐縮ですが、何とぞよろしくご協力くださいますよう重ねてお願い申し上げます。

私学高等教育研究所 導入教育研究班

山田礼子 (同志社大学) ryamada@mail.doshisha.ac.jp (Tel:075-251-4078)

沖 清豪 (早稲田大学) okikiyo@mn.waseda.ac.jp (Tel.:03-5286-3618)

杉谷祐美子 (日本学術振興会特別研究員) suguy1@ss.ij4u.or.jp

森 利枝 (大学評価・学位授与機構) rmori@niad.ac.jp

### 「導入教育の定義」

本調査では、導入教育を、

補習教育 (大学での学習・研究の前提として必要で、かつ本来高等学校までの教育において当然習得すべき内容の教育)

スタディ・スキル (一般的なレポート・論文の書き方や文献の探し方、コンピュータ・リテラシー) の教育

スチューデント・スキル (大学生に求められる一般常識や態度) の教育

専門教育への橋渡しとなるような基礎的知識・技能の教育

以上の4つの側面を涵養するための一年次教育 と定義しております。

まず、貴学部での導入教育についておうかがいいたします。

問1 導入教育の実施状況に関しておうかがいします

(1) 本年度、貴学部では前頁で定義したような導入教育を実施していらっしゃいますか？

1～4の**当てはまる番号ひとつに** をつけてください。また、実施時期もお答えください。

- 1 実施している ( \_\_\_\_\_年度から実施)
- 2 実施を予定している ( \_\_\_\_\_年度から実施予定)
- 3 実施を検討中である
- 4 実施の予定はない

(2) 上記(1)で1～3に をおつけになった方にお尋ねします。それはどのような形式で実施されていますか？あるいは、どのような形式での実施を予定・検討中ですか？

**当てはまる番号に** をつけてください(複数回答可)。

- 1 授業
- 2 授業以外のプログラム

(3) 授業として、導入教育を実施していらっしゃる(または実施を予定・検討中の)場合、

2 - 3頁の**実例欄**に、授業科目ごとの具体的な内容をお答えください(3科目までの実例)。なお、表中**b. 授業内容**については下記のア～コの選択肢の中から一番近いものをお選びください(複数回答可)。

**b. 授業内容の選択肢**

- ア. レポート・論文の書き方などの文章作法
- イ. 図書館の利用・文献探索の方法
- ウ. コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術
- エ. プレゼンテーションやディスカッションなど口頭発表の技法
- オ. 読解・文献講読の方法
- カ. フィールド・ワークや調査・実験の方法
- キ. 高校で学習する教科の補習教育
- ク. 学問や大学教育全般に対する動機づけ
- ケ. 学生生活における時間管理や学習習慣の組織化
- コ. 将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ

### 実例 1

a. 授業科目名		b. 授業内容 (複数回答可)		c. 授業科目区分		d. 期間	
				教養・共通・基礎・自由・ その他 ( )		半期 (前期・後期)・ 通年・集中	
e. 単位数		f. 授業形式		g. 履修形態		h. 担当形態	
( ) 単位		講義・演習 その他 ( )		必修・選択・ その他 ( )		複数教員のリレー方式・ 1名の教員が担当・その他 ( )	
i. 担当教員 (複数回答可)		j. 学生数		k. 評価方法		l. T Aの利用	
専任教員・ 非常勤教員		実員 ( ) 定員 ( )		評価しない・レポート・発表・ 試験・その他 ( )		有・無	
m. 共通教材の有無		有の場合 (教材名 : )					
有 無		( 出版社 : )					

### 実例 2

a. 授業科目名		b. 授業内容 (複数回答可)		c. 授業科目区分		d. 期間	
				教養・共通・基礎・自由・ その他 ( )		半期 (前期・後期)・ 通年・集中	
e. 単位数		f. 授業形式		g. 履修形態		h. 担当形態	
( ) 単位		講義・演習 その他 ( )		必修・選択・ その他 ( )		複数教員のリレー方式・ 1名の教員が担当・その他 ( )	
i. 担当教員 (複数回答可)		j. 学生数		k. 評価方法		l. T Aの利用	
専任教員・ 非常勤教員		実員 ( ) 定員 ( )		評価しない・レポート・発表・ 試験・その他 ( )		有・無	
m. 共通教材の有無		有の場合 (教材名 : )					
無 有		( 出版社 : )					

### 実例 3

a. 授業科目名		b. 授業内容(複数回答可)		c. 授業科目区分		d. 期間	
				教養・共通・基礎・自由・ その他( )		半期(前期・後期)・ 通年・集中	
e. 単位数		f. 授業形式		g. 履修形態		h. 担当形態	
( ) 単位		講義・演習 その他( )		必修・選択・ その他( )		複数教員のリレー方式・ 1名の教員が担当・その他( )	
i. 担当教員(複数回答可)		j. 学生数		k. 評価方法		l. T Aの利用	
専任教員・ 非常勤教員		実員( ) 定員( )		評価しない・レポート・発表・ 試験・その他( )		有・無	
m. 共通教材の有無		有の場合(教材名: )					
無 有		(出版社: )					

(2) 授業以外のプログラムとして、導入教育を実施している(または実施を予定・検討中の)場合、それはどのような形式のものですか? 1~6の当てはまる番号すべてにをつけてください(複数回答可)。また、その具体的な目的・内容・方法などについてもご記入ください。

- 1 オリエンテーションやガイダンスなどの学内での説明会
- 2 合宿やオリエンテーションキャンプ
- 3 チュートリアルやアドバイザー制度などの担任制度
- 4 大学・学部主催の講習会
- 5 入学前の指導・課題
- 6 その他( )

具体的な目的・内容・方法

問2 導入教育に対する評価に関しておうかがいします

(1) 問1(1)で「1 導入教育を実施している」とお答えになった方に、実施されている導入教育についてお尋ねします。当てはまる番号ひとつに をつけてください。

	そう 思う	思 う	やや そう	いえ ない	ど ち ら と も	は 思 わ な い	あ ま り そ う	思 わ な い	そ う
ア. 学生は、導入教育に対して満足していると思われませんか	1	2	3	4	5				
イ. 導入教育の効果は、あがっていると思われませんか	1	2	3	4	5				
ウ. 今後、導入教育を増強したほうがよいと思われませんか	1	2	3	4	5				

(2) その他、貴学部で実施されている導入教育について、これまでの成果、問題点や課題などがありましたら、ご自由にお書きください。

問3 導入教育の必要性に対するお考えに関しておうかがいします

(1) 主に新入生を対象とした導入教育的なプログラムの必要性をどう思われますか？  
当てはまる番号ひとつに をつけてください。また、その理由も併せてお答えください。

- 1 必要である
- 2 やや必要である
- 3 どちらともいえない
- 4 あまり必要でない
- 5 必要でない

理由

(2) 上記(1)で1～3に をおつけになった方にお尋ねします。そのプログラムはどのように位置づけられるべきだとお考えですか？ 当てはまる番号すべてに をつけてください(複数回答可)。

- 1 大学教育に本来必要不可欠な正規の教育
- 2 大学生活への円滑な移行を図るための教育
- 3 大学教育と高校までの教育との違いを自覚させるための教育
- 4 高校までに当然習得すべきであった内容を教えるための教育
- 5 その他( )



(3)前頁の間3(1)で1～3に をおつけになった方にお尋ねします。そのプログラムではどのような内容を重視されますか？ ア～トの各項目について、**当てはまる番号ひとつに** をつけてください。

	重要である	ある	やや重要な	いえません	どちらともでない	あまり重要でない	重要でない
ア．レポート・論文の書き方などの文章作法	1	2	3	4	5		
イ．図書館の利用・文献探索の方法	1	2	3	4	5		
ウ．コンピュータを用いた情報処理や通信の基礎技術	1	2	3	4	5		
エ．プレゼンテーションやディスカッションなど口頭発表の技法	1	2	3	4	5		
オ．読解・文献講読の方法	1	2	3	4	5		
カ．フィールド・ワークや調査・実験の方法	1	2	3	4	5		
キ．論理的思考力や問題発見・解決能力の向上	1	2	3	4	5		
ク．高校で学習する教科の補習教育	1	2	3	4	5		
ケ．学生生活における時間管理や学習習慣の組織化	1	2	3	4	5		
コ．将来の職業生活や進路選択に対する動機づけ・方向づけ	1	2	3	4	5		
サ．ノートの取り方	1	2	3	4	5		
シ．情報収集や資料整理の方法	1	2	3	4	5		
ス．大学内の教育資源(図書館を除く施設・設備・人員等)の活用方法	1	2	3	4	5		
セ．学問や大学教育全般に対する動機づけ	1	2	3	4	5		
ソ．集中力や記憶力の習得方法	1	2	3	4	5		
タ．受講態度や礼儀・マナーの涵養	1	2	3	4	5		
チ．大学への帰属意識の向上	1	2	3	4	5		
ツ．協調性の養成	1	2	3	4	5		
テ．社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観の育成	1	2	3	4	5		
ト．学生の自信・自己肯定感の向上	1	2	3	4	5		

(4) 上記以外に重視すべき内容や役立つ内容があれば、お書きください。

次に、貴学部での学生指導についておうかがいします。

問4 貴学部での学生指導の現状についておうかがいします

(1) 貴学部での、授業中の学生の私語・携帯電話の使用・遅刻への対応それぞれについて、1～3のうち、**当てはまる番号ひとつに** をつけてください。

	特に問題はない	問題は感じるが 学部としては 対応していない	学部として何らかの 対応をしている SQ1に
ア. 私語	1	2	3 ( )
イ. 携帯電話	1	2	3 ( )
ウ. 遅刻	1	2	3 ( )

SQ1 (1)で3に をおつけになった方におうかがいします。具体的にはどのような対応をされていますか？ 以下から**当てはまるものを上の表中( )**に記入してください(複数回答可)。

- a. 学部として統一的な規則を設けて対応している
- b. 学部としてオリエンテーションなどで対応している
- c. 学部要項等に注意を記載している
- d. 学部として掲示・印刷物の配布などで対応している
- e. その他(具体的に)( )

(2) 貴学部での学生カウンセリングについて、1～5の**当てはまる番号すべてに** をつけてください。1、3に をおつけになった方はそれぞれSQ1、SQ3にもお答えください。

1 大学全体のカウンセリング機関があり、専任のカウンセラーが常駐している

SQ1 カウンセラーは

- a. 心理学の専門家
- b. 教育学の専門家
- c. 心理学・教育学以外の専門家(専門分野: )

2 大学全体のカウンセリング機関があり、一般の授業を担当する教員がカウンセラーを兼ねている

3 学部にカウンセリング機関があり、専任のカウンセラーが常駐している

SQ3 カウンセラーは

- a. 心理学の専門家
- b. 教育学の専門家
- c. 心理学・教育学以外の専門家(専門分野: )

4 学部にカウンセリング機関があり、一般の授業を担当する教員がカウンセラーを兼ねている

5 大学にも学部にもカウンセリング機関はない

問5 貴学部の学生の現状についておうかがいします

(1) 各項目について当てはまる番号ひとつに をつけてください。

	そう思う	ややそう思う	どちらでもない	あまりそうは思わない	そう思わない
ア. 現在の学生の読解力は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
イ. 現在の学生の文章表現力は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
ウ. 現在の学生の数理的能力は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
エ. 現在の学生の外国語能力は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
オ. 現在の学生の学問への関心は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
カ. 現在の学生のコミュニケーション能力は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
キ. 現在の学生のプレゼンテーション能力は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
ク. 現在の学生の受講態度(私語や遅刻など)は以前(4 - 5年前)と比べて良くなったと思われますか	1	2	3	4	5
ケ. 現在の学生の社会問題への関心は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
コ. 現在の学生の一般常識は以前(4 - 5年前)と比べて豊かになったと思われますか	1	2	3	4	5
サ. 現在の学生の礼儀やマナーは以前(4 - 5年前)と比べて良いと思われますか	1	2	3	4	5
シ. 現在の学生の課外活動への参加状況は以前(4 - 5年前)と比べて良好ですか	1	2	3	4	5
ス. 現在の学生の大学への帰属意識は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
セ. 現在の学生の不登校率は以前(4 - 5年前)と比べて高いと思われますか	1	2	3	4	5
ソ. 貴学部の1998年度入学学生の留年率はどの程度ですか。 右から選んで をつけてください	5% 未滿	5-10 %	10-20 %	20-30 %	30% 以上
タ. 貴学部の1998年度入学学生の中退率はどの程度ですか。 右から選んで をつけてください	5% 未滿	5-10 %	10-20 %	20-30 %	30% 以上
チ. 現在、4年間で卒業する学生の割合はどの程度ですか。 右から選んで をつけてください	70% 未滿	70-80 %	80-90 %	90-95 %	95% 以上

(2) 学部として、前頁の問題の各々について、何らかの対応をする必要を感じていらっしゃいますか？ 各項目について**当てはまるものひとつに** をつけてください

	必要である	ある やや必要で	どちらとも いえない	あまり必要 はない	必要はない
ア. 読解力	1	2	3	4	5
イ. 文章表現力	1	2	3	4	5
ウ. 数理的な能力	1	2	3	4	5
エ. 外国語能力	1	2	3	4	5
オ. 学問への関心	1	2	3	4	5
カ. コミュニケーション能力	1	2	3	4	5
キ. プレゼンテーション能力	1	2	3	4	5
ク. 受講態度	1	2	3	4	5
ケ. 社会問題への関心	1	2	3	4	5
コ. 一般常識	1	2	3	4	5
サ. 礼儀・マナー	1	2	3	4	5
シ. 課外活動への参加	1	2	3	4	5
ス. 大学への帰属意識	1	2	3	4	5
セ. 学生の不登校	1	2	3	4	5
ソ. 学生の留年	1	2	3	4	5

問6 近年、大学教育を行う上で、高等学校の教育に対して要望することがありでしたらお教えてください

問7 大学教育の質の維持、大学教育の円滑化を図るために、今後入試改革を予定していらっしゃる場合には、可能な範囲でその内容をお教えてください

貴学部についてお答えください

大学名\_\_\_\_\_

学部名\_\_\_\_\_

学部学生数\_\_\_\_\_人

学科数\_

学部設置年度（西暦\_\_\_\_\_年度）

卒業論文の扱い・・・ 必修・選択 / ( ) 単位

大学院の有無・・・ 有・無

ご回答くださった方についてお答えください

ご氏名（できれば）\_\_\_\_\_

役職名\_\_\_\_\_

所属学科\_\_\_\_\_

専門分野\_\_\_\_\_

ご協力いただきありがとうございます。お差支えなければ、導入教育科目のシラバスのコピーをご同封ください。もし貴学部ご制作の導入教育の教材をお頒けいただけますと幸甚に存じます。

また、このアンケートをまとめた調査報告書の郵送のご希望があればお知らせください。

調査報告書を希望する

私立大学における一年次教育に関する調査  
単純集計表

(自由記述部分は割愛)

問1(1)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施してる	523	82.2	82.4	82.4
	実施を予定	33	5.2	5.2	87.6
	実施検討中	27	4.2	4.3	91.8
	実施予定なし	52	8.2	8.2	100.0
	合計	635	99.8	100.0	
欠損値	0	1	.2		
合計		636	100.0		

問1(2) 導入教育の実施予定

	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
2 授業	536	53.4	92.4
授業以外	468	46.6	80.7
	-----	-----	-----
合計	1004	100.0	173.1

問1(3) 導入教育授業内容

Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
3 内容ア	40	10.0	19.8
3 内容イ	32	8.0	15.8
3 内容ウ	63	15.8	31.2
3 内容エ	32	8.0	15.8
3 内容オ	40	10.0	19.8
3 内容カ	19	4.8	9.4
3 内容キ	41	10.3	20.3
3 内容ク	71	17.8	35.1
3 内容ケ	16	4.0	7.9
3 内容コ	45	11.3	22.3
	-----	-----	-----
合計	399	100.0	197.5

問1(4) 授業以外のプログラム

Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
(4) 1	376	37.0	81.2
(4) 2	196	19.3	42.3
(4) 3	181	17.8	39.1
(4) 4	73	7.2	15.8
(4) 5	160	15.8	34.6
(4) 6	29	2.9	6.3
合計	1015	100.0	219.2

問2(1)ア 導入教育への満足度

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思わない	2	.3	.4	.4
あまりそう思わない	14	2.2	2.8	3.2
どちらともいえない	84	13.2	16.7	19.8
ややそう思う	257	40.4	51.0	70.8
そう思う	147	23.1	29.2	100.0
合計	504	79.2	100.0	
欠損値	0	132	20.8	
合計	636	100.0		

問2(1)イ 導入教育の効果度

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思わない	1	.2	.2	.2
あまりそう思わない	16	2.5	3.2	3.4
どちらともいえない	59	9.3	11.6	15.0
ややそう思う	277	43.6	54.6	69.6
そう思う	154	24.2	30.4	100.0
合計	507	79.7	100.0	
欠損値	0	129	20.3	
合計	636	100.0		

問2(2)ウ 導入教育の今後の増強度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	5	.8	1.0	1.0
	あまりそう思わない	9	1.4	1.8	2.8
	どちらともいえない	49	7.7	9.6	12.4
	ややそう思う	114	17.9	22.4	34.8
	そう思う	331	52.0	65.2	100.0
	合計	508	79.9	100.0	
欠損値	0	128	20.1		
	合計	636	100.0		

問3(1)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	1	.2	.2	.2
	あまり必要でない	16	2.5	2.6	2.7
	どちらともいえない	22	3.5	3.5	6.3
	やや必要である	71	11.2	11.4	17.7
	必要である	513	80.7	82.3	100.0
	合計	623	98.0	100.0	
欠損値	0	13	2.0		
	合計	636	100.0		

問3(2) 導入教育の位置づけ

I	Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
	不可欠な正規の教育	272	21.6	45.3
	転換期支援	467	37.0	77.7
	高校と大学との違いの理解	322	25.5	53.6
	補習教育	187	14.8	31.1
	その他	14	1.1	2.3
	合計	1262	100.0	210.0



問3(3)ア

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あまり重要でない	5	.8	.9	.9
	どちらともいえない	36	5.7	6.2	7.1
	やや重要	134	21.1	23.1	30.2
	重要	405	63.7	69.8	100.0
	合計	580	91.2	100.0	
欠損値	0	56	8.8		
合計		636	100.0		

問3(3)イ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	1	.2	.2	.2
	あまり重要でない	14	2.2	2.4	2.6
	どちらともいえない	62	9.7	10.7	13.3
	やや重要である	198	31.1	34.3	47.6
	重要で	303	47.6	52.4	100.0
	合計	578	90.9	100.0	
欠損値	0	58	9.1		
合計		636	100.0		

問3(3)ウ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	3	.5	.5	.5
	あまり重要でない	5	.8	.9	1.4
	どちらともいえない	50	7.9	8.7	10.1
	やや重要である	166	26.1	28.8	38.9
	重要である	352	55.3	61.1	100.0
	合計	576	90.6	100.0	
欠損値	0	60	9.4		
合計		636	100.0		

問3(3)エ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	2	.3	.3	.3
	あまり重要でない	8	1.3	1.4	1.7
	どちらともいえない	56	8.8	9.8	11.5
	やや重要である	181	28.5	31.6	43.2
	重要である	325	51.1	56.8	100.0
	合計	572	89.9	100.0	
欠損値	0	64	10.1		
	合計	636	100.0		

問3(3)オ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	6	.9	1.1	1.1
	あまり重要でない	17	2.7	3.0	4.1
	どちらともいえない	83	13.1	14.7	18.7
	やや重要である	198	31.1	35.0	53.7
	重要である	262	41.2	46.3	100.0
	合計	566	89.0	100.0	
欠損値	0	70	11.0		
	合計	636	100.0		

問3(3)カ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	10	1.6	1.8	1.8
	あまり重要でない	34	5.3	6.0	7.8
	どちらともいえない	165	25.9	29.2	36.9
	やや重要である	227	35.7	40.1	77.0
	重要である	130	20.4	23.0	100.0
	合計	566	89.0	100.0	
欠損値	0	70	11.0		
	合計	636	100.0		

問3(3)キ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	1	.2	.2	.2
	あまり重要でない	12	1.9	2.1	2.3
	どちらともいえない	59	9.3	10.4	12.7
	やや重要である	182	28.6	32.0	44.6
	重要である	315	49.5	55.4	100.0
	合計	569	89.5	100.0	
欠損値	0	67	10.5		
合計		636	100.0		

問3(3)ク

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	33	5.2	5.7	5.7
	あまり重要でない	63	9.9	10.9	16.6
	どちらともいえない	190	29.9	32.9	49.6
	やや重要である	170	26.7	29.5	79.0
	重要である	121	19.0	21.0	100.0
	合計	577	90.7	100.0	
欠損値	0	59	9.3		
合計		636	100.0		

(3)ケ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	15	2.4	2.6	2.6
	あまり重要でない	50	7.9	8.8	11.5
	どちらともいえない	168	26.4	29.6	41.1
	やや重要である	216	34.0	38.1	79.2
	重要である	118	18.6	20.8	100.0
	合計	567	89.2	100.0	
欠損値	0	69	10.8		
合計		636	100.0		

(3)コ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	12	1.9	2.1	2.1
	あまり重要でない	37	5.8	6.5	8.6
	どちらともいえない	102	16.0	17.8	26.4
	やや重要である	225	35.4	39.3	65.6
	重要である	197	31.0	34.4	100.0
	合計	573	90.1	100.0	
欠損値	0	63	9.9		
合計		636	100.0		

問3(3)サ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	13	2.0	2.3	2.3
	あまり重要でない	56	8.8	9.9	12.1
	どちらともいえない	188	29.6	33.1	45.2
	やや重要である	198	31.1	34.9	80.1
	重要である	113	17.8	19.9	100.0
	合計	568	89.3	100.0	
欠損値	0	68	10.7		
合計		636	100.0		

問3(3)シ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	4	.6	.7	.7
	あまり重要でない	20	3.1	3.5	4.2
	どちらともいえない	113	17.8	19.9	24.2
	やや重要である	249	39.2	43.9	68.1
	重要である	181	28.5	31.9	100.0
	合計	567	89.2	100.0	
欠損値	0	69	10.8		
合計		636	100.0		

問3(3)ス

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	5	.8	.9	.9
	あまり重要でない	21	3.3	3.7	4.6
	どちらともいえない	118	18.6	20.7	25.3
	やや重要である	265	41.7	46.6	71.9
	重要である	160	25.2	28.1	100.0
	合計	569	89.5	100.0	
欠損値	0	67	10.5		
合計		636	100.0		

問3(3)セ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	3	.5	.5	.5
	あまり重要でない	10	1.6	1.7	2.3
	どちらともいえない	61	9.6	10.6	12.8
	やや重要である	184	28.9	31.9	44.7
	重要である	319	50.2	55.3	100.0
	合計	577	90.7	100.0	
欠損値	0	59	9.3		
合計		636	100.0		

問3(3)ソ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	32	5.0	5.7	5.7
	あまり重要でない	93	14.6	16.6	22.3
	どちらともいえない	230	36.2	41.1	63.4
	やや重要である	153	24.1	27.3	90.7
	重要である	52	8.2	9.3	100.0
	合計	560	88.1	100.0	
欠損値	0	76	11.9		
合計		636	100.0		

問3(3)タ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	8	1.3	1.4	1.4
	あまり重要でない	29	4.6	5.1	6.5
	どちらともいえない	133	20.9	23.4	29.9
	やや重要である	222	34.9	39.1	69.0
	重要である	176	27.7	31.0	100.0
	合計	568	89.3	100.0	
欠損値	0	68	10.7		
合計		636	100.0		

問3(3)チ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	22	3.5	3.9	3.9
	あまり重要でない	54	8.5	9.5	13.4
	どちらともいえない	214	33.6	37.6	51.0
	やや重要である	194	30.5	34.1	85.1
	重要である	85	13.4	14.9	100.0
	合計	569	89.5	100.0	
欠損値	0	67	10.5		
合計		636	100.0		

問(3)ツ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	22	3.5	3.9	3.9
	あまり重要でない	49	7.7	8.6	12.5
	どちらともいえない	216	34.0	38.1	50.6
	やや重要である	199	31.3	35.1	85.7
	重要である	81	12.7	14.3	100.0
	合計	567	89.2	100.0	
欠損値	0	69	10.8		
合計		636	100.0		

問3(3)テ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	11	1.7	1.9	1.9
	あまり重要でない	31	4.9	5.5	7.4
	どちらともいえない	132	20.8	23.3	30.7
	やや重要である	208	32.7	36.7	67.5
	重要である	184	28.9	32.5	100.0
	合計	566	89.0	100.0	
欠損値	0	70	11.0		
合計		636	100.0		

問3(3)ト

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要でない	8	1.3	1.4	1.4
	やや重要	24	3.8	4.2	5.6
	どちらともいえない	138	21.7	24.2	29.8
	やや重要である	224	35.2	39.3	69.1
	重要である	176	27.7	30.9	100.0
	合計	570	89.6	100.0	
欠損値	0	66	10.4		
合計		636	100.0		

問4(1)ア私語

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	特に問題ない	144	22.6	22.9	22.9
	対応してない	351	55.2	55.8	78.7
	対応している	134	21.1	21.3	100.0
	合計	629	98.9	100.0	
欠損値	0	7	1.1		
合計		636	100.0		

問4(1)イ電話

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	特に問題ない	200	31.4	31.8	31.8
	対応してない	259	40.7	41.2	73.1
	対応している	169	26.6	26.9	100.0
	合計	628	98.7	100.0	
欠損値	0	8	1.3		
合計		636	100.0		

問4(1)ウ遅刻

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
特に問題ない	116	18.2	18.6	18.6
対応してない	380	59.7	61.0	79.6
対応している	127	20.0	20.4	100.0
合計	623	98.0	100.0	
欠損値	0	2.0		
合計	636	100.0		

問4(1) SQ1

私語への対策

Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
学部統一的規則	12	5.9	9.0
オリエンテーション	94	46.5	70.1
学部要項	32	15.8	23.9
提示・印刷物	31	15.3	23.1
その他	33	16.3	24.6
	-----	-----	-----
合計	202	100.0	150.7

携帯電話への対策

Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
学部統一的規則	21	7.9	12.5
オリエンテーション	109	41.0	64.9
学部要項	48	18.0	28.6
提示・印刷物	59	22.2	35.1
その他	29	10.9	17.3
	-----	-----	-----
合計	266	100.0	158.3



遅刻への対策

Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
学部統一的規則	26	12.4	20.5
オリエンテーション	86	41.1	67.7
学部要項	40	19.1	31.5
提示・印刷物	29	13.9	22.8
その他	28	13.4	22.0
合計	209	100.0	164.6

問4(2) カウンセリング機能

Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
1. 大学全体・専任	407	51.5	66.3
2. 大学全体・教員	226	28.6	36.8
3. 学部・専任	48	6.1	7.8
4. 学部・教員	64	8.1	10.4
5. なし	45	5.7	7.3
合計	790	100.0	128.7

1. 大学全体・専任と答えた場合のカウンセラー

Name	Count	Pct of Responses	Pct of Cases
心理学専門家	363	78.9	91.4
教育学専門家	32	7.0	8.1
両分野以外	65	14.1	16.4
合計	460	100.0	115.9

### 3. 学部・専任と答えた場合のカウンセラー

Name	Count	Responses	Pct of Cases
心理学専門家	38	79.2	84.4
教育学専門家	1	2.1	2.2
両分野以外	9	18.8	20.0
合計	48	100.0	106.7

#### 問5(1)読解力

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思わない	108	17.0	18.2	18.2
あまりそう思わない	264	41.5	44.4	62.6
どちらともいえない	207	32.5	34.8	97.5
ややそう思う	13	2.0	2.2	99.7
そう思う	2	.3	.3	100.0
合計	594	93.4	100.0	
欠損値	42	6.6		
未記入				
合計	636	100.0		

#### 問5(1)文章表現力

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思わない	119	18.7	20.0	20.0
あまりそう思わない	255	40.1	42.9	62.9
どちらともいえない	205	32.2	34.5	97.3
ややそう思う	13	2.0	2.2	99.5
そう思う	3	.5	.5	100.0
合計	595	93.6	100.0	
欠損値	41	6.4		
未記入				
合計	636	100.0		

#### 問5(1)数理能力

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思わない	121	19.0	20.6	20.6
あまりそう思わない	217	34.1	36.9	57.5
どちらともいえない	235	36.9	40.0	97.4
そう思う	13	2.0	2.2	99.7
そう思わない	2	.3	.3	100.0
合計	588	92.5	100.0	
欠損値	48	7.5		
未記入				
合計	636	100.0		

問5(1)外国語能力

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	100	15.7	16.8	16.8
	あまりそう思わない	219	34.4	36.9	53.7
	どちらともいえない	217	34.1	36.5	90.2
	ややそう思う	56	8.8	9.4	99.7
	そう思う	2	.3	.3	100.0
	合計	594	93.4	100.0	
欠損値	未記入	42	6.6		
	合計	636	100.0		

問5(1)学問関心

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	74	11.6	12.5	12.5
	あまりそう思わない	223	35.1	37.7	50.2
	どちらともいえない	253	39.8	42.7	92.9
	ややそう思う	39	6.1	6.6	99.5
	そう思う	3	.5	.5	100.0
	合計	592	93.1	100.0	
欠損値	未記入	44	6.9		
	合計	636	100.0		

問5(1)コミュニケーション能力

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	57	9.0	9.6	9.6
	あまりそう思わない	196	30.8	32.9	42.5
	どちらともいえない	270	42.5	45.4	87.9
	ややそう思う	68	10.7	11.4	99.3
	そう思う	4	.6	.7	100.0
	合計	595	93.6	100.0	
欠損値	未記入	41	6.4		
	合計	636	100.0		

問5(1)プレゼンテーション能力

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思わない	54	8.5	9.1	9.1
あまりそう思わない	161	25.3	27.2	36.3
どちらともいえない	290	45.6	49.0	85.3
ややそう思う	83	13.1	14.0	99.3
そう思う	4	.6	.7	100.0
合計	592	93.1	100.0	
欠損値				
未記入	44	6.9		
合計	636	100.0		

問5(1)受講態度

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思わない	66	10.4	11.1	11.1
あまりそう思わない	165	25.9	27.8	38.9
どちらともいえない	281	44.2	47.3	86.2
ややそう思う	78	12.3	13.1	99.3
そう思う	4	.6	.7	100.0
合計	594	93.4	100.0	
欠損値				
未記入	42	6.6		
合計	636	100.0		

問5(1)社会問題への関心

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
そう思わない	60	9.4	10.1	10.1
あまりそう思わない	224	35.2	37.7	47.8
どちらともいえない	263	41.4	44.3	92.1
ややそう思う	44	6.9	7.4	99.5
そう思う	3	.5	.5	100.0
合計	594	93.4	100.0	
欠損値				
未記入	42	6.6		
合計	636	100.0		

### 問5(1)一般常識

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	88	13.8	14.8	14.8
	あまりそう思わない	249	39.2	41.9	56.7
	どちらともいえない	246	38.7	41.4	98.1
	ややそう思う	10	1.6	1.7	99.8
	そう思う	1	.2	.2	100.0
	合計	594	93.4	100.0	
欠損値	未記入	42	6.6		
合計		636	100.0		

### 問5(1)礼儀マナー

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	91	14.3	15.3	15.3
	あまりそう思わない	232	36.5	39.0	54.3
	どちらともいえない	242	38.1	40.7	95.0
	ややそう思う	28	4.4	4.7	99.7
	そう思う	2	.3	.3	100.0
	合計	595	93.6	100.0	
欠損値	未記入	41	6.4		
合計		636	100.0		

### 問5(1)課外活動

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	66	10.4	11.1	11.1
	あまりそう思わない	209	32.9	35.2	46.3
	どちらともいえない	263	41.4	44.3	90.6
	ややそう思う	51	8.0	8.6	99.2
	そう思う	5	.8	.8	100.0
	合計	594	93.4	100.0	
欠損値	未記入	42	6.6		
合計		636	100.0		

問5(1) 帰属意識

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	46	7.2	7.8	7.8
	あまりそう思わない	186	29.2	31.4	39.1
	どちらともいえない	332	52.2	56.0	95.1
	ややそう思う	28	4.4	4.7	99.8
	そう思う	1	.2	.2	100.0
	合計	593	93.2	100.0	
欠損値	未記入	43	6.8		
	合計	636	100.0		

問5(1) 不登校率

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	そう思わない	41	6.4	6.9	6.9
	あまりそう思わない	111	17.5	18.8	25.7
	どちらともいえない	304	47.8	51.4	77.2
	ややそう思う	119	18.7	20.1	97.3
	そう思う	16	2.5	2.7	100.0
	合計	591	92.9	100.0	
欠損値	未記入	45	7.1		
	合計	636	100.0		

問5(1) 留年率

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	5%未満	208	32.7	37.3	37.3
	1.5	1	.2	.2	37.5
	5-10%	173	27.2	31.0	68.5
	10-20%	100	15.7	17.9	86.4
	20-30%	19	3.0	3.4	89.8
	6.0	57	9.0	10.2	100.0
	合計	558	87.7	100.0	
欠損値	.0	78	12.3		
	合計	636	100.0		

問5(1)中退率

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	5%未満	330	51.9	56.9	56.9
	5-10%	173	27.2	29.8	86.7
	10-20%	44	6.9	7.6	94.3
	20-30%	3	.5	.5	94.8
	6	30	4.7	5.2	100.0
	合計	580	91.2	100.0	
欠損値	0	56	8.8		
合計		636	100.0		

問5(1)4年卒業率

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	70%未満	4	.6	.7	.7
	71~80%	99	15.6	17.1	17.8
	2.5	2	.3	.3	18.2
	81 90%	195	30.7	33.7	51.9
	3.5	1	.2	.2	52.1
	91-95%	138	21.7	23.9	76.0
	96%以上	101	15.9	17.5	93.4
	6.0	38	6.0	6.6	100.0
合計	578	90.9	100.0		
欠損値	.0	58	9.1		
合計		636	100.0		

問5(2) 対応度 ア読解力

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	4	.6	.7	.7
	あまり必要でない	15	2.4	2.5	3.2
	どちらともいえない	89	14.0	14.8	18.0
	やや必要である	195	30.7	32.5	50.5
	必要である	297	46.7	49.5	100.0
合計	600	94.3	100.0		
欠損値	0	36	5.7		
合計		636	100.0		

問5(2) 対応度 イ文章力

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	3	.5	.5	.5
	あまり必要でない	12	1.9	2.0	2.5
	どちらともいえない	66	10.4	11.0	13.5
	やや必要である	182	28.6	30.3	43.8
	必要である	338	53.1	56.2	100.0
	合計	601	94.5	100.0	
欠損値	0	35	5.5		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 ウ数理能力

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	11	1.7	1.8	1.8
	あまり必要でない	19	3.0	3.2	5.0
	どちらともいえない	141	22.2	23.5	28.5
	やや必要である	216	34.0	36.1	64.6
	必要である	212	33.3	35.4	100.0
	合計	599	94.2	100.0	
欠損値	0	37	5.8		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 エ外国語能力

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	2	.3	.3	.3
	あまり必要でない	5	.8	.8	1.2
	どちらともいえない	72	11.3	11.9	13.1
	やや必要である	207	32.5	34.3	47.4
	必要である	317	49.8	52.6	100.0
	合計	603	94.8	100.0	
欠損値	0	33	5.2		
	合計	636	100.0		



問5(2) 対応度 才学関心

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	6	.9	1.0	1.0
	あまり必要でない	4	.6	.7	1.7
	どちらともいえない	84	13.2	14.1	15.8
	やや必要である	222	34.9	37.2	53.0
	必要である	280	44.0	47.0	100.0
	合計	596	93.7	100.0	
欠損値	0	40	6.3		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 カ コミュニケーション能力

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	7	1.1	1.2	1.2
	あまり必要でない	7	1.1	1.2	2.3
	どちらともいえない	102	16.0	17.1	19.4
	やや必要である	222	34.9	37.1	56.5
	必要である	260	40.9	43.5	100.0
	合計	598	94.0	100.0	
欠損値	0	38	6.0		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 キ プレゼンテーション能力

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	7	1.1	1.2	1.2
	あまり必要でない	6	.9	1.0	2.2
	どちらともいえない	94	14.8	15.6	17.8
	やや必要である	237	37.3	39.4	57.2
	必要である	257	40.4	42.8	100.0
	合計	601	94.5	100.0	
欠損値	0	35	5.5		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 ク受講態度

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	11	1.7	1.8	1.8
	あまり必要でない	23	3.6	3.9	5.7
	どちらともいえない	142	22.3	23.8	29.5
	やや必要である	240	37.7	40.3	69.8
	必要である	180	28.3	30.2	100.0
	合計	596	93.7	100.0	
欠損値	0	40	6.3		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 ケ社会問題への関心

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	5	.8	.8	.8
	あまり必要でない	6	.9	1.0	1.8
	どちらともいえない	128	20.1	21.4	23.3
	やや必要である	253	39.8	42.4	65.7
	必要である	205	32.2	34.3	100.0
	合計	597	93.9	100.0	
欠損値	0	39	6.1		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 コ一般常識

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	6	.9	1.0	1.0
	あまり必要でない	11	1.7	1.8	2.8
	どちらともいえない	130	20.4	21.7	24.6
	やや必要である	247	38.8	41.3	65.9
	必要である	204	32.1	34.1	100.0
	合計	598	94.0	100.0	
欠損値	0	38	6.0		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 サ礼儀・マナー

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	8	1.3	1.3	1.3
	あまり必要でない	24	3.8	4.0	5.3
	どちらともいえない	126	19.8	21.0	26.4
	やや必要である	234	36.8	39.1	65.4
	必要である	207	32.5	34.6	100.0
	合計	599	94.2	100.0	
欠損値	0	37	5.8		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 シ課外活動

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	17	2.7	2.9	2.9
	あまり必要でない	54	8.5	9.1	11.9
	どちらともいえない	244	38.4	40.9	52.9
	やや必要である	198	31.1	33.2	86.1
	必要である	83	13.1	13.9	100.0
	合計	596	93.7	100.0	
欠損値	0	40	6.3		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 ス帰属意識

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	14	2.2	2.3	2.3
	あまり必要でない	53	8.3	8.8	11.2
	3	1	.2	.2	11.4
	どちらともいえない	232	36.5	38.7	50.1
	やや必要である	202	31.8	33.7	83.8
	必要である	97	15.3	16.2	100.0
	合計	599	94.2	100.0	
欠損値	0	37	5.8		
	合計	636	100.0		

問5(2) 対応度 セ不登校

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	24	3.8	4.0	4.0
	あまり必要でない	75	11.8	12.6	16.6
	どちらともいえない	165	25.9	27.7	44.4
	やや必要である	194	30.5	32.6	77.0
	必要である	137	21.5	23.0	100.0
	合計	595	93.6	100.0	
欠損値	0	41	6.4		
合計		636	100.0		

問5(2) 対応度 ソ留年

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	必要でない	22	3.5	3.7	3.7
	あまり必要でない	58	9.1	9.8	13.6
	どちらともいえない	176	27.7	29.8	43.4
	やや必要である	195	30.7	33.1	76.4
	必要である	139	21.9	23.6	100.0
	合計	590	92.8	100.0	
欠損値	0	46	7.2		
合計		636	100.0		

学科数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	0	26	4.1	4.1	4.1
	1	196	30.8	30.8	34.9
	2	183	28.8	28.8	63.7
	3	90	14.2	14.2	77.8
	4	49	7.7	7.7	85.5
	5	38	6.0	6.0	91.5
	6	15	2.4	2.4	93.9
	7	11	1.7	1.7	95.6
	8	7	1.1	1.1	96.7
	9	6	.9	.9	97.6
	10	4	.6	.6	98.3
	11	4	.6	.6	98.9
	12	1	.2	.2	99.1
	13	2	.3	.3	99.4
	14	3	.5	.5	99.8
	15	1	.2	.2	100.0
合計	636	100.0	100.0		

### 卒論扱い

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 必修	324	50.9	58.5	58.5
選択	187	29.4	33.8	92.2
必修+選択	37	5.8	6.7	98.9
それ以外の記入がある	6	.9	1.1	100.0
合計	554	87.1	100.0	
欠損値 0	82	12.9		
合計	636	100.0		

### 単位数

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 必修か選択だが単位数未記入	187	29.4	29.4	29.4
1.5	1	.2	.2	29.6
2.0	21	3.3	3.3	32.9
3.0	4	.6	.6	33.5
4.0	199	31.3	31.3	64.8
5.0	6	.9	.9	65.7
6.0	99	15.6	15.6	81.3
7.0	2	.3	.3	81.6
8.0	102	16.0	16.0	97.6
前項で4が記入されているため未記入	2	.3	.3	98.0
10.0	7	1.1	1.1	99.1
12.0	5	.8	.8	99.8
16.0	1	.2	.2	100.0
合計	636	100.0	100.0	

### 大学院

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効 0	13	2.0	2.0	2.0
有	464	73.0	73.0	75.0
無	159	25.0	25.0	100.0
合計	636	100.0	100.0	

## 一年次教育のニーズとプログラムに関する調査

### アンケートご協力をお願い

みなさん、大学生活は楽しいですか？ 私たちは私学高等教育研究所という私立大学のための研究所の研究プロジェクトを担当している者です。このたび、全国の私立大学の中から、特に1年生のための授業に特別な工夫をしていらっしゃる場所にお願いして、みなさんの勉強や生活についてアンケート調査をさせていただくことになりました。これは、大学の1年生のみなさんの実態やニーズを知ることによって、より良い教育プログラムを開発することを目的としたものです。この調査はみなさんの授業を担当なさっている先生の許可をいただいで行うもので、無記名のアンケートです。回答はすべて数値化してコンピュータで処理しますので、みなさん個人の回答が他の人に知られることは絶対にありません。少し長いアンケートですが、趣旨をご理解のうえ、ご協力くださいますようお願いいたします。

2003年7月

私学高等教育研究所 導入教育調査班

山田 礼子 (同志社大学)

沖 清豪 (早稲田大学)

杉谷祐美子 (早稲田大学 非常勤講師)

森 利枝 (大学評価・学位授与機構)

このアンケートに関するご質問は

同志社大学 山田 (Tel 075 - 251 - 4078) Email ryamada@mail.doshisha.ac.jp

早稲田大学 <sup>おき</sup>沖 (Tel 03 - 5286 - 3618.) Email okikiyo@waseda.jp

までお願いいたします。

1. あなたは、次のような力が大学入学時にどの程度身についていたと思いますか。またこの授業を通じてその力がさらに身についたと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ一つずつをつけてください。

	1 身につけていなかった	2 あまり身につけていなかった	3 やや身につけていた	4 身につけていた	1 身につかなかった	2 あまり身につかなかった	3 やや身についた	4 身についた
1) 講義の重要なポイントをノートにまとめる力	1	2	3	4	1	2	3	4
2) 自分の意見と事実をわけて書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
3) 定められた形式に従ってレポートを書く力	1	2	3	4	1	2	3	4
4) 図書館の利用方法や文献を調べる力	1	2	3	4	1	2	3	4
5) コンピュータ等を操作する技能	1	2	3	4	1	2	3	4
6) インターネットで情報収集できる力	1	2	3	4	1	2	3	4
7) ものごとの問題点を発見する力	1	2	3	4	1	2	3	4
8) 課題を解決する力	1	2	3	4	1	2	3	4
9) 他人の意見に根拠のある批判をする力	1	2	3	4	1	2	3	4
10) プレゼンテーションの技能	1	2	3	4	1	2	3	4
11) 自分の意見を筋道立てて主張できる力	1	2	3	4	1	2	3	4
12) 物事に対して粘り強く取り組む力	1	2	3	4	1	2	3	4

2. あなたは以下の学習態度が大学入学時にどの程度身につけていたと思いますか。またこの授業を通じてそれらがさらに身についたと思いますか。あてはまる番号にそれぞれ一つずつをつけてください。

	1	2	3	4	1	2	3	4
	身につけていなかった	あまり身につけていなかった	やや身につけていた	身につけていた	身につかなかった	あまり身につかなかった	やや身についた	身につけていた
1) 自分のスケジュールを管理すること	1	2	3	4	1	2	3	4
2) 学習の計画を立てること	1	2	3	4	1	2	3	4
3) 課題の提出期限を守ること	1	2	3	4	1	2	3	4
4) 欠席した授業の内容をすぐに補うこと	1	2	3	4	1	2	3	4
5) 積極的な態度で授業に臨むこと	1	2	3	4	1	2	3	4

3. あなたはこの授業を通じて、以下の大学生活面についてどの程度理解できましたか。あてはまる番号一つにをつけてください。

	1	2	3	4	5
	理解できなかった	あまり理解できなかった	やや理解できた	理解できた	授業で扱われなかった
1) 大学の建学の精神や理念	1	2	3	4	5
2) 大学の歴史・伝統	1	2	3	4	5
3) カリキュラム編成と卒業単位の修得方法	1	2	3	4	5
4) 大学内の施設の利用方法	1	2	3	4	5
5) 学習や生活面での悩みを相談する方法	1	2	3	4	5



4. あなたにとって、この授業は次の項目に対してどの程度役に立ちましたか。あてはまる番号に一つをつけてください。

	1	2	3	4
	役に立たなかった	あまり役に立たなかった	やや役に立った	役に立った
1) 大学生活での目的や目標の設定	1	2	3	4
2) 学問に対する動機づけ	1	2	3	4
3) 職業や進路選択の方向づけ	1	2	3	4
4) 探究心をもつこと	1	2	3	4
5) 社会問題への関心をもつこと	1	2	3	4
6) 多様なものの見方にふれること	1	2	3	4
7) 批判的精神をもつこと	1	2	3	4
8) 一般常識を身につけること	1	2	3	4
9) 協調性をもつこと	1	2	3	4
10) 大学生であるという自覚をもつこと	1	2	3	4
11) 愛校精神をもつこと	1	2	3	4
12) 自分に自信や肯定感をもつこと	1	2	3	4
13) リーダーシップを発揮すること	1	2	3	4

5. 以下の点について、この授業はいかがでしたか。あてはまる番号に一つ をつけてください。

	1 あてはまらない	2 あまりあてはまらない	3 ややあてはまる	4 あてはまる
1) 教員の教え方はわかりやすい	1	2	3	4
2) 教員には熱意がある	1	2	3	4
3) 教員は質問や意見に対して適切に応えてくれる	1	2	3	4
4) 学生が主体的に参加できるように配慮されている	1	2	3	4
5) 1年生にとって必要な内容で構成されている	1	2	3	4

6. この授業では以下の授業形態・方法が取られましたか。またあなたにとってどの程度役に立ちましたか。実施された項目は「はい」に をつけ、さらにそれぞれについてあてはまる番号に一つ をつけてください。

	実施された	1 役に立たなかった	2 あまり役に立たなかった	3 やや役にたった	4 役にたった
1) グループ・ディスカッション	はい	1	2	3	4
2) 学生によるプレゼンテーション	はい	1	2	3	4
3) 教員による講義	はい	1	2	3	4
4) T A(院生の授業助手)の活用	はい	1	2	3	4
5) S A(上級生の授業助手)の活用	はい	1	2	3	4
6) グループ・プロジェクト	はい	1	2	3	4
7) 課題提出物の添削と返却	はい	1	2	3	4
8) 定期的な課題提出	はい	1	2	3	4
9) フィールド・ワーク	はい	1	2	3	4
10) 体験学習	はい	1	2	3	4
11) 実習・実験	はい	1	2	3	4

7. あなたは、大学の授業や授業以外のプログラムで以下の内容を指導してほしいと思いませんか。あてはまる番号にそれぞれ一つずつをつけてください。

	授業で				授業以外のプログラムで			
	1 指導して 欲しくない	2 あまり 指導して 欲しくない	3 やや 指導して 欲しい	4 指導して 欲しい	1 指導して 欲しくない	2 あまり 指導して 欲しくない	3 やや 指導して 欲しい	4 指導して 欲しい
1) 必修・選択などの単位制度や卒業要件	1	2	3	4	1	2	3	4
2) 履修登録の具体的な方法	1	2	3	4	1	2	3	4
3) 学内の施設・設備などの利用方法	1	2	3	4	1	2	3	4
4) 大学で利用できる制度(留学など)	1	2	3	4	1	2	3	4
5) 大学で利用できるサービス(就職相談など)	1	2	3	4	1	2	3	4
6) 心理相談・カウンセリングの利用方法	1	2	3	4	1	2	3	4
7) セクシャル・ハラスメントに関する相談の方法	1	2	3	4	1	2	3	4
8) 学習上の問題に関する相談の方法	1	2	3	4	1	2	3	4
9) 交友関係の築き方	1	2	3	4	1	2	3	4
10) 教員との接し方	1	2	3	4	1	2	3	4
11) キャンパスのルール	1	2	3	4	1	2	3	4
12) 飲酒・喫煙などの健康への影響	1	2	3	4	1	2	3	4

8. あなたの日頃の学習習慣について、あてはまる番号に一つをつけてください。

	1 して いない	2 あ ま り し て い ない	3 た ま に し て い る	4 日 常 的 に し て い る
1) 雑誌論文などを読む	1	2	3	4
2) 図書館を利用する	1	2	3	4
3) 辞書を活用する	1	2	3	4
4) 教科書以外の英語の文献を読む	1	2	3	4
5) 新聞の政治面、経済面、国際面等を読む	1	2	3	4
6) 授業で配布された資料（プリント）を整理する	1	2	3	4
7) ノートは、見出しの工夫をして整理する	1	2	3	4
8) 授業中に先生が黒板に書かなかったことでもノートを取る	1	2	3	4
9) 授業で出された課題はきちんと提出する	1	2	3	4
10) 授業の予習をする	1	2	3	4
11) 授業の復習をする	1	2	3	4
12) 試験前に授業のノートを読み返す	1	2	3	4
13) 試験前に指定された教科書や参考書を読む	1	2	3	4
14) 試験前に補足的な調べものをする	1	2	3	4
15) 試験前に授業内容をまとめる	1	2	3	4
16) 授業に遅刻をする	1	2	3	4
17) 授業中以外に教員とコミュニケーションをとる	1	2	3	4
18) アルバイトをする	1	2	3	4
19) ボランティア活動をする	1	2	3	4
20) クラブ・サークル活動を行う	1	2	3	4
21) 学生同士の研究会に参加する	1	2	3	4
22) 起床・就寝時間など規則正しい生活を送る	1	2	3	4
23) 約束した時間を守る	1	2	3	4
24) 授業がない日も大学にくる	1	2	3	4
25) 先生や目上の人には敬語を使う	1	2	3	4
26) 授業のコンパには参加する	1	2	3	4
27) 授業をアルバイトやクラブ・サークル活動より優先する	1	2	3	4

以下の質問では高校時代および現在の状況に関してお伺いします。

9. あなたがいま所属している学部・学科を書いて下さい。

\_\_\_\_\_学部 \_\_\_\_\_学科

10. あなたの性別について、あてはまる番号に をつけてください。

1. 男    2. 女

11. あなたは自宅生ですか、下宿生ですか。あてはまる番号に をつけてください。

1. 自宅生    2. 下宿生

12. あなたが入学した大学は、あなたが何番目に志望した大学ですか。あてはまる番号に をつけてください。

1. 第一志望  
2. 第一志望以外

13. 大学入学に際して、あなたが受けた試験についておたずねします。

(1)あなたは大学入試センター試験を受けましたか。

1. はい    2. いいえ

(2)あなたは、どのような入試を受けて現在の大学に入学しましたか。あてはまる番号一つに をつけてください。

1. 一般入試  
2. 指定校推薦  
3. 公募制推薦  
4. AO選考  
5. 内部進学〔学内付属高校からの進学〕  
6. スポーツ推薦  
7. その他の特別選抜（留学生・社会人・編入学など）

14. あなたは現役ですか、浪人ですか。

- |       |       |       |        |
|-------|-------|-------|--------|
| 1. 現役 | 2. 一浪 | 3. 二浪 | 4. その他 |
|-------|-------|-------|--------|

15. あなたが卒業した高校の学科について、あてはまる番号に をつけてください。

- |                            |
|----------------------------|
| 1. 普通科                     |
| 2. 商業科・工業科・農業科など職業に関する専門学科 |
| 3. 理数科・国際科・外国語科などの専門学科     |
| 4. 総合学科                    |
| 5. 大検・海外の高校・その他(具体的に )     |

16. あなたが卒業した高校では、4年制大学に進学する人はどのくらいでしたか。次の中から最も近い番号に をつけてください。

- |                            |
|----------------------------|
| 1. 4年制大学に進学する人は、4分の3以上だった。 |
| 2. 4年制大学に進学する人は、半分くらいだった。  |
| 3. 4年制大学に進学する人は、4分の1程度だった。 |
| 4. 4年制大学に進学する人は、ほとんどいなかった。 |
| 5. わからない・その他               |

17. あなたの高校での成績は学年の中で大体どのくらいでしたか。次の中から最も近いものに をつけてください。

- |                     |
|---------------------|
| 1. 上位の方だった。         |
| 2. 中の上くらいだった。       |
| 3. 中くらいだった。         |
| 4. 中の下くらいだった。       |
| 5. 下位の方だった。         |
| 6. わからない・覚えていない・その他 |

18. 高校で開講されている科目それぞれについて得意だったか、大学進学のために受験勉強をしたかをお伺いします。当てはまる番号にそれぞれ をつけてください。

科目名	高校での学業はいかがでしたか？	受験勉強をしましたか？
現代国語	1.得意 2.普通 3.不得意 4.受講せず	1.した 2.少し 3.しない
英語	1.得意 2.普通 3.不得意 4.受講せず	1.した 2.少し 3.しない
数学	1.得意 2.普通 3.不得意 4.受講せず	1.した 2.少し 3.しない
世界史（AかB）	1.得意 2.普通 3.不得意 4.受講せず	1.した 2.少し 3.しない
日本史（AかB）	1.得意 2.普通 3.不得意 4.受講せず	1.した 2.少し 3.しない
物理（AかB）	1.得意 2.普通 3.不得意 4.受講せず	1.した 2.少し 3.しない
化学（AかB）	1.得意 2.普通 3.不得意 4.受講せず	1.した 2.少し 3.しない
生物（AかB）	1.得意 2.普通 3.不得意 4.受講せず	1.した 2.少し 3.しない

19. あなたのご両親の最終学歴についてお伺いします。あてはまる番号に をつけてください。

父		母	
1.	高等学校卒	6.	高等学校卒
2.	短大・高専・専門学校卒	7.	短大・高専・専門学校卒
3.	大学卒	8.	大学卒
4.	大学院修了	9.	大学院修了
5.	その他・わからない	10.	その他・わからない

これで質問は終わりです。最後にこの調査について質問や意見などがありましたら、以下にご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

一年次教育のニーズとプログラムに関する調査  
単純集計表

(自由記述部分は割愛)

Q1\_1) 講義の重要ポイントをまとめる力(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	106	6.5	7.0	7.0
	あまり身につかなかった	430	26.3	28.5	35.5
	やや身についた	789	48.3	52.3	87.9
	身についた	183	11.2	12.1	100.0
	合計	1508	92.4	100.0	
欠損値	無回答	124	7.6		
合計		1632	100.0		

Q1\_1) 講義の重要ポイントをまとめる力(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	217	13.3	13.7	13.7
	あまり身についていなかった	634	38.8	40.0	53.7
	やや身についていた	587	36.0	37.0	90.7
	身についていた	148	9.1	9.3	100.0
	合計	1586	97.2	100.0	
欠損値	無回答	46	2.8		
合計		1632	100.0		

Q1\_3) 定められた形式に従ってレポートを書く力(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	64	3.9	4.2	4.2
	あまり身につかなかった	282	17.3	18.6	22.8
	やや身についた	878	53.8	57.9	80.7
	身についた	293	18.0	19.3	100.0
	合計	1517	93.0	100.0	
欠損値	無回答	115	7.0		
合計		1632	100.0		



Q1\_4) 図書館の利用方法や文献を調べる力(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	405	24.8	25.7	25.7
	あまり身についていなかった	621	38.1	39.4	65.1
	やや身についていた	419	25.7	26.6	91.7
	身についていた	131	8.0	8.3	100.0
	合計	1576	96.6	100.0	
欠損値	無回答	56	3.4		
合計		1632	100.0		

Q1\_4) 図書館の利用方法や文献を調べる力(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	138	8.5	9.1	9.1
	あまり身につかなかった	308	18.9	20.4	29.5
	やや身についた	720	44.1	47.6	77.1
	身についた	346	21.2	22.9	100.0
	合計	1512	92.6	100.0	
欠損値	無回答	120	7.4		
合計		1632	100.0		

Q1\_5) コンピュータ等を操作する技能(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	449	27.5	28.3	28.3
	あまり身についていなかった	450	27.6	28.3	56.6
	やや身についていた	459	28.1	28.9	85.5
	身についていた	231	14.2	14.5	100.0
	合計	1589	97.4	100.0	
欠損値	無回答	43	2.6		
合計		1632	100.0		

Q1\_5) コンピュータ等を操作する技能(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	80	4.9	5.3	5.3
	あまり身につかなかった	176	10.8	11.6	16.9
	やや身についた	796	48.8	52.5	69.3
	身についた	465	28.5	30.7	100.0
	合計	1517	93.0	100.0	
欠損値	無回答	115	7.0		
合計		1632	100.0		

Q1\_5) コンピュータ等を操作する技能(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	80	4.9	5.3	5.3
	あまり身につかなかった	176	10.8	11.6	16.9
	やや身についた	796	48.8	52.5	69.3
	身についた	465	28.5	30.7	100.0
	合計	1517	93.0	100.0	
欠損値	無回答	115	7.0		
合計		1632	100.0		

Q1\_6) インターネットで情報収集できる力(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	346	21.2	21.9	21.9
	あまり身についていなかった	402	24.6	25.5	47.4
	やや身についていた	521	31.9	33.0	80.4
	身についていた	310	19.0	19.6	100.0
	合計	1579	96.8	100.0	
欠損値	無回答	53	3.2		
合計		1632	100.0		

**Q1\_6) インターネットで情報収集できる力(現在)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	94	5.8	6.2	6.2
	あまり身につかなかった	178	10.9	11.8	18.0
	やや身についた	695	42.6	46.1	64.1
	身についた	542	33.2	35.9	100.0
	合計	1509	92.5	100.0	
欠損値	無回答	123	7.5		
合計		1632	100.0		

**Q1\_7) ものごとの問題点を発見する力(過去)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	223	13.7	14.1	14.1
	あまり身についていなかった	802	49.1	50.5	64.6
	やや身についていた	461	28.2	29.0	93.6
	身についていた	101	6.2	6.4	100.0
	合計	1587	97.2	100.0	
欠損値	無回答	45	2.8		
合計		1632	100.0		

**Q1\_7) ものごとの問題点を発見する力(現在)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	75	4.6	5.0	5.0
	あまり身につかなかった	494	30.3	32.7	37.7
	やや身についた	795	48.7	52.6	90.3
	身についた	146	8.9	9.7	100.0
	合計	1510	92.5	100.0	
欠損値	無回答	122	7.5		
合計		1632	100.0		

Q1\_8) 課題を解決する力(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	206	12.6	13.1	13.1
	あまり身についていなかった	744	45.6	47.3	60.4
	やや身についていた	517	31.7	32.9	93.3
	身についていた	106	6.5	6.7	100.0
	合計	1573	96.4	100.0	
欠損値	無回答	59	3.6		
合計		1632	100.0		

Q1\_8) 課題を解決する力(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	80	4.9	5.3	5.3
	あまり身につかなかった	446	27.3	29.5	34.8
	やや身についた	811	49.7	53.7	88.5
	身についた	174	10.7	11.5	100.0
	合計	1511	92.6	100.0	
欠損値	無回答	121	7.4		
合計		1632	100.0		

Q1\_9) 他人の意見に根拠のある批判をする力(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	363	22.2	22.9	22.9
	あまり身についていなかった	715	43.8	45.2	68.1
	やや身についていた	379	23.2	24.0	92.1
	身についていた	125	7.7	7.9	100.0
	合計	1582	96.9	100.0	
欠損値	無回答	50	3.1		
合計		1632	100.0		

Q1\_9) 他人の意見に根拠のある批判をする力(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	156	9.6	10.3	10.3
	あまり身につかなかった	587	36.0	38.9	49.2
	やや身についた	614	37.6	40.7	89.9
	身についた	152	9.3	10.1	100.0
	合計	1509	92.5	100.0	
欠損値	無回答	123	7.5		
合計		1632	100.0		

Q1\_10) プレゼンテーション技能(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	624	38.2	39.4	39.4
	あまり身についていなかった	623	38.2	39.3	78.7
	やや身についていた	278	17.0	17.5	96.2
	身についていた	60	3.7	3.8	100.0
	合計	1585	97.1	100.0	
欠損値	無回答	47	2.9		
合計		1632	100.0		

Q1\_10) プレゼンテーション技能(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	175	10.7	11.6	11.6
	あまり身につかなかった	521	31.9	34.5	46.1
	やや身についた	682	41.8	45.1	91.2
	身についた	133	8.1	8.8	100.0
	合計	1511	92.6	100.0	
欠損値	無回答	121	7.4		
合計		1632	100.0		

Q1\_11) 意見を筋道立てて主張できる力(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	392	24.0	24.8	24.8
	あまり身についていなかった	705	43.2	44.5	69.3
	やや身についていた	390	23.9	24.6	93.9
	身についていた	96	5.9	6.1	100.0
	合計	1583	97.0	100.0	
欠損値	無回答	49	3.0		
合計		1632	100.0		

Q1\_11) 意見を筋道立てて主張できる力(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	123	7.5	8.1	8.1
	あまり身につかなかった	563	34.5	37.2	45.3
	やや身についた	690	42.3	45.5	90.8
	身についた	139	8.5	9.2	100.0
	合計	1515	92.8	100.0	
欠損値	無回答	117	7.2		
合計		1632	100.0		

Q1\_12) 物事に対して粘り強く取り組む力(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	210	12.9	13.2	13.2
	あまり身についていなかった	605	37.1	38.1	51.3
	やや身についていた	555	34.0	34.9	86.2
	身についていた	219	13.4	13.8	100.0
	合計	1589	97.4	100.0	
欠損値	無回答	43	2.6		
合計		1632	100.0		

Q1\_12) 物事に対して粘り強く取り組む力(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	103	6.3	6.8	6.8
	あまり身につかなかった	373	22.9	24.5	31.3
	やや身についた	766	46.9	50.3	81.6
	身についた	280	17.2	18.4	100.0
	合計	1522	93.3	100.0	
欠損値	無回答	110	6.7		
合計		1632	100.0		

Q2\_1) 自分のスケジュール管理(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	262	16.1	16.4	16.4
	あまり身についていなかった	574	35.2	35.9	52.3
	やや身についていた	537	32.9	33.6	85.8
	身についていた	227	13.9	14.2	100.0
	合計	1600	98.0	100.0	
欠損値	無回答	32	2.0		
合計		1632	100.0		

Q2\_1) 自分のスケジュール管理(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	109	6.7	7.1	7.1
	あまり身につかなかった	360	22.1	23.5	30.7
	やや身についた	711	43.6	46.5	77.2
	身についた	349	21.4	22.8	100.0
	合計	1529	93.7	100.0	
欠損値	無回答	103	6.3		
合計		1632	100.0		

Q2\_2) 学習計画を立てる(過去)

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
身についていなかった	347	21.3	21.7	21.7
あまり身についていなかった	635	38.9	39.7	61.3
やや身についていた	461	28.2	28.8	90.1
身についていた	158	9.7	9.9	100.0
合計	1601	98.1	100.0	
欠損値	無回答	31	1.9	
合計	1632	100.0		

Q2\_2) 学習計画を立てる(現在)

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
身につかなかった	166	10.2	10.9	10.9
あまり身につかなかった	526	32.2	34.4	45.3
やや身についた	641	39.3	42.0	87.3
身についた	194	11.9	12.7	100.0
合計	1527	93.6	100.0	
欠損値	無回答	105	6.4	
合計	1632	100.0		

Q2\_3) 課題の提出期限を守る(過去)

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効				
身についていなかった	153	9.4	9.6	9.6
あまり身についていなかった	315	19.3	19.7	29.3
やや身についていた	490	30.0	30.6	59.9
身についていた	642	39.3	40.1	100.0
合計	1600	98.0	100.0	
欠損値	無回答	32	2.0	
合計	1632	100.0		



**Q2\_3 課題の提出期限を守る(現在)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	81	5.0	5.3	5.3
	あまり身につかなかった	187	11.5	12.2	17.6
	やや身についた	528	32.4	34.6	52.1
	身についた	731	44.8	47.9	100.0
	合計	1527	93.6	100.0	
欠損値	無回答	105	6.4		
合計		1632	100.0		

**Q2\_4 欠席した授業内容を補う(過去)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	276	16.9	17.4	17.4
	あまり身についていなかった	481	29.5	30.3	47.7
	やや身についていた	483	29.6	30.4	78.1
	身についていた	347	21.3	21.9	100.0
	合計	1587	97.2	100.0	
欠損値	無回答	45	2.8		
合計		1632	100.0		

**Q2\_4 欠席した授業内容を補う(現在)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	194	11.9	12.8	12.8
	あまり身につかなかった	409	25.1	27.0	39.7
	やや身についた	541	33.1	35.7	75.4
	身についた	373	22.9	24.6	100.0
	合計	1517	93.0	100.0	
欠損値	無回答	115	7.0		
合計		1632	100.0		

Q2\_5) 積極的態度で授業に臨む(過去)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身についていなかった	186	11.4	11.6	11.6
	あまり身についていなかった	518	31.7	32.4	44.0
	やや身についていた	600	36.8	37.5	81.6
	身についていた	295	18.1	18.4	100.0
	合計	1599	98.0	100.0	
欠損値	無回答	33	2.0		
合計		1632	100.0		

Q2\_5) 積極的態度で授業に臨む(現在)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	身につかなかった	101	6.2	6.6	6.6
	あまり身につかなかった	385	23.6	25.2	31.8
	やや身についた	725	44.4	47.4	79.2
	身についた	318	19.5	20.8	100.0
	合計	1529	93.7	100.0	
欠損値	無回答	103	6.3		
合計		1632	100.0		

Q3\_1) 大学の建学の精神や理念

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	理解できなかった	182	11.2	11.3	11.3
	あまり理解できなかった	449	27.5	27.9	39.2
	やや理解できた	623	38.2	38.7	77.8
	理解できた	172	10.5	10.7	88.5
	授業で扱われなかった	185	11.3	11.5	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

### Q3\_2) 大学の歴史・伝統

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	理解できなかった	244	15.0	15.1	15.1
	あまり理解できなかった	524	32.1	32.5	47.7
	やや理解できた	500	30.6	31.0	78.7
	理解できた	123	7.5	7.6	86.3
	授業で扱われなかった	220	13.5	13.7	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

### Q3\_3) カリキュラム編成と卒業単位修得方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	理解できなかった	70	4.3	4.4	4.4
	あまり理解できなかった	209	12.8	13.0	17.3
	やや理解できた	663	40.6	41.2	58.5
	理解できた	554	33.9	34.4	93.0
	授業で扱われなかった	113	6.9	7.0	100.0
	合計	1609	98.6	100.0	
欠損値	無回答	23	1.4		
合計		1632	100.0		

### Q3\_4) 大学内施設の利用方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	理解できなかった	55	3.4	3.4	3.4
	あまり理解できなかった	141	8.6	8.8	12.2
	やや理解できた	672	41.2	41.7	53.9
	理解できた	611	37.4	38.0	91.9
	授業で扱われなかった	131	8.0	8.1	100.0
	合計	1610	98.7	100.0	
欠損値	無回答	22	1.3		
合計		1632	100.0		

### Q3\_5) 学習や生活面での相談方法

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	理解できなかった	241	14.8	15.0	15.0
	あまり理解できなかった	494	30.3	30.7	45.6
	やや理解できた	471	28.9	29.2	74.9
	理解できた	207	12.7	12.8	87.7
	授業で扱われなかった	198	12.1	12.3	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
	合計	1632	100.0		

### Q4\_1) 大学生活での目的目標の設定

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	141	8.6	8.7	8.7
	あまり役に立たなかった	504	30.9	31.2	39.9
	やや役に立った	748	45.8	46.3	86.2
	役に立った	223	13.7	13.8	100.0
	合計	1616	99.0	100.0	
欠損値	無回答	16	1.0		
	合計	1632	100.0		

### Q4\_2) 学問に対する動機づけ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	122	7.5	7.5	7.5
	あまり役に立たなかった	576	35.3	35.6	43.2
	やや役に立った	728	44.6	45.0	88.2
	役に立った	190	11.6	11.8	100.0
	合計	1616	99.0	100.0	
欠損値	無回答	16	1.0		
	合計	1632	100.0		

#### Q4.3) 職業や進路選択の方向づけ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	158	9.7	9.8	9.8
	あまり役に立たなかった	549	33.6	34.0	43.7
	やや役に立った	652	40.0	40.3	84.0
	役に立った	258	15.8	16.0	100.0
	合計	1617	99.1	100.0	
欠損値	無回答	15	.9		
合計		1632	100.0		

#### Q4.4) 探究心をもつ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	86	5.3	5.3	5.3
	あまり役に立たなかった	399	24.4	24.7	30.0
	やや役に立った	818	50.1	50.7	80.7
	役に立った	311	19.1	19.3	100.0
	合計	1614	98.9	100.0	
欠損値	無回答	18	1.1		
合計		1632	100.0		

#### Q4.5) 社会問題への関心をもつ

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	90	5.5	5.6	5.6
	あまり役に立たなかった	344	21.1	21.3	26.9
	やや役に立った	809	49.6	50.2	77.1
	役に立った	370	22.7	22.9	100.0
	合計	1613	98.8	100.0	
欠損値	無回答	19	1.2		
合計		1632	100.0		

**Q4\_6) 多様なものの見方にふれる**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	64	3.9	4.0	4.0
	あまり役に立たなかった	262	16.1	16.2	20.2
	やや役に立った	797	48.8	49.4	69.6
	役に立った	491	30.1	30.4	100.0
	合計	1614	98.9	100.0	
欠損値	無回答	18	1.1		
合計		1632	100.0		

**Q4\_7) 批判的精神をもつ**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	100	6.1	6.2	6.2
	あまり役に立たなかった	515	31.6	32.0	38.2
	やや役に立った	718	44.0	44.6	82.8
	役に立った	276	16.9	17.2	100.0
	合計	1609	98.6	100.0	
欠損値	無回答	23	1.4		
合計		1632	100.0		

**Q4\_8) 一般常識を身につける**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	83	5.1	5.1	5.1
	あまり役に立たなかった	359	22.0	22.3	27.4
	やや役に立った	831	50.9	51.5	78.9
	役に立った	340	20.8	21.1	100.0
	合計	1613	98.8	100.0	
欠損値	無回答	19	1.2		
合計		1632	100.0		

**Q4\_9) 協調性をもつ**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	128	7.8	7.9	7.9
	あまり役に立たなかった	422	25.9	26.1	34.1
	やや役に立った	731	44.8	45.3	79.4
	役に立った	333	20.4	20.6	100.0
	合計	1614	98.9	100.0	
欠損値	無回答	18	1.1		
合計		1632	100.0		

**Q4\_10) 大学生であるという自覚をもつ**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	130	8.0	8.0	8.0
	あまり役に立たなかった	358	21.9	22.1	30.2
	やや役に立った	724	44.4	44.7	74.9
	役に立った	406	24.9	25.1	100.0
	合計	1618	99.1	100.0	
欠損値	無回答	14	.9		
合計		1632	100.0		

**Q4\_11) 愛校精神をもつ**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	397	24.3	24.6	24.6
	あまり役に立たなかった	694	42.5	43.1	67.7
	やや役に立った	416	25.5	25.8	93.5
	役に立った	105	6.4	6.5	100.0
	合計	1612	98.8	100.0	
欠損値	無回答	20	1.2		
合計		1632	100.0		

**Q4\_12) 自分に自身や肯定感をもつ**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	150	9.2	9.3	9.3
	あまり役に立たなかった	526	32.2	32.6	41.9
	やや役に立った	703	43.1	43.6	85.4
	役に立った	235	14.4	14.6	100.0
	合計	1614	98.9	100.0	
欠損値	無回答	18	1.1		
合計		1632	100.0		

**Q4\_13) リーダーシップを発揮する**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	339	20.8	21.0	21.0
	あまり役に立たなかった	676	41.4	41.9	62.9
	やや役に立った	489	30.0	30.3	93.2
	役に立った	109	6.7	6.8	100.0
	合計	1613	98.8	100.0	
欠損値	無回答	19	1.2		
合計		1632	100.0		

**Q5\_1) 教員の教え方はわかりやすい**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	101	6.2	6.2	6.2
	あまりあてはまらない	315	19.3	19.5	25.7
	ややあてはまる	714	43.8	44.1	69.8
	あてはまる	489	30.0	30.2	100.0
	合計	1619	99.2	100.0	
欠損値	無回答	13	.8		
合計		1632	100.0		



**Q5\_2) 教員には熱意がある**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	67	4.1	4.1	4.1
	あまりあてはまらない	226	13.8	14.0	18.1
	ややあてはまる	684	41.9	42.3	60.4
	あてはまる	640	39.2	39.6	100.0
	合計	1617	99.1	100.0	
欠損値	無回答	15	.9		
合計		1632	100.0		

**Q5\_3) 教員は質問意見に対して適切に答える**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	61	3.7	3.8	3.8
	あまりあてはまらない	219	13.4	13.6	17.3
	ややあてはまる	608	37.3	37.7	55.0
	あてはまる	726	44.5	45.0	100.0
	合計	1614	98.9	100.0	
欠損値	無回答	18	1.1		
合計		1632	100.0		

**Q5\_4) 学生が主体的に参加できるよう配慮されている**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	72	4.4	4.5	4.5
	あまりあてはまらない	294	18.0	18.2	22.7
	ややあてはまる	664	40.7	41.1	63.8
	あてはまる	584	35.8	36.2	100.0
	合計	1614	98.9	100.0	
欠損値	無回答	18	1.1		
合計		1632	100.0		

Q5\_5) 1年生にとって必要な内容で構成されている

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	あてはまらない	109	6.7	6.7	6.7
	あまりあてはまらない	291	17.8	18.0	24.8
	ややあてはまる	653	40.0	40.4	65.2
	あてはまる	562	34.4	34.8	100.0
	合計	1615	99.0	100.0	
欠損値	無回答	17	1.0		
合計		1632	100.0		

Q6\_1) グループ・ディスカッション(実施)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	873	53.5	53.5	53.5
	実施された	759	46.5	46.5	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

Q6\_1) グループ・ディスカッション

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	58	3.6	7.7	7.7
	あまり役に立たなかった	139	8.5	18.5	26.2
	やや役に立った	384	23.5	51.1	77.4
	役に立った	170	10.4	22.6	100.0
	合計	751	46.0	100.0	
欠損値	無回答	881	54.0		
合計		1632	100.0		

Q6\_2) 学生によるプレゼンテーション(実施)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	628	38.5	38.5	38.5
	実施された	1004	61.5	61.5	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6\_2) 学生によるプレゼンテーション**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	43	2.6	4.3	4.3
	あまり役に立たなかった	158	9.7	15.9	20.2
	やや役に立った	449	27.5	45.2	65.4
	役に立った	344	21.1	34.6	100.0
	合計	994	60.9	100.0	
欠損値	無回答	638	39.1		
合計		1632	100.0		

**Q6\_3) 教員による講義(実施)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	465	28.5	28.5	28.5
	実施された	1167	71.5	71.5	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6\_3) 教員による講義**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	51	3.1	4.4	4.4
	あまり役に立たなかった	181	11.1	15.7	20.1
	やや役に立った	597	36.6	51.8	71.9
	役に立った	324	19.9	28.1	100.0
	合計	1153	70.6	100.0	
欠損値	無回答	479	29.4		
合計		1632	100.0		

**Q6\_4) TA(院生の授業助手)の活用(実施)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	1186	72.7	72.7	72.7
	実施された	446	27.3	27.3	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6\_4) TA(院生の授業助手)の活用**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	56	3.4	12.6	12.6
	あまり役に立たなかった	98	6.0	22.1	34.7
	やや役に立った	178	10.9	40.1	74.8
	役に立った	112	6.9	25.2	100.0
	合計	444	27.2	100.0	
欠損値	無回答	1188	72.8		
合計		1632	100.0		

**Q6\_5) SA(上級生の授業助手)の活用(実施)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	1289	79.0	79.0	79.0
	実施された	343	21.0	21.0	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6\_5) SA(上級生の授業助手)の活用**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	56	3.4	16.4	16.4
	あまり役に立たなかった	89	5.5	26.0	42.4
	やや役に立った	143	8.8	41.8	84.2
	役に立った	54	3.3	15.8	100.0
	合計	342	21.0	100.0	
欠損値	無回答	1290	79.0		
合計		1632	100.0		

**Q6\_6) グループ・プロジェクト(実施)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	1172	71.8	71.8	71.8
	実施された	460	28.2	28.2	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6.6) グループ・プロジェクト**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	58	3.6	12.7	12.7
	あまり役に立たなかった	112	6.9	24.5	37.1
	やや役に立った	196	12.0	42.8	79.9
	役に立った	92	5.6	20.1	100.0
	合計	458	28.1	100.0	
欠損値	無回答	1174	71.9		
合計		1632	100.0		

**Q6.7) 課題提出物の添削と返却(実施)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	425	26.0	26.0	26.0
	実施された	1207	74.0	74.0	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6.7) 課題提出物の添削と返却**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	47	2.9	3.9	3.9
	あまり役に立たなかった	184	11.3	15.3	19.3
	やや役に立った	526	32.2	43.8	63.1
	役に立った	443	27.1	36.9	100.0
	合計	1200	73.5	100.0	
欠損値	無回答	432	26.5		
合計		1632	100.0		

**Q6.8) 定期的な課題提出(実施)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	413	25.3	25.3	25.3
	実施された	1219	74.7	74.7	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6\_8) 定期的な課題提出**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	51	3.1	4.2	4.2
	あまり役に立たなかった	173	10.6	14.2	18.4
	やや役に立った	591	36.2	48.6	67.0
	役に立った	401	24.6	33.0	100.0
	合計	1216	74.5	100.0	
欠損値	無回答	416	25.5		
合計		1632	100.0		

**Q6\_9) フィールドワーク(実施)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	1242	76.1	76.1	76.1
	実施された	390	23.9	23.9	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6\_9) フィールドワーク**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	48	2.9	12.5	12.5
	あまり役に立たなかった	91	5.6	23.6	36.1
	やや役に立った	168	10.3	43.6	79.7
	役に立った	78	4.8	20.3	100.0
	合計	385	23.6	100.0	
欠損値	無回答	1247	76.4		
合計		1632	100.0		

**Q6\_10) 体験学習(実施)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	1290	79.0	79.0	79.0
	実施された	342	21.0	21.0	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6\_10) 体験学習**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	48	2.9	14.1	14.1
	あまり役に立たなかった	74	4.5	21.8	35.9
	やや役に立った	144	8.8	42.4	78.2
	役に立った	74	4.5	21.8	100.0
	合計	340	20.8	100.0	
欠損値	無回答	1292	79.2		
合計		1632	100.0		

**Q6\_11) 実習・実験(実施)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	実施されなかった	1260	77.2	77.2	77.2
	実施された	372	22.8	22.8	100.0
	合計	1632	100.0	100.0	

**Q6\_11) 実習・実験**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	役に立たなかった	54	3.3	14.6	14.6
	あまり役に立たなかった	74	4.5	19.9	34.5
	やや役に立った	146	8.9	39.4	73.9
	役に立った	97	5.9	26.1	100.0
	合計	371	22.7	100.0	
欠損値	無回答	1261	77.3		
合計		1632	100.0		

**Q7\_1) 必修・選択単位制度や卒業要件(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	130	8.0	8.2	8.2
	あまり指導して欲しくない	175	10.7	11.0	19.2
	やや指導して欲しい	589	36.1	37.1	56.3
	指導して欲しい	694	42.5	43.7	100.0
	合計	1588	97.3	100.0	
欠損値	無回答	44	2.7		
合計		1632	100.0		

**Q7\_1) 必修・選択単位制度や卒業要件(以外)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	167	10.2	10.9	10.9
	あまり指導して欲しくない	213	13.1	13.9	24.8
	やや指導して欲しい	569	34.9	37.1	61.9
	指導して欲しい	585	35.8	38.1	100.0
	合計	1534	94.0	100.0	
欠損値	無回答	98	6.0		
合計		1632	100.0		

**Q7\_2) 履修登録の具体的な方法(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	152	9.3	9.6	9.6
	あまり指導して欲しくない	205	12.6	13.0	22.6
	やや指導して欲しい	570	34.9	36.1	58.6
	指導して欲しい	654	40.1	41.4	100.0
	合計	1581	96.9	100.0	
欠損値	無回答	51	3.1		
合計		1632	100.0		

**Q7\_2) 履修登録の具体的な方法(以外)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	176	10.8	11.5	11.5
	あまり指導して欲しくない	224	13.7	14.6	26.0
	やや指導して欲しい	549	33.6	35.7	61.8
	指導して欲しい	587	36.0	38.2	100.0
	合計	1536	94.1	100.0	
欠損値	無回答	96	5.9		
合計		1632	100.0		



**Q7\_3) 学内施設・設備の利用方法(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	194	11.9	12.3	12.3
	あまり指導して欲しくない	327	20.0	20.8	33.1
	やや指導して欲しい	648	39.7	41.1	74.2
	指導して欲しい	406	24.9	25.8	100.0
	合計	1575	96.5	100.0	
欠損値	無回答	57	3.5		
合計		1632	100.0		

**Q7\_3) 学内施設・設備の利用方法(以外)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	215	13.2	14.0	14.0
	あまり指導して欲しくない	326	20.0	21.3	35.3
	やや指導して欲しい	568	34.8	37.1	72.4
	指導して欲しい	423	25.9	27.6	100.0
	合計	1532	93.9	100.0	
欠損値	無回答	100	6.1		
合計		1632	100.0		

**Q7\_4) 利用できる制度(留学)(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	149	9.1	9.4	9.4
	あまり指導して欲しくない	244	15.0	15.5	24.9
	やや指導して欲しい	570	34.9	36.1	61.0
	指導して欲しい	615	37.7	39.0	100.0
	合計	1578	96.7	100.0	
欠損値	無回答	54	3.3		
合計		1632	100.0		

Q7\_4) 利用できる制度(留学)(以外)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	160	9.8	10.4	10.4
	あまり指導して欲しくない	237	14.5	15.4	25.9
	やや指導して欲しい	506	31.0	33.0	58.8
	指導して欲しい	632	38.7	41.2	100.0
	合計	1535	94.1	100.0	
欠損値	無回答	97	5.9		
合計		1632	100.0		

Q7\_5) 利用できるサービス(就職相談)(授業)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	140	8.6	8.9	8.9
	あまり指導して欲しくない	230	14.1	14.7	23.6
	やや指導して欲しい	555	34.0	35.4	59.0
	指導して欲しい	644	39.5	41.0	100.0
	合計	1569	96.1	100.0	
欠損値	無回答	63	3.9		
合計		1632	100.0		

Q7\_5) 利用できるサービス(就職相談)(以外)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	139	8.5	9.0	9.0
	あまり指導して欲しくない	205	12.6	13.3	22.4
	やや指導して欲しい	516	31.6	33.5	55.9
	指導して欲しい	679	41.6	44.1	100.0
	合計	1539	94.3	100.0	
欠損値	無回答	93	5.7		
合計		1632	100.0		

**Q7\_6) 心理相談・カウンセリングの利用方法(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	268	16.4	17.1	17.1
	あまり指導して欲しくない	460	28.2	29.4	46.5
	やや指導して欲しい	527	32.3	33.7	80.2
	指導して欲しい	309	18.9	19.8	100.0
	合計	1564	95.8	100.0	
欠損値	無回答	68	4.2		
合計		1632	100.0		

**Q7\_6) 心理相談・カウンセリングの利用方法(以外)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	249	15.3	16.1	16.1
	あまり指導して欲しくない	354	21.7	22.9	39.1
	やや指導して欲しい	567	34.7	36.7	75.8
	指導して欲しい	373	22.9	24.2	100.0
	合計	1543	94.5	100.0	
欠損値	無回答	89	5.5		
合計		1632	100.0		

**Q7\_7) セクシャル・ハラスメントの相談方法(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	398	24.4	25.5	25.5
	あまり指導して欲しくない	486	29.8	31.2	56.7
	やや指導して欲しい	458	28.1	29.4	86.1
	指導して欲しい	216	13.2	13.9	100.0
	合計	1558	95.5	100.0	
欠損値	無回答	74	4.5		
合計		1632	100.0		

**Q7\_7) セクシャル・ハラスメントの相談方法(以外)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	351	21.5	22.9	22.9
	あまり指導して欲しくない	379	23.2	24.8	47.7
	やや指導して欲しい	516	31.6	33.7	81.4
	指導して欲しい	285	17.5	18.6	100.0
	合計	1531	93.8	100.0	
欠損値	無回答	101	6.2		
合計		1632	100.0		

**Q7\_8) 学習上の問題に関する相談方法(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	139	8.5	8.9	8.9
	あまり指導して欲しくない	261	16.0	16.6	25.5
	やや指導して欲しい	661	40.5	42.1	67.6
	指導して欲しい	509	31.2	32.4	100.0
	合計	1570	96.2	100.0	
欠損値	無回答	62	3.8		
合計		1632	100.0		

**Q7\_8) 学習上の問題に関する相談方法(以外)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	195	11.9	12.7	12.7
	あまり指導して欲しくない	280	17.2	18.2	30.9
	やや指導して欲しい	614	37.6	39.9	70.8
	指導して欲しい	450	27.6	29.2	100.0
	合計	1539	94.3	100.0	
欠損値	無回答	93	5.7		
合計		1632	100.0		

**Q7\_9) 交友関係の築き方(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	500	30.6	31.9	31.9
	あまり指導して欲しくない	478	29.3	30.5	62.5
	やや指導して欲しい	398	24.4	25.4	87.9
	指導して欲しい	189	11.6	12.1	100.0
	合計	1565	95.9	100.0	
欠損値	無回答	67	4.1		
合計		1632	100.0		

**Q7\_9) 交友関係の築き方(以外)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	479	29.4	31.0	31.0
	あまり指導して欲しくない	444	27.2	28.7	59.7
	やや指導して欲しい	410	25.1	26.5	86.3
	指導して欲しい	212	13.0	13.7	100.0
	合計	1545	94.7	100.0	
欠損値	無回答	87	5.3		
合計		1632	100.0		

**Q7\_10) 教員との接し方(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	334	20.5	21.3	21.3
	あまり指導して欲しくない	406	24.9	25.9	47.1
	やや指導して欲しい	558	34.2	35.5	82.7
	指導して欲しい	272	16.7	17.3	100.0
	合計	1570	96.2	100.0	
欠損値	無回答	62	3.8		
合計		1632	100.0		

Q7\_10 教員との接し方(以外)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	374	22.9	24.3	24.3
	あまり指導して欲しくない	416	25.5	27.0	51.3
	やや指導して欲しい	496	30.4	32.2	83.5
	指導して欲しい	254	15.6	16.5	100.0
	合計	1540	94.4	100.0	
欠損値	無回答	92	5.6		
合計		1632	100.0		

Q7\_11 キャンパスのルール(授業)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	336	20.6	21.4	21.4
	あまり指導して欲しくない	425	26.0	27.1	48.5
	やや指導して欲しい	553	33.9	35.3	83.8
	指導して欲しい	254	15.6	16.2	100.0
	合計	1568	96.1	100.0	
欠損値	無回答	64	3.9		
合計		1632	100.0		

Q7\_11 キャンパスのルール(以外)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	324	19.9	21.0	21.0
	あまり指導して欲しくない	398	24.4	25.8	46.8
	やや指導して欲しい	529	32.4	34.3	81.1
	指導して欲しい	291	17.8	18.9	100.0
	合計	1542	94.5	100.0	
欠損値	無回答	90	5.5		
合計		1632	100.0		

**Q7\_12) 飲酒・喫煙の健康への影響(授業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	428	26.2	27.3	27.3
	あまり指導して欲しくない	428	26.2	27.3	54.6
	やや指導して欲しい	426	26.1	27.2	81.8
	指導して欲しい	285	17.5	18.2	100.0
	合計	1567	96.0	100.0	
欠損値	無回答	65	4.0		
合計		1632	100.0		

**Q7\_12) 飲酒・喫煙の健康への影響(以外)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	指導して欲しくない	406	24.9	26.3	26.3
	あまり指導して欲しくない	361	22.1	23.4	49.6
	やや指導して欲しい	442	27.1	28.6	78.3
	指導して欲しい	336	20.6	21.7	100.0
	合計	1545	94.7	100.0	
欠損値	無回答	87	5.3		
合計		1632	100.0		

**Q8\_1) 雑誌論文などを読む**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	678	41.5	42.1	42.1
	あまりしていない	487	29.8	30.2	72.3
	たまにしている	359	22.0	22.3	94.6
	日常的にしている	87	5.3	5.4	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

### Q8\_2) 図書館を利用する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	301	18.4	18.7	18.7
	あまりしていない	371	22.7	23.0	41.7
	たまにしている	642	39.3	39.9	81.6
	日常的にしている	297	18.2	18.4	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

### Q8\_3) 辞書を活用する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	167	10.2	10.4	10.4
	あまりしていない	275	16.9	17.1	27.4
	たまにしている	630	38.6	39.1	66.5
	日常的にしている	539	33.0	33.5	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

### Q8\_4) 教科書以外の英語の文献を読む

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	745	45.6	46.4	46.4
	あまりしていない	468	28.7	29.1	75.5
	たまにしている	300	18.4	18.7	94.2
	日常的にしている	94	5.8	5.8	100.0
	合計	1607	98.5	100.0	
欠損値	無回答	25	1.5		
合計		1632	100.0		



**Q8\_5) 新聞の政治・経済・国際面を読む**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	556	34.1	34.6	34.6
	あまりしていない	498	30.5	31.0	65.6
	たまにしている	413	25.3	25.7	91.3
	日常的にしている	139	8.5	8.7	100.0
	合計	1606	98.4	100.0	
欠損値	無回答	26	1.6		
合計		1632	100.0		

**Q8\_6) 授業での資料を整理する**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	164	10.0	10.2	10.2
	あまりしていない	366	22.4	22.7	32.9
	たまにしている	717	43.9	44.5	77.4
	日常的にしている	364	22.3	22.6	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

**Q8\_7) ノートは、見出しの工夫をする**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	272	16.7	16.9	16.9
	あまりしていない	524	32.1	32.5	49.4
	たまにしている	533	32.7	33.1	82.5
	日常的にしている	281	17.2	17.5	100.0
	合計	1610	98.7	100.0	
欠損値	無回答	22	1.3		
合計		1632	100.0		

**Q8\_8) 黒板に書かないことでもノートをとる**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	270	16.5	16.8	16.8
	あまりしていない	382	23.4	23.7	40.5
	たまにしている	595	36.5	37.0	77.5
	日常的にしている	362	22.2	22.5	100.0
	合計	1609	98.6	100.0	
欠損値	無回答	23	1.4		
合計		1632	100.0		

**Q8\_9) 授業の課題はきちんと提出する**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	47	2.9	2.9	2.9
	あまりしていない	160	9.8	9.9	12.8
	たまにしている	403	24.7	25.0	37.9
	日常的にしている	1001	61.3	62.1	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

**Q8\_10) 授業の予習をする**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	508	31.1	31.6	31.6
	あまりしていない	540	33.1	33.6	65.2
	たまにしている	445	27.3	27.7	92.8
	日常的にしている	115	7.0	7.2	100.0
	合計	1608	98.5	100.0	
欠損値	無回答	24	1.5		
合計		1632	100.0		

**Q8\_11) 授業の復習をする**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	407	24.9	25.3	25.3
	あまりしていない	569	34.9	35.4	60.7
	たまにしている	509	31.2	31.7	92.4
	日常的にしている	123	7.5	7.6	100.0
	合計	1608	98.5	100.0	
欠損値	無回答	24	1.5		
合計		1632	100.0		

**Q8\_12) 試験前に授業ノトを読む**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	144	8.8	9.0	9.0
	あまりしていない	195	11.9	12.1	21.1
	たまにしている	456	27.9	28.4	49.4
	日常的にしている	813	49.8	50.6	100.0
	合計	1608	98.5	100.0	
欠損値	無回答	24	1.5		
合計		1632	100.0		

**Q8\_13) 試験前に教科書・参考書を読む**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	112	6.9	7.0	7.0
	あまりしていない	214	13.1	13.3	20.3
	たまにしている	501	30.7	31.2	51.5
	日常的にしている	780	47.8	48.5	100.0
	合計	1607	98.5	100.0	
欠損値	無回答	25	1.5		
合計		1632	100.0		

**Q8\_14) 試験前に補足的な調べものをする**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	207	12.7	12.9	12.9
	あまりしていない	440	27.0	27.4	40.3
	たまにしている	542	33.2	33.7	74.0
	日常的にしている	418	25.6	26.0	100.0
	合計	1607	98.5	100.0	
欠損値	無回答	25	1.5		
合計		1632	100.0		

**Q8\_15) 試験前に授業内容をまとめる**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	173	10.6	10.8	10.8
	あまりしていない	329	20.2	20.5	31.2
	たまにしている	589	36.1	36.7	67.9
	日常的にしている	516	31.6	32.1	100.0
	合計	1607	98.5	100.0	
欠損値	無回答	25	1.5		
合計		1632	100.0		

**Q8\_16) 授業に遅刻する**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	609	37.3	37.9	37.9
	あまりしていない	352	21.6	21.9	59.8
	たまにしている	530	32.5	33.0	92.7
	日常的にしている	117	7.2	7.3	100.0
	合計	1608	98.5	100.0	
欠損値	無回答	24	1.5		
合計		1632	100.0		

Q8\_17) 授業中以外に教員とコミュニケーションをとる

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	530	32.5	32.9	32.9
	あまりしていない	582	35.7	36.1	69.0
	たまにしている	409	25.1	25.4	94.4
	日常的にしている	90	5.5	5.6	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

Q8\_18) アルバイトをする

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	656	40.2	40.7	40.7
	あまりしていない	118	7.2	7.3	48.0
	たまにしている	280	17.2	17.4	65.4
	日常的にしている	558	34.2	34.6	100.0
	合計	1612	98.8	100.0	
欠損値	無回答	20	1.2		
合計		1632	100.0		

Q8\_19) ボランティア活動をする

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	1061	65.0	65.9	65.9
	あまりしていない	292	17.9	18.1	84.0
	たまにしている	178	10.9	11.0	95.0
	日常的にしている	80	4.9	5.0	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

Q8\_20) クラブ・サークル活動を行う

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	729	44.7	45.3	45.3
	あまりしていない	166	10.2	10.3	55.7
	たまにしている	275	16.9	17.1	72.8
	日常的にしている	438	26.8	27.2	100.0
	合計	1608	98.5	100.0	
欠損値	無回答	24	1.5		
合計		1632	100.0		

Q8\_21) 学生同士の研究会に参加する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	1270	77.8	78.9	78.9
	あまりしていない	202	12.4	12.6	91.5
	たまにしている	101	6.2	6.3	97.8
	日常的にしている	36	2.2	2.2	100.0
	合計	1609	98.6	100.0	
欠損値	無回答	23	1.4		
合計		1632	100.0		

Q8\_22) 起床・就寝時間など規則正しい生活

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	480	29.4	29.8	29.8
	あまりしていない	496	30.4	30.8	60.6
	たまにしている	353	21.6	21.9	82.5
	日常的にしている	282	17.3	17.5	100.0
	合計	1611	98.7	100.0	
欠損値	無回答	21	1.3		
合計		1632	100.0		

**Q8\_23) 約束時間を守る**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	81	5.0	5.0	5.0
	あまりしていない	206	12.6	12.8	17.8
	たまにしている	478	29.3	29.7	47.6
	日常的にしている	843	51.7	52.4	100.0
	合計	1608	98.5	100.0	
欠損値	無回答	24	1.5		
合計		1632	100.0		

**Q8\_24) 授業がない日も大学に来る**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	959	58.8	59.6	59.6
	あまりしていない	233	14.3	14.5	74.1
	たまにしている	288	17.6	17.9	92.0
	日常的にしている	128	7.8	8.0	100.0
	合計	1608	98.5	100.0	
欠損値	無回答	24	1.5		
合計		1632	100.0		

**Q8\_25) 先生や目上の人には敬語を使う**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	64	3.9	4.0	4.0
	あまりしていない	161	9.9	10.0	14.0
	たまにしている	380	23.3	23.7	37.8
	日常的にしている	997	61.1	62.2	100.0
	合計	1602	98.2	100.0	
欠損値	無回答	30	1.8		
合計		1632	100.0		

Q8\_26) 授業のコンパ'には参加する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	692	42.4	43.8	43.8
	あまりしていない	362	22.2	22.9	66.8
	たまにしている	365	22.4	23.1	89.9
	日常的にしている	160	9.8	10.1	100.0
	合計	1579	96.8	100.0	
欠損値	無回答	53	3.2		
合計		1632	100.0		

Q8\_27) 授業をアルバイト、サークルより優先する

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していない	224	13.7	14.0	14.0
	あまりしていない	204	12.5	12.8	26.8
	たまにしている	366	22.4	22.9	49.6
	日常的にしている	806	49.4	50.4	100.0
	合計	1600	98.0	100.0	
欠損値	無回答	32	2.0		
合計		1632	100.0		



## Q9\_1

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	37	2.3	2.3	2.3
BM学部	1	.1	.1	2.3
ビジネスマネジメント学部	2	.1	.1	2.5
環境システム工学部	1	.1	.1	2.5
環境学部	6	.4	.4	2.9
機械学部	5	.3	.3	3.2
機械工学部	4	.2	.2	3.4
経営学部	1	.1	.1	3.5
経営政策学部	216	13.2	13.2	16.7
経済学部	162	9.9	9.9	26.7
健康栄養学部	1	.1	.1	26.7
健康科学学部	46	2.8	2.8	29.5
健康科学部	47	2.9	2.9	32.4
健康生活科学部	1	.1	.1	32.5
健康生活学部	6	.4	.4	32.8
工学部	235	14.4	14.4	47.2
国際学部	100	6.1	6.1	53.4
国際文化学部	149	9.1	9.1	62.5
国際文学部	1	.1	.1	62.6
神学部	1	.1	.1	62.6
人間科学部	1	.1	.1	62.7
人間学部	17	1.0	1.0	63.7
人間系学部	1	.1	.1	63.8
生活科学部	2	.1	.1	63.9
電気工学部	2	.1	.1	64.0
文学部	490	30.0	30.0	94.1
法学部	96	5.9	5.9	99.9
理工学部	1	.1	.1	100.0
合計	1632	100.0	100.0	

## Q9\_2

	度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	75	4.6	4.6	4.6
ビジネスマネジメント学科	219	13.4	13.4	18.0
栄養学科	1	.1	.1	18.1
英語英米文学科	49	3.0	3.0	21.1
英語学科	1	.1	.1	21.1
英文学科	27	1.7	1.7	22.8
英米文学科	7	.4	.4	23.2
環境システム工学科	20	1.2	1.2	24.4
環境学科	3	.2	.2	24.6
機械システム科	1	.1	.1	24.7
機械システム学科	21	1.3	1.3	26.0
機械システム工学科	37	2.3	2.3	28.2
機械学科	2	.1	.1	28.4
機械工学科	53	3.2	3.2	31.6
教育学科	68	4.2	4.2	35.8
経営情報学科	10	.6	.6	36.4
経営情報工学科	23	1.4	1.4	37.8
経済学科	148	9.1	9.1	46.9
経済情報工学科	1	.1	.1	46.9
健康栄養学科	11	.7	.7	47.6
健康心理学科	91	5.6	5.6	53.2
健康生活学科	91	5.6	5.6	58.8
健心学科	4	.2	.2	59.0
言語コミュニケーション学科	56	3.4	3.4	62.4
工学科	2	.1	.1	62.6
国学科	1	.1	.1	62.6
国際学科	98	6.0	6.0	68.6
国際文化学科	133	8.1	8.1	76.8
国際文学科	1	.1	.1	76.8
人間環境デザイン学科	3	.2	.2	77.0
人間情報学科	5	.3	.3	77.3
人間情報工学科	16	1.0	1.0	78.3
人間生活学科	1	.1	.1	78.4
総合学科	1	.1	.1	78.4
総合文化学科	36	2.2	2.2	80.6
総合文学科	9	.6	.6	81.2
中国語中国文学科	35	2.1	2.1	83.3
中国文学科	3	.2	.2	83.5
電気・電子学科	1	.1	.1	83.6
電気学科	4	.2	.2	83.8
電気工学科	16	1.0	1.0	84.8
電気電子工学科	1	.1	.1	84.9
電子学科	4	.2	.2	85.1
電子工学科	15	.9	.9	86.0
土木工学科	25	1.5	1.5	87.6
文化学科	101	6.2	6.2	93.8
文化人類学科	8	.5	.5	94.2
法学科	17	1.0	1.0	95.3
法律学科	69	4.2	4.2	99.5
臨床心理学科	8	.5	.5	100.0
合計	1632	100.0	100.0	

Q10 性別

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男	912	55.9	56.4	56.4
	女	704	43.1	43.6	100.0
	合計	1616	99.0	100.0	
欠損値	無回答	16	1.0		
合計		1632	100.0		

Q11 自宅生か下宿生

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	自宅生	1015	62.2	62.9	62.9
	下宿生	598	36.6	37.1	100.0
	合計	1613	98.8	100.0	
欠損値	無回答	19	1.2		
合計		1632	100.0		

Q12 志望順

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	第一志望	866	53.1	53.8	53.8
	第一志望以外	743	45.5	46.2	100.0
	合計	1609	98.6	100.0	
欠損値	無回答	23	1.4		
合計		1632	100.0		

Q13\_1 大学入試センター試験受験

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	はい	653	40.0	40.6	40.6
	いいえ	955	58.5	59.4	100.0
	合計	1608	98.5	100.0	
欠損値	無回答	24	1.5		
合計		1632	100.0		

### Q13\_2 入試の種類

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	一般入試	629	38.5	39.5	39.5
	指定校推薦	262	16.1	16.4	55.9
	公募制推薦	412	25.2	25.9	81.8
	AO選考	166	10.2	10.4	92.2
	内部進学	34	2.1	2.1	94.4
	スポーツ推薦	12	.7	.8	95.1
	その他	78	4.8	4.9	100.0
	合計	1593	97.6	100.0	
欠損値	無回答	39	2.4		
合計		1632	100.0		

### Q14 現役・浪人

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	現役	1347	82.5	86.2	86.2
	一浪	153	9.4	9.8	96.0
	二浪	19	1.2	1.2	97.2
	その他	44	2.7	2.8	100.0
	合計	1563	95.8	100.0	
欠損値	無回答	69	4.2		
合計		1632	100.0		

### Q15 卒業した高校の学科

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	普通科	1299	79.6	82.4	82.4
	商業・工業・農業科	150	9.2	9.5	91.9
	理数・国際・外国語科	62	3.8	3.9	95.8
	総合学科	31	1.9	2.0	97.8
	大検・海外の高校・その他	35	2.1	2.2	100.0
	合計	1577	96.6	100.0	
欠損値	無回答	55	3.4		
合計		1632	100.0		

### Q16 4年制大学に進学する数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	4分の3以上	701	43.0	44.6	44.6
	半分以上	476	29.2	30.3	74.9
	4分の1程度	196	12.0	12.5	87.4
	ほとんどいなかった	109	6.7	6.9	94.3
	わからない・その他	89	5.5	5.7	100.0
	合計	1571	96.3	100.0	
欠損値	無回答	61	3.7		
	合計	1632	100.0		

### Q17 高校での成績

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	上位の方	342	21.0	21.8	21.8
	の中上ぐらい	447	27.4	28.5	50.2
	中ぐらい	379	23.2	24.1	74.3
	の中下ぐらい	170	10.4	10.8	85.2
	下位の方	195	11.9	12.4	97.6
	わからない・覚えていない	38	2.3	2.4	100.0
	合計	1571	96.3	100.0	
欠損値	無回答	61	3.7		
	合計	1632	100.0		

### Q18 現代国語(高校での学業)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	得意	556	34.1	36.1	36.1
	普通	634	38.8	41.1	77.2
	不得意	325	19.9	21.1	98.2
	受講せず	27	1.7	1.8	100.0
	合計	1542	94.5	100.0	
欠損値	無回答	90	5.5		
	合計	1632	100.0		

**Q18 現代国語(受験勉強)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	した	651	39.9	43.1	43.1
	少し	329	20.2	21.8	64.8
	しない	532	32.6	35.2	100.0
	合計	1512	92.6	100.0	
欠損値	無回答	120	7.4		
合計		1632	100.0		

**Q18 英語(高校での学業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	得意	381	23.3	24.6	24.6
	普通	540	33.1	34.9	59.5
	不得意	610	37.4	39.4	99.0
	受講せず	16	1.0	1.0	100.0
	合計	1547	94.8	100.0	
欠損値	無回答	85	5.2		
合計		1632	100.0		

**Q18 英語(受験勉強)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	した	899	55.1	59.3	59.3
	少し	259	15.9	17.1	76.4
	しない	358	21.9	23.6	100.0
	合計	1516	92.9	100.0	
欠損値	無回答	116	7.1		
合計		1632	100.0		

**Q18 数学 (高校での学業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	得意	360	22.1	23.4	23.4
	普通	416	25.5	27.0	50.4
	不得意	632	38.7	41.0	91.4
	受講せず	132	8.1	8.6	100.0
	合計	1540	94.4	100.0	
欠損値	無回答	92	5.6		
合計		1632	100.0		

**Q18 数学 (受験勉強)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	した	420	25.7	28.6	28.6
	少し	180	11.0	12.3	40.9
	しない	867	53.1	59.1	100.0
	合計	1467	89.9	100.0	
欠損値	無回答	165	10.1		
合計		1632	100.0		

**Q18 世界史(高校での学業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	得意	327	20.0	21.3	21.3
	普通	477	29.2	31.1	52.4
	不得意	438	26.8	28.6	81.0
	受講せず	291	17.8	19.0	100.0
	合計	1533	93.9	100.0	
欠損値	無回答	99	6.1		
合計		1632	100.0		

**Q18 世界史(受験勉強)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	した	226	13.8	15.8	15.8
	少し	145	8.9	10.2	26.0
	しない	1055	64.6	74.0	100.0
	合計	1426	87.4	100.0	
欠損値	無回答	206	12.6		
合計		1632	100.0		

**Q18 日本史(高校での学業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	得意	322	19.7	21.0	21.0
	普通	411	25.2	26.9	47.9
	不得意	340	20.8	22.2	70.1
	受講せず	457	28.0	29.9	100.0
	合計	1530	93.8	100.0	
欠損値	無回答	102	6.3		
合計		1632	100.0		

**Q18 日本史(受験勉強)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	した	295	18.1	21.3	21.3
	少し	151	9.3	10.9	32.2
	しない	941	57.7	67.8	100.0
	合計	1387	85.0	100.0	
欠損値	無回答	245	15.0		
合計		1632	100.0		

**Q18 物理 (高校での学業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	得意	120	7.4	7.8	7.8
	普通	290	17.8	19.0	26.8
	不得意	415	25.4	27.1	53.9
	受講せず	705	43.2	46.1	100.0
	合計	1530	93.8	100.0	
欠損値	無回答	102	6.3		
合計		1632	100.0		

**Q18 物理 (受験勉強)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	した	165	10.1	12.3	12.3
	少し	120	7.4	8.9	21.2
	しない	1058	64.8	78.8	100.0
	合計	1343	82.3	100.0	
欠損値	無回答	289	17.7		
合計		1632	100.0		

**Q18 化学 (高校での学業)**

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	得意	181	11.1	11.8	11.8
	普通	391	24.0	25.5	37.3
	不得意	616	37.7	40.2	77.4
	受講せず	346	21.2	22.6	100.0
	合計	1534	94.0	100.0	
欠損値	無回答	98	6.0		
合計		1632	100.0		



Q18 化学 (受験勉強)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	した	147	9.0	10.5	10.5
	少し	138	8.5	9.8	20.3
	しない	1119	68.6	79.7	100.0
	合計	1404	86.0	100.0	
欠損値	無回答	228	14.0		
合計		1632	100.0		

Q18 生物 (高校での学業)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	得意	311	19.1	20.3	20.3
	普通	447	27.4	29.2	49.5
	不得意	368	22.5	24.0	73.5
	受講せず	405	24.8	26.5	100.0
	合計	1531	93.8	100.0	
欠損値	無回答	101	6.2		
合計		1632	100.0		

Q18 生物 (受験勉強)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	した	183	11.2	13.1	13.1
	少し	130	8.0	9.3	22.4
	しない	1087	66.6	77.6	100.0
	合計	1400	85.8	100.0	
欠損値	無回答	232	14.2		
合計		1632	100.0		

Q19 最終学歴(父)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	高等学校卒	506	31.0	32.9	32.9
	短大・高専・専門学校卒	100	6.1	6.5	39.4
	大学卒	707	43.3	45.9	85.3
	大学院修了	32	2.0	2.1	87.4
	その他・わからない	194	11.9	12.6	100.0
	合計	1539	94.3	100.0	
欠損値	無回答	93	5.7		
合計		1632	100.0		

Q19 最終学歴(母)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	高等学校卒	628	38.5	40.8	40.8
	短大・高専・専門学校卒	429	26.3	27.9	68.7
	大学卒	307	18.8	19.9	88.6
	大学院修了	10	.6	.6	89.3
	その他・わからない	165	10.1	10.7	100.0
	合計	1539	94.3	100.0	
欠損値	無回答	93	5.7		
	合計	1632	100.0		



日本私立大学協会附置私学高等教育研究所  
研究プロジェクト報告書  
『私立大学における一年次教育の実際』

平成 17(2005)年 3 月

発行 日本私立大学協会附置私学高等教育研究所  
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4 2 11  
第二星光ビル 2 階  
電話 : 03-5211-5090  
FAX : 03-5211-5224

印刷 社会保険研究所